

年 表 (第二版)

(1877~2011)

編集

日本物理学会

物理学史資料委員会

目 次

日本物理学会『年表（第二版）』の公開に際して	小長谷大介	1
日本物理学会年表の作成にあたって	辻 哲夫	2
編集方針の説明		4
日本物理学会年表（第二版）作成にあたって	小長谷大介	5
編集方針の説明（第二版）		6
東京数学会社（1877～1884）・東京数学物理学会（1884～1918）		
日本数学物理学会（1919～1945）		7
日本物理学会（1946～2011）		27

《お断り》

今回学会ホームページ上に公開するのは、冊子で刊行した第二版の内、1877-1926年の「物理学会」、1927-1945年の「物理学と社会」、1946-2011年の「物理学会関係」の部分である。

公開する『年表』のページ番号は、既刊冊子体の『年表(第二版)』との整合性を保たせるため、冊子体のページ番号を踏襲したため、抜粋による欠番が見られることをあらかじめ断っておく。

日本物理学会『年表（第二版）』の公開に際して

日本物理学会物理学史資料委員会委員長
小長谷大介

日本物理学会の物理学史資料委員会は、2014年3月に学会の『年表(第二版)』を刊行した。学会創立50周年記念事業において『年表(1877-1995)』が1996年に刊行された後、1996-2011年の「物理学会関係」と「社会・文化」を加えたものが第二版の『年表(1877-2011)』であった。2011年3月11日に日本を襲った東北地方太平洋沖地震とそれにもなう甚大な被害や大事故が、日本だけにとどまらず世界のその後の社会に転換点をもたらしたことを受けて、第二版では2011年までを範囲とした。今後、当委員会はポスト3.11の2012年以降の出来事を加えて、新しい『年表』の刊行を準備している。

それに先立ち、冊子で刊行した第二版の内、1877-1926年の「物理学会」、1927-1945年の「物理学と社会」、1946-2011年の「物理学会関係」の部分を学会ホームページで公開する。なお、今回ウェブ上で公開する『年表』のページ番号は、既刊の『年表(第二版)』にもとづくため、抜粋による欠番が見られることをあらかじめ断っておく。いずれにせよ、『年表』に対する意見や指摘があれば、ぜひ学会に連絡をいただきたい。

当委員会では、『年表』にかかる作業グループ(難波忠清、岡本拓司、並木雅俊、所澤潤)が設けられ、『年表』の訂正や今後の刊行の準備を進めているが、以下の物理学史資料委員会メンバーの責任において『年表』は作成されている。

有賀暢迪、稲葉肇、岡本拓司、岡本祐幸、興治文子、小長谷大介、佐々木孝彦、
所澤潤、高岩義信、永平幸雄、並木雅俊、難波忠清、林春雄、村尾美緒

2019年9月

日本物理学会年表の作成にあたって

日本物理学会創立 50 周年記念事業実行委員会委員長
辻 哲夫

物理学に関わる専門家集団をわれわれは物理学会と呼んでいる。日本においてそのような集団が、文字どおり自立したのは 50 年前のことである。1946(昭和 21)年 4 月に日本物理学会は創立された。だから今年には日本物理学会創立 50 周年記念の年に当たる。その記念事業の一環をなすものとして、この年表が作成された。この 50 年(1946-1995)の歴史の中で、日本物理学会がどのような変遷を経てきたのか、学会記事を中心にその足取りを概観しておこうと考えたのである。

ところで日本物理学会には、その前身として日本数学物理学会があり、そこから数学とわかれて分立したという来歴がある。したがって前身までを含めて歳月を数えることもできるわけで、そのつもりなら 1996 年で、50 周年どころか 119 周年ということにもなる。日本数学物理学会が 1877(明治 10)年に東京数学会社として発足しており、そこを起点として考えることもできるからである。1977(昭和 52)年に、日本物理学会創立 100 周年を記念してあれこれの行事が行なわれたのは、その線に沿った判断の結果にはかならない。こうして二重の観点が成立する歴史的推移には、明治以来西欧文化を受容し独自の国造りを進めてきた日本の学問の事情が反映されているにちがいない。その点を考えてみる手がかりとして、日本物理学会の創立にいたるまでの学会変遷の跡を、大まかにしるふりかえてみることも必要であろう。

1877 年、東京数学会社が設立されたとき、そこに集まった人たち(117 名)の大半は和算家であったし、西欧数学の知識になじみ始めた洋算家がそれを補足したにとどまり、本来の数学者といえるような専門家はまだ育つてはいなかった。まして物理学の方は、その専門家を育てるような学問的基盤がなかったため、この数学会社に参加したのは洋行帰りの 2,3 名にすぎなかった。1884(明治 17)年に東京数学物理学会と改名、改組され、ここで初めて物理学が表に名前を出すことになる。このときには和算家の多くがすでに脱落し、総数 82 名の中の 20 名余が物理学関係者であり、その内 1877 年以後新入会の 18 名は、東京数学会社と同年に創立された東京大学の物理学科の卒業生であった。物理学の専門教育がようやく実を結び始め、物理学者の存在が少しは認知され始めていたことがわかる。

その後 30 年余たった 1918(大正 7)年に日本数学物理学会と改称されるにいたり、全国的な規模の学会となったことが確認された。帝国大学の物理学科が東京だけでなく、京都、東北(仙台)と増設され、数学・物理学関係の専門家は全国的な広がりを見せていた。この頃には物理学関係の会員の方が数学関係の会員をかなり上回っていたはずである。ついでに補足しておけば、日本の物理学は昭和期に入り 1930 年代に、欧米での現代的変革の勢いにもあおられて活気を帯び、質・量ともに活発な学問分野として育ってゆくことになる。

さて日本数学物理学会が解散され、数学者と物理学者が別個の専門家集団を組むことになるのは、1945(昭和20)年12月、第二次世界大戦の終焉、日本の敗戦を契機にしている。国家の敗北、占領政策の遂行という大変動の渦中であつたから、学界の再編成、学会の専門分化などが起つても、さほど人目を引くほどの出来事ではなかつたのかもしれない。ともかく分裂はきわめてスムーズに進んだように見える。翌1946年に日本物理学会も、日本数学会もそれぞれに創立総会を開いて、明治以来の推移に区切りをつけることになった。

この年表の主眼は、むろんこれ以後のこと、日本物理学会の歴史的推移を点描することにおかれている。学会という人間集団、その複合体の動向を的確にとらえることはもとより容易なことではない。それはひとつの生命体のように生き続けてゆくが、いつも健康というわけにはゆかず、病に苦しんだり、怪我に悩まされたりしながらも活路を開いてゆく。しかしわれわれには、それらの状態をおりおり診断できるような術は与えられていない。できるのは、学会の中でいつどんな動きがあつたのかを、可能な限り細かくたどってみることだけである。幸いなことに物理学会の動きを記録した委員会、理事会、総会などの議事録や、学会誌が学会の書庫に整理保存されているので、それらを調査し記事を選定することができた。ただ年表の作成作業には時間が限られていて、これらの記録を存分に活用するところまでは手がとどかなかつた。改善には今後の機会に託すほかない。また学会の動向に着目するとはいえ、それがどのような歴史的状況の中で起つたのかを検討しうることが重要であろうし、その意味で広く物理学にまつわる学界の動きや、社会・文化の推移を伝える主要事項を選出併記することにも努めた。

前史となる東京数学会社、東京数学物理学会、日本数学物理学会の歴史的推移については要点を概観するだけにとどめた。そうはいうものの、この時期(明治・大正・昭和前半期)の学会の動向を記録した資料は、けつして十分には保存されていない。したがってもっと詳細な年表を望んだとしても、それはほとんど実現不可能のことである。今後とも学会史料など歴史的記録の保存には、いっそう力を尽くさねばならないと痛感させられる。

年表作成の作業を続けるにあたっては、理化学研究所図書館、お茶の水女子大学図書館、東京大学数理科学研究科図書室の方に資料の利用などで大変お世話になつた。深くお礼を申し上げる。また作業の順調な事務的遂行については、物理学会刊行委員会委員長伏見讓氏をはじめ物理学会事務局の方に貴重な御助力をいただいた。記して心からのお礼を申しておきたい。

なお年表作成の時代別、分野別の分担は以下のとおりである。

1877~1926(明治・大正期)	高田誠二
1927~1954(昭和2~昭和29)	辻 哲夫
1955~1964(昭和30~昭和39)	松田久子
1965~1995(昭和40~平成7)物理学会関係	矢崎裕二
1965~1995(昭和40~平成7)社会・文化	廣政直彦
物理教育関係資料	笠 耐

1996年11月

編集方針の説明

- 1) 日本物理学会の創立以前（1877～1945）について
 - a. 明治・大正期（1877～1926）は学会関係の事項を主にし、社会事象は補足的に加えるにとどめた。
 - b. 昭和前半期（1927～45）は、学会の動きを左右した戦争への推移など社会事象を広く取り入れた。
 - c. 年会などあったにちがいない事象でも、月・日・開催地のはっきりしないもので、除去した項目もある。今後調査して補足改善しなければならない点である。
- 2) 日本物理学会の創立以後（1946～95）について
 - a. 各年毎に見聞きとし、左頁に「物理学会関係」、右頁に「社会・文化」の項目を収めた。
 - b. 「物理学会関係」の頁では、物理学会そのものの動きを優先させ、これに関連するより広い学界での動きは2字下げで表示した。
- 3) 全体を通して
 - a. 事項の後の（ ）の中に、事後の推移、簡単な説明などが補足してある。
 - b. 月・日のはっきりしない事象は数字を一で表わしてある。[例 3.-]
 - c. 学術的会合（年会、分科会など）は、（ ）の中に会場・講演数を確認できた限り表示した。[例（東京帝大、講演224）]
 - d. 個人の研究業績は直接には取り上げなかった。項目が多すぎると、収録のための評価基準を定めることが困難なためである。かわりにノーベル賞、文化勲章、恩賜賞、学士院賞を物理学関係のものを中心に表示した。
- 4) 参考文献について
掲載事項を選定するにあたって、次のものを参照させていただいた。記してお礼を申し上げます。
 - 近代日本総合年表（岩波書店）
 - コンサイス科学年表（湯浅光朝，三省堂）
 - 朝日年鑑（朝日新聞社）
 - 通史・日本の科学技術，別巻・年表（学陽書房）

日本物理学会年表（第二版）作成にあたって

日本物理学会物理学史資料委員会委員長

小長谷 大介

日本物理学会は、1996年に学会創立50周年記念事業の一つとして、『年表(1877-1995)～歴史のなかの物理学会～』を発刊した。それから18年が経過し21世紀となった現在、国内外の科学技術政策の変化、ノーベル物理学賞の日本人の複数受賞、2011年3月11日の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の影響などもあり、物理学をとりまく状況はめまぐるしく変わってきている。こうした経過のなかで、1996年発刊の『年表(1877-1995)』の誤記を訂正し、1996年から2011年までの年表を新規に加えて、『年表(1877-1995)』の第二版を発刊することになった。この発刊が21世紀を見据えた日本物理学会のあり方を考える視座を与える基本作業の一部となることを期待している。

なお、『年表(1877-1995)』の執筆代表者だった辻哲夫氏(東海大学名誉教授、1928～2012)は既に2年前に逝去されており、当時の経緯・経験を詳しくお伺いする機会を失ってしまった。したがって、本年表は『年表(1877-1995)』の編集方針を基本的に踏襲しつつ、次の物理学史資料委員会メンバーの責任において作成された。

赤羽 明、植松英穂、岡本拓司、小長谷大介、小林典男、高岩義信、棚橋誠治、永平幸雄、並木雅俊、難波忠清、廣政直彦、松川 宏

2014年3月

編集方針の説明（第二版）

- 1) 『年表(1877～1995)』時代について
『年表(1877～1995)』の編集方針に準じ、誤記の訂正と若干の項目の追加に止めた。
- 2) 新規に加えた頁(1996～2011)について
 - a. 『年表(1877～1995)』において、「物理学会関係」の頁で2文字下げで表示していた広い学会での動きに関する項目は、2文字下げを採用していない。
 - b. 追悼の項目には、人名だけでなく生没年月日を知りうる範囲で加えた。
 - c. 受賞の項目については、『年表(1877～1995)』の編集方針に基本的に準じたが、ノーベル賞、文化勲章、恩賜賞、学士院賞に加えて、朝日賞などの物理学関係の受賞についても付加した。
- 3) 物理学論文選集の出版リストについて
『年表(1877～1995)』の発刊以後、2010年に選集の販売は終了したため、『年表(1877～1995)』にあった「品切れ年」の項目は削除した。
- 4) 参考文献について
『年表(1877～1995)』で挙げられた文献に加えて、次の文献も参照した。
『学制百年史』（文部省、1972年）
『近代日本総合年表』（岩波書店、第四版、2001年）
『新通史・日本の科学技術 別巻』（原書房、2011年）
『年表 昭和・平成史1926-2011』（岩波書店、2012年）

東京数学会社 (1877~1884)
東京数学物理学会 (1884~1918)
日本数学物理学会 (1919~1945)

物理学会

1877(明治 10)

- | | |
|------|--|
| 4.12 | 東京大学，創立（法・理・文・医の4学部，86.3，帝国大学となる）。 |
| 9.- | 東京数学会社，創立（総代は神田孝平と柳猶悦，編集は大村一秀，毎月第1土曜に湯島昌平館で集会，当初の常員55名）。 |
| 10.- | 定会，シェンデル（東大医の数学・理学教授），講義（11月も）。 |
| 11.- | 『東京数学会社雑誌』刊行開始（～84.5）。 |

1878(明治 11)

- | | |
|------|---------------------------------|
| 1.- | 『東京数学会社雑誌』，8月を除き月刊となる。 |
| 4.15 | 工部大学校開校（86.3，帝国大学工科大学となる）。 |
| 10.- | メンデンホール（米），来日し東大理で物理を担当（～81.6）。 |
| 10.- | ユーイング（英），来日し東大理で物理を担当（～83.6）。 |

1879(明治 12)

- | | |
|-------|-------------------------|
| 12.25 | 東大理の物理系学生，第1回ニュートン祭を催す。 |
|-------|-------------------------|

1881(明治 14)

- | | |
|-----|-----------------------|
| 6.4 | 東京数学会社，第1回紀年会（参加者25）。 |
|-----|-----------------------|

1882(明治 15)

- | | |
|-----|--------------------------|
| 7.- | 東大理の数学物理学星学科で最初の卒業生（3名）。 |
|-----|--------------------------|

1883(明治 16)

- | | |
|-----|--------------------------------------|
| 6.- | 物理学訳語会，発足（山川健次郎ほか）。 |
| 9.5 | ノット（英），来日し東大（86.から帝大）理で物理を担当（～91.6）。 |

1884(明治 17)

- | | |
|------|---|
| 4.28 | 菊池大麓，会の改組・改称案を配布。 |
| 5.3 | 東京数学会社，改組して東京数学物理学会とする動議（5.24，臨時会で可決。会則を定め，事務委員と委員長，編集委員，外国雑誌委員を選出することとし，任期はいずれも1年とした）。 |
| 6.7 | 紀年会（東大理，参加者24），委員長に村岡範為を選出（～85.5.2）。『東京数学会社雑誌』を67号で廃し新たに『東京数学物理学会記事』を刊行すると決議。 |

1885(明治 18)

- | | |
|------|---|
| 2.- | 『東京数学物理学会記事』（和文）巻1刊行（6.-に巻2）。後年，この月から1902.8までの逐次刊行物を『記事』第1期と呼ぶことになる。 |
| 5.2 | 年会（東大理），新委員長山川健次郎を選出（～86.5.1）。年会時の会員82。年会までの1年間（常会10回，臨時会1回）で報告25件。 |
| 10.- | 『東京数学物理学会記事』巻3（欧文と和文，ただし会合記録などはローマ字書き和文）刊行（なお，ローマ字つづりは，ButuriとButsuri，KijiとKiziなど，巻号により異なることがある）。 |

1886(明治 19)

3.2	東京大学、帝国大学となる(法・医・工・文・理の5分科大学).
5.1	年会(帝大予備門). 新委員長菊池大麓を選出(～87.5.7). 年会時の会員86. 年会までの1年間(常会10回, 年会1回)で講述報告27件.

1887(明治 20)

5.7	年会. 新委員長山川健次郎を選出(～88.5.5). 年会時の会員77. 年会までの1年間(常会9回, 年会1回)で講述17件.
-----	--

1888(明治 21)

5.5	年会. 新委員長菊池大麓を選出(～89.5.4).
6.1	東京天文台, 創立(1921.11.23, 理学部から独立し東京帝大附置).
12.21	東京数学物理学会, 『物理学術語和英仏独対訳字書』を刊行.

1889(明治 22)

2.11	大日本帝国憲法の発布.
5.4	年会(帝大理). 新委員長山川健次郎を選出(～90.5.3). 年会時の会員86. 年会までの1年間(常会10回, 年会1回)で講述報告15件.

1890(明治 23)

5.3	総会. 新委員長菊池大麓を選出(～91.5.10). 年会時の会員100. 総会までの1年間に常会6回.
-----	--

1891(明治 24)

3.24	度量衡法の公布(メートル系の単位を採用).
5.10	総会(東京天文台). 新委員長長尾壽を選出(～92.5.22). 年会時の会員103. 総会までの1年間(常会8回, 総会1回)で講述9件.
6.19	ノット, 帰国(東大理の物理教授はすべて日本人となる).
8.16	電気試験所, 創立(1970.7 電子技術総合研究所と改称).

1892(明治 25)

5.22	年会. 新委員長藤沢利喜太郎を選出(～93.5.14). 年会時の会員101. 年会までの1年間(常会8回, 年会1回)で講述13件.
------	---

1893(明治 26)

5.14	年会. 新委員長菊池大麓を選出(～94.5.13). 年会時の会員108. 年会までの1年間(通常会6回, 年会1回)で講述9件. この間, 印刷委託先の財政事情で『記事』刊行が遅滞.
11.4	常会. 藤沢の書面意見『『記事』会合記録のローマ字書き和文日本字書きに改めよ』は, 賛成3票, 反対4票で否決.

物理学会

1894(明治27)

5.13	年会(帝大理). 新委員長田中館愛橘を選出(～95.5.26). 年会時の会員115. 年会までの1年間(常会9回, 年会1回)で講述17件.
8.1	日清戦争(～95.4.17, 講和).

1895(明治28)

5.26	年会(帝大理). 新委員長菊池大麓を選出(～96.5.17). 年会時の会員118. 年会までの1年間(常会8回, 年会1回)で講述14件(物理7, 数学7).
------	--

1896(明治29)

1.18	通常会, 初めて傍聴を許す.
5.17	年会(帝大理). 新委員長寺尾壽を選出(～97.5.16). 年会時の会員126. 年会までの1年間(常会10回, 年会1回)で講述22件(物理1, 星学1, 数学10).

1897(明治30)

5.16	年会(小石川植物園). 新委員長菊池大麓を選出(～98.5.8).
6.22	京都帝国大学創立(法・医・文・理工の4分科大学, 従来の帝国大学は東京帝国大学と改称).

1898(明治31)

5.8	年会(東京帝大理科大学). 新委員長田中館愛橘を選出(～99.5.21).
-----	---------------------------------------

1899(明治32)

5.21	年会(東京帝大理). 新委員長長岡半太郎を選出(～00.5.20).
------	------------------------------------

1900(明治33)

5.20	年会(東京帝大理). 新委員長田中館愛橘を選出(～01.5.26). 年会までの1年間(常会9回, 年会1回)で講述11件.
8.6～12	第1回国際物理学会議(パリ).
—	『東京数学物理学会記事』の刊行, 不規則化.

1901(明治34)

5.26	年会(東京帝大理). 新委員長長岡半太郎を選出(～02.5.24). 講演1件. 年会時の会員176(うち外国人4). 年会までの1年間(常会9回, 年会1回)で講述18件(物理13, 星学2, 数学3).
6.—	冊子『事務概要』刊行開始(ほぼ毎月, 常会(通常会ともいう)の記録を掲載). 後年, この号から1918年末までの逐次刊行物を一括して『記事』第2期と呼ぶことになる.
7.5	東京帝大理科大学の物理学科, 理論物理学科と実験物理学科とに分離(～1918, 1919ふたたび統合).
10.—	『事務概要』に代え『報告』刊行開始(この号を第3と数え, 以下, ほぼ毎月, 講演要旨を掲載. 1903.4の第20までを『報告』第1巻と呼ぶ).
○	ノーベル物理学賞・レントゲン「X線の発見」.

1902(明治 35)

5.24	年会(東京帝大理). 講演と実験1件. 新委員長大森房吉を選出(～03.5.17). 年会までの1年間(通常会10回, 年会1回)で講述16件.
8.-	後年, この月以前の『記事』を『記事』第1期と呼ぶことになる.
○	ノーベル物理学賞・ローレンツ, ゼーマン「放射現象に対する磁場の影響の研究」.

1903(明治 36)

5.17	年会(東京帝大理). 新委員長藤沢利喜太郎を選出(～04.5.22). 年会までの1年間(通常会10回, 年会1回)で講述26件.
6.-	『報告』第2巻刊行開始(～05.12).
12.23	中央度量衡器検定所, 創立(61.7 計量研究所と改称).
○	ノーベル物理学賞・ベクレル「自然放射能の発見」. P. キュリー, M. キュリー「ベクレルが発見した放射現象に関する研究」.

1904(明治 37)

2.-	『報告』を『東京数学物理学会記事概要』と呼ぶことに決定.
2.10	日露戦争(～05.9.5 講和).
5.22	年会(東京帝大理). 新委員長田中館愛橘を選出(～05.5.21). 年会時の会員214(うち外国人1). 年会までの1年間(通常会10回, 年会1回)で講述25件.
○	ノーベル物理学賞・レーリー「気体密度の研究とアルゴンの発見」.

1905(明治 38)

5.21	年会(東京帝大理). 新委員長長岡半太郎を選出(～06.5.13). 年会時の会員224(うち外国人1). 年会までの1年間(通常会10回, 年会1回)で講述35件(物理34, 数学1).
○	ノーベル物理学賞・レーナルト「陰極線の性質の研究」.

1906(明治 39)

1.-	『記事概要』第3巻刊行開始(～06.12.).
5.13	年会(東京帝大理). 新委員長田中館愛橘を選出(～07.4.6). 年会時の会員233(うち外国人1). 年会までの1年間の常会の講演36件(物理27, 星学, 数学7).
○	ノーベル物理学賞・J.J. トムソン「気体の電気伝導に関する理論的および実験的研究」.

1907(明治 40)

2.-	『報告』・『記事概要』の継承としての『東京数学物理学会記事』(Proceedings of Tokyo Mathematico-Physical Society)第2期4巻刊行開始(ほぼ毎月, 常会・年会記録と論文とを掲載).
1.26	常会. 長岡, 学術通俗講演会を提案(4月に実現).
4.6	年会(東京帝大理). 講演1件. 新委員長長岡半太郎を選出(～08.4.5). 年会時の会員257(うち外国人14). 年会までの1年間(常会9回, 年会1回)で講演31件(物理20, 星学1, 数学9).
4.7～8	第1回学術通俗講演会(東京帝大).
9.1	東北帝国大学創立(農科大学. 11.1.1, 理科大学開設)

物理学会

○	ノーベル物理学賞・マイケルソン「精密干渉計の考案とそれによる分光学およびメートル原器に関する研究」.
---	--

1908(明治 41)

4.5	年会(東京帝大理), 講演1件. 新委員長田中館愛橋を選出(~09.4.4). 年会時の会員274. 年会までの1年間(常会10回, 年会1回)の講演29件(物理19, 天文1, 数学9).
5.2	常会. 委員長, 委員の任期をそれぞれ1年, 2年とする.
4.7~8	第2回学術通俗講演会(東京帝大).
○	ノーベル物理学賞・リップマン「光の干渉によるカラー写真の研究」.

1909(明治 42)

4.4	年会(東京帝大理), 講演1件. 新委員長長岡半太郎を選出(~10.4.3). 年会時の会員298(うち外国人4). 年会までの1年間(常会10回, 年会1回)の講演26件(物理18, 星学1, 数学7).
4.6~7	第3回学術通俗講演会(東京帝大).
○	ノーベル物理学賞・マルコーニ, ブラウン「無線電信の開発への貢献」.

1910(明治 43)

4.3	年会(東京帝大理), 講演2件. 新委員長田丸卓郎を選出(~11.4.2). 年会時の会員319(うち外国人4). 年会までの1年間(常会10回, 年会1回)の講演22件(物理15, 数学7).
4.5~7	通俗講演会(東京帝大).
○	ノーベル物理学賞・ファン・デル・ワールス「気体および液体の状態方程式に関する業績」.

1911(明治 44)

1.1	九州帝国大学創立(工科大学).
4.2	年会(東京帝大理), 講演1件. 新委員長田中館愛橋を選出(~12.4.7). 年会時の会員341(うち外国人5). 年会までの1年間の常会での講演31件(物理18, 数学13).
○	ノーベル物理学賞・ヴィーン「熱放射に関する法則の発見」.

1912(明治 45=大正元)

3.-	帝国学士院, 欧文 Proceedings と和文『記事』刊行開始.
4.7	年会(東京帝大理). 講演と実験3件. 新委員長高木貞治を選出(~13.4.6). 年会時の会員350(うち外国人5). 年会までの1年間, 4月と8月を除き毎月1回, 常会を開催(東京帝大理). 常会講演22件(物理18, 数学4).
7.30	天皇の死に伴い大正と改元(8.2 学会委員長名で宮内庁に哀悼文書を提出, 『記事』2期6巻18号にローマ字哀悼文を記載).
○	ノーベル物理学賞・ダレーン「灯台用ガスアキュムレーター自動調節機の発明」.

1913(大正 2)

1.1	中央气象台柿岡地磁気観測所, 観測を開始.
-----	-----------------------

物理学会

4.6	年会(東京帝大理), 講演1件. 新委員長長岡半太郎を選出(～14.4.4). 年会時の会員358(うち外国人4). 年会までの1年間, 4月と8月を除き毎月1回, 常会を開催(東京帝大理). 常会講演25件(物理19, 数学6).
9.20	常会で初めて終身会員を承認.
○	ノーベル物理学賞・カメルリング・オネス「低温での物性の研究とくに液体ヘリウムの生成」.

1914(大正3)

4.4～5	年会(東京帝大理), 講演28件(物理28, 星学1, 数学3)と実験・展示. 新委員長中村清二を選出(～15.4.3). 年会時の会員380(うち外国人4). 年会までの1年間, 4月と8月を除き毎月1回, 常会を開催(東京帝大理). 常会講演33件(物理30, 数学3).
6.6	常会. 長岡, 特別講演会を提案(会員外の傍聴も可とする).
7.28	第1次世界大戦(～18.11).
10.24	第1回特別講演会(東京帝大理・中央講堂, 中川詮吉「Parallelismについて」. 以後およそ12年間, 同大学で開催).
11.18	第2回特別講演会(長岡「気体液化と低温度」).
12.1	第3回特別講演会(平山信「恒星の運動」).
12.19	常会. 帝国学士院からの通知「外国語での姓名の掲げ方は, 名を先に, 姓を後にする」を審議し採用.
○	ノーベル物理学賞・ラウエ「結晶におけるX線の回折の発見」.
○	帝国学士院賞・日下部四郎太「岩石の力学的研究」.

1915(大正4)

1.21	第4回特別講演会(大河内正敏「実験弾道学」).
2.25	第5回特別講演会(吉江「積分方程式」).
4.3～4	年会(東京帝大理), 講演25件(物理22, 星学1, 数学2). 新委員長吉江琢児を選出(～16.4.2). 年会時の会員391(うち外国人1). 長岡提案「『記事』のローマ字書きを廃し英語に改める件」で激論の末に仮名まじり邦文に改めることを承認(『記事』2期8巻3号から). 年会までの1年間, 4月と8月を除き毎月1回, 常会を開催(東京帝大理). 常会講演40件(物理34, 星学2, 数学4).
4.22	第6回特別講演会(田中館「航空機に関する気流の研究」. 引続き4.29, 5.13にも実施).
6.4	第7回特別講演会(渋沢元治「水力電気と其応用」).
7.11	東北帝大臨時理化学研究所, 設立.
10.7	第8回特別講演会(池田菊苗「膠質物」).
12.15	第9回特別講演会(高木貞治「群(Group)の話」).
○	ノーベル物理学賞・ブラッグ父子「X線による結晶構造研究」.

1916(大正5)

1.27	第10回特別講演会(中村清二「結晶体の構造」).
2.18	第11回特別講演会(西川正治「X線の干渉」).
4.1	東北帝大臨時理化学研究所第2部(物理部), 設置(19.5.21東北帝大付属鉄鋼研究所. 22.8.9東北帝大附置金属材料研究所).

物理学会

4.2～3	年会(東京帝大理, 講演28件(物理24, 星学1, 数学3). 新委員長田丸卓郎を選出(～17.4.1). 終身会員関連の一時徴収金65円をめぐる議論があったが9月常会で同案を確認, まず16名を承認. 年会時の会員407(うち外国人1). 年会までの1年間, 4月と8月を除き毎月1回, 常会を開催(東京帝大理). 常会講演31件(物理23, 星学0, 数学8).
5.11	第12回特別講演会(亀田豊治郎「人口動態の幾何学的表示」).
6.19	第13回特別講演会(柴田雄次「化合物の化学的構造と其溶液の吸収スペクトル」).
10.11	第14回特別講演会(蘆野敬三郎「針路法」).
11.16	第15回特別講演会(新莊吉生「白熱電球の性質及其発達」).
○	帝国学士院賞・本多光太郎「鉄に関する研究」.

1917(大正6)

2.7	第16回特別講演会(藤沢利喜太郎「平均及類似の代表的数」).
2.21	同上続き(藤沢「平均及類似の代表的数の余論」).
3.27	(財)理化学研究所, 創立(→48.3.1, →58.10.1).
4.1～3	年会(東京帝大理), 講演31(物理27, 星学0, 数学4). 新委員長平山信(～18.4.1)および編纂評議員6名を選出. 年会時の会員415(うち外国人1). 年会までの1年間, 4月と8月を除き毎月1回, 常会を開催(東京帝大理). 常会講演25件(物理17, 星学2, 数学6).
5.30	第17回特別講演会(渡邊襄「Application of gyroscope」).
11.-	第18回特別講演会(石原純「量子論」).
○	ノーベル物理学賞・パークラ「元素の特性X線の発見」.
○	恩賜賞・寺田寅彦「ラウエ映画の実験方法及其説明に関する研究」.
○	帝国学士院賞・西川正治「スピネルの原子配置並に歪を受けたる物体のレントゲン線検査に関する研究」.

1918(大正7)

4.1～3	年会(東京帝大理), 講演35(物理29, 星学2, 数学4). 新委員長長岡半太郎を選出(～19.4.1). 長岡, 午餐会で会名の変更を発案. 年会時の会員439(うち外国人1). 年会までの1年間, 4月と8月を除き毎月1回, 常会を開催(東京帝大理). 常会講演21件(物理10, 星学5, 数学6).
4.1	東京帝大工科大学に附属航空研究所設置(7.3 東京帝大官制, 21.7.11 東京帝大附置研究所).
4.1	北海道帝国大学創立.
5.23	特別講演会(田辺尚雄, 詳細不明).
10.19	常会. 前月からの投票で, 学会名変更を可決(19.1.1から実施).
12.6	大学令公布(分科大学制を廃止し学部制とする).
○	ノーベル物理学賞・プランク「量子論による物理学の進歩への貢献」.

1919(大正8)

1.1	東京数学物理学会の名称を廃し日本数学物理学会と改称.
1.-	『日本数学物理学会記事』(Proceedings of the Physico-Mathematical Society of Japan)を『記事』第3期として刊行開始.

物理学会

4.1～3	年会（東京帝大理学部），講演 47（物理 37，星学 4，数学 6）。新委員長高木貞治を選出（～20.4.2）。年会時の会員 449（うち外国人 14）。年会までの 1 年間，4 月と 8 月を除き毎月 1 回，常会を開催（東京帝大理科大学，4 月から理学部と改称）。常会講演 45 件（物理 38，星学 6，数学 1），特別講演会 3 回（記録不備，以下数年間も同様）。
11.6	第 24 回特別講演会（岡田武松「天気予報術」）。
10.～12.	『記事』発行やや混乱。
○	ノーベル物理学賞・シュタルク「陽極線のドップラー効果及び電場でのスペクトル線の分散の研究」。
○	恩賜賞・石原純「相対性原理，万有引力論及び量子論の研究」。

1920(大正 9)

2.21	常会（東京帝大理，年会講演を部門別に開く試案を承認）。
2.26	第 26 回特別講演会（片山正夫「液体分子量に就て」）。
4.2～4	年会（東京帝大理，年会講演の部門別開催を試行），講演 51（物理 41，星学 2，数学 8）。新委員長中村清二を選出（～21.4.2）。年会時の会員 492（うち外国人 31）。年会までの 1 年間，4 月と 8 月を除き毎月 1 回，常会を開催（東京帝大理）。常会講演 40 件（物理 37，天文 0，数学 3），特別講演会 3 回。
8.26	学術研究会議，設置（文部大臣が管理）。
10.7	第 28 回特別講演会（平山清次「小惑星の軌道」）。
11.4	第 29 回特別講演会（藤原松三郎「Minkowski の数の幾何学」）。
○	ノーベル物理学賞・ギヨーム「不変鋼の発見とそれによる精密測定への貢献」。

1921(大正 10)

2.3	第 30 回特別講演会（青木保「魚雷」）。
4.2～3	年会（東京帝大理），講演 59（物理 49，天文 2，数学 8）。新委員長吉江琢児を選出（～22.4.1）。年会時の会員 529（うち外国人 17）。年会までの 1 年間，4 月と 8 月を除き毎月 1 回，常会を開催（東京帝大理）。常会講演 29 件（物理 24，天文 2，数学 3），特別講演会 4 回。
10.26	特別講演会（長岡「ゼーマン効果」，詳細不明）。
○	ノーベル物理学賞・アインシュタイン「数理物理学への貢献とくに光電効果の法則の発見」。

1922(大正 11)

3.28	学術研究会議，『日本物理学輯報』を創刊。
4.1～2	年会（東京帝大理），講演 31（物理 21，天文 1，数学 9）。新委員長中川詮吉を選出（～23.4.1）。年会時の会員 578（うち外国人 6）。年会までの 1 年間，4 月と 8 月を除き毎月 1 回，常会を開催（東京帝大理）。常会講演 30 件（物理 26，天文 0，数学 4），特別講演会 2 回。
11.17	アインシュタイン来日（～12.29）。
11.24	『アインシュタイン全集』全 4 巻，発刊（改造社，～24.4.）。
○	ノーベル物理学賞・N. ボーア「原子の構造と放射に関する研究」。
○	恩賜賞・高嶺俊夫・吉田卯三郎「スタルク効果の共同研究」。

1923(大正 12)

1.25	第 34 回特別講演会（山田幸五郎「測距儀と潜望鏡」）。
------	------------------------------

物理学会

4.1~2	年会(東京帝大理), 講演44(物理30, 天文2, 数学12). 新委員長佐野静雄を選出(~24.4.2). 年会時の会員623(うち外国人6). 年会までの1年間, 4月, 8月, 9月を除き毎月1回, 常会を開催(東京帝大理). 常会講演35件(物理33, 天文0, 数学2), 特別講演会3回.
9.1	関東大震災(『記事』9~11号, 合併).
○	ノーベル物理学賞・ミリカン「電気素量及び光電効果の研究」.
○	恩賜賞・木下季吉「放射線に関する研究」.

1924(大正13)

4.2~3	年会(東京帝大理学部数学仮教室), 講演52(物理38, 天文1, 数学13). 新委員長高木貞治を選出(~25.4.2). 会費, 年3円を6円に, 終身会員一時金65円を100円に値上げ. 年会時の会員648(うち外国人6). 年会までの1年間, 4月と8月を除き毎月1回, 常会を開催(東京帝大理). 常会講演31件(物理29, 天文0, 数学2).
5.1	京城帝国大学官制制定.
○	ノーベル物理学賞・K.M.G. シーグバーン「X線分光学の研究」.
○	東宮御成婚記念賞・清水武雄「放射線の研究に使用する膨張器の研究」.

1925(大正14)

4.2~3	年会(東京帝大理学部数学仮教室), 講演65(物理41, 天文2, 数学22). 新委員長末廣恭二を選出(~26.4.2). 年会時の会員705(うち外国人5). 年会までの1年間, 4月と8月を除き毎月1回, 常会を開催(東京帝大理). 常会講演29件(物理27, 天文0, 数学2).
6.4	第37回特別講演会(鯨井恒太郎「放送無線電話」).
11.4	第38回特別講演会(木内政蔵「水素 Spectrum の量子論」).
11.14	地震研究所, 官制公布(東京帝大付置).
4.22	治安維持法の公布.
5.5	普通選挙法の公布.
○	ノーベル物理学賞・フランク, G. ヘルツ「原子への電子の衝突に関する研究」.
○	東宮御成婚記念賞・曾禰武「気体の磁気係数の測定」.

1926(大正15=昭和元)

2.25	第39回特別講演会(井口春久「製氷及冷凍機」).
3.-	『記事』3期8巻3号, 初めて広告を掲載.
4.2~3	年会(東京帝大理学部数学仮教室), 講演70(物理42, 天文4, 数学24). 新委員長寺沢寛一を選出(~27.4.1). 年会時の会員742(うち外国人6). 年会までの1年間, 4月と8月を除き毎月1回, 常会を開催(東京帝大理). 常会講演31件(物理29, 天文0, 数学2), 特別講演会3回.
12.25	天皇の死に伴い昭和と改元(12.27, 学会委員長名で宮内庁に哀悼文書を提出, 『記事』3期8巻11号に哀悼文を掲載).
○	ノーベル物理学賞・ペラン「物質の不連続の構造に関する研究とくに沈降平衡に関する発見」.

1927(昭和 2)

- 3.15 金融恐慌はじまる.
- 4.4 海軍航空本部会公布.
- 5.24 商工審議会官制公布.
- 5.27 内閣に資源局設置.
- 6.27 外務省・陸軍省・関東軍の首脳対華政策決定のため東方会議開催.
- 7.19 資源審議会設置.
- 8.10 理化学研究所内物理学輪講同人会編『物理学文献抄第1輯』.
- 9.23 『日本数学物理学会誌』(和文)創刊.
- 11.25 理化学研究所, 理化学興業会社設立(理研コンツェルンの形成).
 - 京都帝大附属花山天文台設立(1931完成).
 - 海軍, 三式艦上戦闘機(中島飛行機研究所作製)を採用.
 - ノーベル物理学賞・コンプトン「コンプトン効果の発見」, ウィルソン「霧箱によって荷電粒子の飛跡をみる方法の研究」.
 - 東宮御成婚記念賞・村上武次郎「特殊鋼の物理冶金学的研究」.

1928(昭和 3)

- 2.20 最初の普通選挙.
- 3.15 共産党員全国的大検査.
- 3.16 台北帝国大学官制制定.
- 3.- 高柳健次郎, 世界最初の電子式テレビ実験に成功.
- 3.- 航空母艦「加賀」完成.
- 4.1 日本数学物理学会, 創立50周年記念講演会(東京帝大).
- 4.1 算術教科書にメートル法採用.
- 6.4 張作霖爆殺事件.
- 6.29 第55議会で審議未了の治安維持法改正を公布(死刑・無期刑追加).
- 9.7 経済審議会官制公布(会長は総理大臣, 12.21金解禁断行の答申案可決).
- 12.21 仁科芳雄, 長期在外研究を終えて帰国.
 - ノーベル物理学賞・リチャードソン「熱電子現象の研究とくにそれに関する法則の発見」.
 - 帝国学士院賞・平賀讓「高速度艦船に関する研究」.

1929(昭和 4)

- 1.1 地震学会・日本岩石鉱物鉱床学会創立.
- 1.17 臨時電気事業調査会官制公布(電力統制の準備).
- 3.- 東京天文台, 26インチ(65cm)のツァイス赤道儀を購入(以後30年間日本で最大の望遠鏡).
- 4.1 東京・大阪両工業大学, 東京・広島両文理科大学設置.
- 4.12 資源調査法公布.
- 6.10 『岩波講座・物理学及び化学』第1回配本(～31.7.30第24回).
- 8.19 ドイツ飛行船ツェッペリン伯号, 霞ヶ浦飛行場に着陸.
- 9.2 ハイゼンベルク・ディラック来日.
- 10.24 ニューヨーク株式市場大暴落(世界恐慌始まる).
- 10.29 上越線清水トンネル貫通(開通は31.9.1, 9,702m当時世界最長).

物理学と社会

10.29~11.7	万国工業会議（東京、日本工学会が主催した世界最初の工学総会議）。
11.21	大蔵省、金解禁に関する省令公布（金輸出などの取締り令を廃止）。
11.21	内閣に産業合理化審議会設置。
12.13	商工審議会、産業合理化に関する答申を決定。
○	ノーベル物理学賞・ド・ブロイ「電子の波動性の発見」。
○	恩賜賞・志田順「地球及地殻の剛性並に地震動に関する研究」。

1930 (昭和 5)

1.11	金輸出解禁実施。
1.21	臨時産業審議会官制公布（商工審議会の改組）。
3.-	世界恐慌、日本に波及。
4.22	ロンドン（海軍軍縮）条約調印。
4.-	昭和5年度年会（東京帝大、講演・物理学50、地球物理学6、天文学3）。
6.2	臨時産業合理局官制公布。
9.26	第4艦隊、三陸沖で遭難（海軍が気象を重視することになった最初の日海難事故）。
10.1	第2回国勢調査（内地人口6445万5人、総人口9039万6043人）。
10.1	鉄道省、特急「燕」（東京・神戸間8時間55分）運転開始。
10.9	服部公報会発足（服部金太郎の私財300万円が基金、学術研究援助）。
11.-	中島飛行機研究所、国産最初の高性能星型発動機（450馬力）を製作。
12.-	三菱航空機会社東京製作所、八九式軽戦車製作（民間初の戦車）。
-	東京電気、最初の国産電気洗濯機、冷蔵機を製作販売。
○	ノーベル物理学賞・ラマン「光の散乱に関する研究とラマン効果の発見」。
○	東宮御成婚記念賞・及川奥郎「小惑星の発見」。
○	帝国学士院賞・小倉伸吉「瀬戸内海の潮汐及潮流に関する研究」。

1931 (昭和 6)

2.3	東京博物館、東京科学博物館と改称（11.7開館）。
2.13	藤沢利喜太郎、貴族院で学術振興につき演説。
3.-	貴族院・衆議院で学術振興に関する建議。
4.1	外務省文化事業部、上海自然科学研究所創立。
4.1	台湾総督府、台湾海洋観測所を高雄市に設置（熱帯海洋研究所の始め）。
4.1	『科学』創刊（編集主任石原純、岩波書店）。
4.1	重要産業統制令公布。
4.30	名古屋医科大学設置。
4.30	大阪帝国大学創立（理学部・工学部は33年4月開設）。
4.-	文部省、中学校「一般理科」を実施。
5.11	東京帝大航空研究所開所式。
7.-	理化学研究所、仁科研究室設置。
9.18	柳条湖事件（満州事変始まる）。
10.29~31	昭和6年度年会（講演・数学31、物理学79、天文・地球物理学34）。
12.13	犬養新内閣、初閣議で金輸出再禁止を決定。
12.-	陸軍、91式戦闘機採用、量産開始。
○	ノーベル物理学賞・なし。
○	恩賜賞・妹沢克惟「地震波の生成伝播其他に関する理論的研究」。

○	帝国学士院賞・増本量「強磁性元素及び其の合金の物理冶金学的研究」.
---	-----------------------------------

1932(昭和7)

3.1	満州国建国宣言.
3.23	海軍航空廠令公布(横須賀に設置, 航空機修理・技術研究).
4.1~2	昭和7年度年会(講演・数学28, 物理学58, 天文地球物理学9).
4.19	電力連盟成立(5大電力会社による電力カルテル).
4.21	ダイヤル式公衆電話東京市内4ヵ所に試験的設置.
7.-	『応用物理』創刊(応用物理談話会).
7.-	中央气象台, 国際協同極地観測のため富士山頂観測所を設置(以後恒常的に観測を実施).
8.23	国民精神文化研究所設置.
10.23	唯物論研究会創立(11月『唯物論研究』創刊, 38年4月『学芸』となる).
10.-	科学教育会編『理科教育』創刊(啓文社).
11.16	理化学研究所, 仁科芳雄・西川正治ら原子物理学研究会結成.
12.28	日本学術振興会設立(理事長桜井錠二).
-	陸軍科学研究所, ラジオゾンデの研究開始.
○	ノーベル物理学賞・ハイゼンベルク「パラ・オルソの水素の発見に導いた量子力学の創始」.
○	恩賜賞・和田清夫「深处に発生せる地震に関する研究」.
○	メンデンホール記念賞・菊池正士「電子の回折に関する研究」.

1933(昭和8)

1.30	ヒトラー内閣成立(10.14ドイツ, 国際連盟を脱退).
3.27	国際連盟脱退の詔書発布.
4.2~3	昭和8年度年会(東北帝大, 講演・数学47, 物理学66, 天文学10, 地球物理学19).
4.22	鳩山文相, 京都帝大教授滝川幸辰の辞職を総長に要求(5.26滝川幸辰に休職発令, 法学部長以下抗議して辞表提出・滝川事件).
5.3	大阪市営高速鉄道(地下鉄), 梅田〜心斎橋間開通.
6.19	丹那トンネル貫通(34.12.1開通式, 着工以来16年8ヶ月, 全長7804m).
9.1	大阪中央放送局, 学校放送開始(35.4.15, 全国向け).
9.15	資源局, 国家重要研究事項40項目発表.
10.2	科学協議会(21秋発足, 軍部と科学者の連絡協力機関), 国防科学協議会に改組(陸・海軍の委託研究を行う).
12.28	メートル法(34.7.1施行予定)の施行を5年延期する旨公布.
○	ノーベル物理学賞・シュレディンガー, ディラック「新しい形式の原子理論の発見」.
○	恩賜賞・辻二郎「光弾性の研究」.
○	帝国学士院賞・石本巳四雄「地動計測に関する研究」.

1934(昭和9)

3.1	東京工業大学に建築材料研究所設置.
3.1	日立製作所, 日立研究所開設.
3.12	水雷艇友鶴, 荒天下で演習中転覆(過大装備による復元力不足, 100名殉職死).

物理学と社会

3.27	三井報恩会設立許可(基金300万円,主に文化面の資金援助).
3.28	石油業法公布.
3.31	日本航空学会創立.
4.2~6	昭和9年度年会(講演・数学58,物理学80,天文学18,地球物理学24,物理学には「原子物理学」の会場が初めて設けられた).
6.1	文部省,学生部を拡充し思想局設置.
10.1	陸軍省「国防の本義とその強化の提唱」(いわゆる陸軍パンフレット)頒布.
10.17	松山基範・熊谷直一,海軍潜水艦により房総沖から北海道沿岸にかけて地殻構造の調査開始.
11.17	湯川秀樹,日本数物学会常会(東京)で“On the Interaction of Elementary Particles I”を発表(35.2 Proc. P.M. Soc. Japに掲載).
12.26	東北振興調査会官制公布(東北地方の冷害・大凶作による惨状に対処).
○	ノーベル物理学賞・なし.
○	恩賜賞・坪井誠太郎「火成岩の成因に関する研究」.
○	東宮御成婚記念賞・日高孝次「湖海の水盆の振動及海流に関する海洋物理学的研究」.

1935(昭和10)

1.17	文部省,橋田邦彦・和辻哲郎ら7人を思想視学委員に任命し,一高・浦和などの高校視察を開始.
2.18	貴族院で美濃部達吉の天皇機関説を攻撃.
3.22	満州国国立大陸科学院設置(資源開発研究を目指す).
4.2~5	昭和10年度年会(講演・数学73,物理学112,地球物理学8,天文学3).
5.11	内閣審議会,内閣調査委員会官制公布.
7.30	陸軍航空技術研究所設置.
8.3	政府,国体明徴を声明.
9.25	東北帝大附属電気通信研究所設置.
9.26	第4艦隊事件(演習中の駆逐艦「初雪」・「夕霧」が大波浪により艦体切断,溶接の強度不十分による).
11.18	教学刷新評議会設置(37.6.23廃止).
—	理化学研究所,原子核実験室設置(仁科・西川研究室の共同で加速器研究開始).
○	ノーベル物理学賞・チャドウィック「中性子の発見」.
○	帝国学士院賞・海野三朗「鉄炭素系合金の比熱及び其の諸相の変化に伴う熱量に関する研究」.

1936(昭和11)

1.15	日本,ロンドン軍縮会議脱退.
1.19	日本理科教育連盟,第1回全国理科教育大会開催.
2.26	2・26事件.
2.—	北海道帝大に低温実験室完成,人口雪の研究開始.
4.1~4	昭和11年度年会(講演・数学44,物理107,天文学・地球物理学44).
4.15	日本音響学会創立.
5.29	思想犯保護観察法公布.
5.29	自動車製造事業法公布(国産自動車製造の保護助成).
5.—	豊田自動織機製作所,自動車組立工場開設.

6.19	北海道東北部で皆既日食, 各大学研究者観測.
7.8	航空母艦「飛龍」起工 (39.7.5 完成).
7.27	陸軍戦車学校設置.
8.7	5相会議で「国策の基準」決定.
9.8	文部省, 日本諸学振興委員会設置.
10.1	科学ペンクラブ, 『科学ペン』創刊.
10.-	田辺元, 石原純, 小倉金之助ら科学政策を批判.
11.6	化学機械協会創立.
11.25	日独防共協定ベルリンで調印.
○	ノーベル物理学賞・ヘス「宇宙線の発見」, アンダーソン「陽電子の発見」.

1937(昭和12)

1.10	大阪帝大に災害科学研究所(財団法人)設立(44大阪帝大に寄付).
2.14	文化勲章令公布.
3.30	大阪帝大理学部, 28インチサイクロトロン完成.
4.-	理化学研究所, 27インチサイクロトロン完成.
4.15	ポーア来日.
5.14	企画庁官制公布(内閣調査庁は廃止).
5.26	内閣に文教審議会設置(12.10廃止, 教育審議会を新たに設置).
5.29	陸軍省, 重要産業5年計画要綱決定(39年度生産力拡充計画の母体).
5.31	文部省編『国体の本義』, 全国の学校・文化団体に配布.
6.-	大河内正敏, 『科学主義工業』創刊.
7.7	盧溝橋事件, 日中戦争開始.
7.18~21	昭和12年度年会(講演・数学28, 物理学73, 天文学地球物理学9).
7.21	文部省思想局を拡充, 教学局設置.
8.13	商工省, 機械試験所設置, 絹業試験所を繊維工業試験所に拡充.
8.26	文部省, 官立高等工業学校16校に工業技術員養成科(6ヶ月)を設置.
10.25	企画院官制公布(企画庁と資源局を統合).
11.4	戦艦「大和」起工(41.12.16完成).
○	ノーベル物理学賞・デーヴィソン, G.P. トムソン「結晶による電子回折の実験的研究」.
○	文化勲章(第1回)・長岡半太郎, 本多光太郎, 木村栄.
○	恩賜賞・丹羽保次郎「写真電送装置に関する研究」.

1938(昭和13)

1.16	閣議, 昭和13年度物資動員計画を決定.
3.29	戦艦「武蔵」起工(42.8.5完成).
3.30	航空機製造事業法・工作機械製造事業法各公布.
4.1	国家総動員法公布.
4.1~4	昭和13年度年会(講演・数学32, 物理学109, 天文学8).
4.6	電力管理法公布(電力国家管理の実現).
4.15	内閣に科学審議会設置(不足資源の補填方策の審議).
5.13~15	東京帝大航空研究所の長距離機, 周回航続距離世界記録を樹立.
6.9	文部省, 「集団的勤労作業運動実施に関する件」を通牒(勤労動員開始).

物理学と社会

6.10	閣議, 最高国策検討機関として5相会議(首, 陸, 海, 外, 蔵相)の設置決定.
8.15	文部省に科学振興調査会設置.
8.24	陸軍軍医学校, 富士山頂に航空医学研究所を設置.
9.14	三菱重工業, 「零式」艦上戦闘機(零戦)試作完成.
9.22	内務省, 関門国道トンネル工事を39年度から4ヶ年計画で着工決定(39.5.12起工式, 58.3.9開通).
12.20	東京帝大総長に同学名誉教授海軍中将平賀讓就任.
12.22	逓信省航空試験所開所式.
12.-	岩波講座『物理学』(全22巻)発刊(～41.1).
○	ノーベル物理学賞・フェルミ「中性子衝撃によって作られる新放射性元素の研究と熱中性子による原子核反応の発見」.
○	メンデンホール記念賞・渡辺讓「光波長を基準とする基線測定に関する研究」.

1939(昭和14)

1.17	閣議, 生産力拡充計画要綱を決定.
2.22	東京工大, 資源化学研究所設置.
3.15	閣議, 科学研究費交付金制度を含む追加予算決定(3.24両院通過), 300万円支出(従来の科学奨励金は7万3000円, 41年度500万円, 43年度570万円, 44年度1870万円に増額).
3.31	名古屋帝大創立(40.4.1理工学部開設), 九州帝大理学部設置.
4.1	内閣に中央航空研究所設置.
4.1～3	昭和14年度年会(講演・数学82, 物理学141, 宇宙物理学1, 地球物理学71).
5.12	ノモンハン事件起る.
5.15	各帝大医学部・官立医大に臨時付属医学専門部設置(軍医の需要に対応).
5.23	室蘭・盛岡・多賀・大阪・宇部・新居浜・久留米の7高等工業学校を新設(総計25).
6.17	藤原銀次郎, 藤原工業大学創立(44.8.5慶応大学に寄付, 同工学部となる).
7.6	零戦, 海軍による最初の試験飛行.
8.20	ノモンハンでソ連・外蒙軍の総攻撃で第23師団全滅的損害.
8.30	総動員試験研究令公布.
9.1	ドイツ, ポーランド進撃を開始(第2次世界大戦始まる).
11.1	気象台官制改正, 気象官署官制公布(文部省管轄, 地方測候所の官制化).
12.20	陸軍, 軍備充実4ヶ年計画策定.
○	ノーベル物理学賞・ローレンス「サイクロトロン発明とその研究およびそれによる人工放射性元素の研究」.

1940(昭和15)

2.5	文部省, 専門学務局に科学課設置(42.3.24科学官を置く).
4.1～3	昭和15年度年会(東京文理大, 講演・数学95, 物理学151, 天文学14, 地球物理学51).
4.12	閣議, 科学動員計画要綱決定.
7.22	第2次近衛内閣成立, 東京帝大教授橋田邦彦, 文相に就任.
7.26	閣議, 基本国策要綱決定.
7.27	大本営政府連絡会議, 武力行使を含む南進政策決定.
8.2	橋田文相, 国体の本義発揚と科学技術振興の両立を説く.
8.8	科学技術関係の133の学会・協会が参加し全日本科学技術団体連合会(全科技連)設立(理事長長岡半太郎).

8. -	小林理学研究所設立認可.
9.23	日本軍、北部仏印に進駐.
9.27	日独伊3国同盟調印.
10.12	大政翼賛会発会式.
11.7	『創元科学叢書』刊行.
○	ノーベル物理学賞・なし (~42まで).
○	恩賜賞・湯川秀樹「素粒子間の相互作用に関する理論研究並に宇宙線中の新粒子メソトロンの存在に対する予言」.

1941(昭和16)

3.3	電波物理研究会官制公布 (41.電波物理研究所).
4.1	小学校を国民学校と改称, 教科を国民科・理数科・体錬科・芸能科に統合.
4.13	日ソ中立条約, モスクワで調印.
4.16	米国務長官ハル, 駐米大使野吉三郎により日米交渉正式に始まる.
4.22	日本科学史学会創立 (会長桑木或雄, 12月『科学史研究』創刊).
5.27	閣議, 科学技術新体制確立要綱決定.
6.25	連絡会議, 南部仏印進駐を決定.
7.18	日本郵船・浅間丸, サンフランシスコ航路の最終船として出航.
8.1	米国, 対日石油輸出全面停止.
10.18	東条英機内閣成立.
10.30	内閣, 重要産業指定規則公布 (12事業に重要産業団体令を適用).
11.26	北海道帝大, 低温科学研究所設立.
11.-	『科学朝日』創刊 (朝日新聞社).
12.8	真珠湾攻撃開始, 米英両国に宣戦の詔勅.
12.9	文部省に資源科学研究所設置.
12.-	『図解科学』創刊 (中央公論社).
○	帝国学士院賞・中谷宇吉郎「雪に関する研究」.

1942(昭和17)

1.24	文部省に国民錬成所設置.
1.31	技術院官制公布.
3.14	鉄道省鉄道技術研究所設立.
3.24	日本諸学振興会, 自然科学部大会開催.
4.1	逓信省に無線電信講習所設立.
4.18	東京, 初空襲 (米軍機16機).
6.5	ミッドウェー海戦.
6.17	国語審議会, 標準漢字表を答申.
7.8	海軍技術研究所, 物理懇談会を設け初会合 (委員長仁科芳雄).
10.10	陸軍技術研究所設置.
10.16~18	昭和17年度年会 (講演・数学99, 物理学168, 天文学14, 地球物理学44).
11.1	文部省, 専門学務局科学課を拡大強化し科学局設置.
11.16	全科技連総会, 研究隣組の設置を決議.
12.26	内閣に科学技術審議会設置 (科学審議会は廃止).
○	帝国学士院賞・茅誠司「強磁性結晶体の磁気的研究」.

物理学と社会

1943(昭和 18)

- 1.27 研究隣組運営委員会設置(委員長仁科芳雄).
- 2.1 日本軍, ガダルカナル島撤退開始.
- 2.1 東北帝大に科学計測研究所, 九州帝大に弾性工学研究所付置.
- 2.11 理化学研究所, 200 トンの大サイクロトロン組立完了(実験はできないままに終る).
- 3.15 台北帝大に南方資源科学研究所付置.
- 4.10 第4回通常総会(東京帝大, 会員数2257).
- 4.10 理事長・清水武夫(第25回理事会).
- 4.18 連合艦隊司令長官山本五十六, ソロモン群島上空で戦死(後任は古賀峯一).
- 6.25 閣議, 学徒戦時動員体制確定要綱決定(本土防衛のため軍事訓練と勤労動員を徹底).
- 7.17~19 昭和18年度年会(東北帝大, 講演・数学100, 物理学180).
- 7.18 第5回臨時総会(東北帝大, 会員数2342).
- 9.29 文部省, 大学院・研究科に特別研究生制度を設置.
- 10.1 閣議, 「科学技術動員総合方策確立に関する件」を決定(研究動員会議を設け, 戦時研究員の任命など).
- 10.2 在学徴集延期臨時特例公布(学生・生徒の徴兵猶予全面停止, 12.1 第1回学徒兵入隊・学徒出陣).
- 10.- 中間子討論会(理化学研究所).
- 11.1 国民精神文化研究所と国民錬成所を統合, 教学錬成所設立.

1944(昭和 19)

- 1.7 大阪帝大に音響科学研究所設置(51.3.31 産業科学研究所に合併).
- 1.8 東京帝大に南方自然科学研究所設置.
- 1.8 閣議, 緊急学徒勤労動員方策要綱決定(年間4ヶ月継続して行う).
- 1.28 戦時研究員規定及び同服務心得発令.
- 2.19 科学技術者登録制実施.
- 3.- 技術院内に発明創意活用審査会設置.
- 5.20 京都・九州両帝大に木材研究所設置(木製航空機・船艇製造の研究).
- 5.29 技術院, 科学技術審議会決戦非常措置要綱を決定.
- 6.25 文部省に統計数理研究所設置.
- 6.- 海軍電波実験所, 静岡県島田に開所(所長渡辺寧, 朝永振一郎・小谷正雄ら磁電管の発振機構の理論的研究開始).
- 7.9 第1回物性論分科会.
- 7.10 第1回放電物理分科会.
- 7.10 閣議, 科学技術者動員計画設定要綱決定(航空機生産増強のための措置).
- 7.18 東条内閣総辞職(7.20 小磯内閣成立).
- 8.22 東京工業大学に燃料科学研究所設置.
- 8.23 学徒勤労令公布(大学・高専の理科系学徒1000人に限り勤労動員より除外, 科学研究要員とする).
- 8.29 閣議, 科学技術の戦力化に関する決定.
- 9.5 陸海軍技術運用委員会設置.
- 9.5 人間魚雷「回天」の基地誕生.
- 10.1 理化学研究所, 49号館にウラン分離筒を建設(二号研究).
- 10.15 第2回応用数学分科会.

10.24	レイテ沖海戦（連合艦隊の主力を失う）。
10.25	神風特攻隊の第一陣出撃。
11.24	マリアナ基地の B29 約 70 機東京を初爆撃。
11.一	風船爆弾を本格的に使用（米本土攻撃を目論む）。
12. 2	第 1 回幾何学学科会。
○	文化勲章・田中館愛橘。

1945 (昭和 20)

1. 16	学術研究会議、機構改革（科学技術の戦力化徹底）。
1. 20	理事会で年会開催につき審議、事実上開催不可能を確認。
1. 25	東北帝大に硝子研究所附置。
1. 30	東京帝大に輻射線化学研究所附置。
1 月～3 月	各月の常会（東京帝大）は爆撃のため講演者なく中止となる。
3. 一	技術院、地下工場建設のため建設技術動員本部をおく。
4. 1	米軍、沖縄に上陸（6.23 守備軍全滅）。
5. 7	ドイツ、無条件降伏。
7. 7	海軍、ロケット機「秋水」の試験飛行実施、墜落。
8. 6	広島に原子爆弾投下。
8. 7	海軍、ジェット機「橘花」の試験飛行（1号機で終る、時速 488 km）。
8. 8	仁科芳雄ら被害調査のため広島に入る（8.14 新型爆弾は原子爆弾と発表）。
8. 9	長崎に原子爆弾投下。
8.10	原子爆弾被害調査のため京都帝大、大阪帝大の両調査団広島入り。
8.14	御前会議、ポツダム宣言受諾を決定。
8.15	正午、戦争終結の詔書を放送。
9. 2	降伏文書に調印（米艦ミズーリ号上で全権重光葵、梅津美治郎）。
9. 5	文部省、学徒動員局を廃止、科学局を解体し科学教育局・体育局を設置。
9. 5	技術院廃止、機構が 3 分されて内閣調査局、文部省科学教育局、商工省特許標準局となる。
9. 22	GHQ、指令 3 号、放射性不安定元素の分離に関する研究禁止、あらゆる研究機関に毎月 1 回英文報告提出を義務づける。
11.18	GHQ、航空に関する研究・教育の全面禁止覚書。
11.24	GHQ、理化学研究所・京都帝大・大阪帝大のサイクロトロンを破壊、投棄。
12.15	日本数学物理学会、臨時総会で解散を決議（賛 1043、否 38、会員総数 2582—物理系 1812、数学系 592、その他 178）。
12.24	GHQ、テレビ・電波妨害ならびに電波探索・パルス変調通信方式・電波近接・音声秘密通信・暗号通信の 6 項目の研究を禁止。

日本物理学会 (1946~2011)

物理学会関係

1946(昭和21)

1.4	日本物理学会設立発起人有志会 (45.12.22 以来 5 回目, 定款の審議).
1.14	文部省, 日本数学物理学会の解散申請 (45.12.22) に対し解散許可.
1.14	東京地方発起人会, 定款案決定.
1.19	GHQ, レーダー装置の研究禁止 (46.7.26 電波関連の禁止事項は軍用を目的としない範囲でいずれも禁止解除).
3.22	北海道帝大超短波研究所を応用電気研究所に, 東京工大電子工学研究所を電気科学研究所に改組.
3.30	東京帝大航空研究所, 理工学研究所に改組.
4.28	日本物理学会設立総会 (東京帝大, 会員数 1253).
4.28・29	第 1 回委員会. 選挙により委員長清水武雄を選出 (~46.10.31). 分科会を次の 7 種類と決定し各分科会の幹事も選出, 1 応用数学・2 物性論・3 光学・4 放電物理・5 磁気・6 素粒子・7 力学.
4.28~30	第 1 回年会 (東京帝大, 講演 222, 地球物理学・天文学を含む).
4.30	研究民主化に関する全国物理学者の懇談会 (東京帝大, 全国からの参加者 100 人余).
5.1	磁気研究会特別討論会 (第 1 回磁気分科に相当).
6.2	日本数学会創立総会.
6.13	名古屋帝大理学部物理学教室, 教室憲章を制定し教室会議制度発足.
6.15	第 1 回仙台支部例会 (東北帝大, 講演 9).
7.12	第 1 回関西三支部 (京都・大阪・名古屋) 聯合例会 (京都帝大, 講演 35).
7.-	湯川秀樹ら Progress of Theoretical Physics 創刊.
9.22	第 1 回九州支部例会 (九州帝大, 講演 12).
10.21・22	第 1 回物性論分科会 (東京帝大, 講演 16).
10.25	応用物理学会設立.
11.9	新委員長落合麒一郎選出 (46.11.1~47.10.31) (第 6 回委員会).
11.22・23	第 1 回素粒子論分科会 (京都帝大, 講演 16).
11.25	第 1 回放電物理分科会 (東京帝大, 講演 8).
11.30	『日本数学物理学会誌』終刊号 (44~45) 遅れて発行.
12.21	第 2 回通常総会 (東京帝大, 会員数 1674).
12.21・22	第 1 回光学及分光学分科会 (東京帝大, 講演 20).
○	ノーベル物理学賞・ブリッジマン「超高压圧縮装置の発明とそれによる超高压物理学の研究」.
○	文化勲章・仁科芳雄.
○	恩賜賞・増本量「異常特性を有する鉄合金の研究」.

物理学会関係

1947(昭和22)

2.24	JOURNAL OF THE PHYSICAL SOCIETY OF JAPAN vol. 1 (46.7-12月号) 刊行, 以後4～6ヶ月に一冊の発行.
2.-	学術研究会議に学術文献調査特別委員会学術用語制定分科会を設置. 学術用語制定の調査審議に着手.
3.20	GHQ, 学士相当の全科学技術者および通信関係科学技術者の英文履歴書提出を指示.
3.-	『日本物理学会誌』第1巻第1号付録刊行.
4.5～6	第1回応用数学及力学分科会(東京帝大, 講演5).
4.12	文部省の学術用語制定事業に参加し, 物理学用語委員会(委員長落合麒一郎)を設置(第10回委員会).
4.30	日本数学会, 『数学』(邦文)創刊.
5.8	第1回電波物理分科会(東京帝大, 講演5).
5.9～11	第2回年会(東京帝大, 講演224, 天文部門は離脱).
6.5	『日本物理学会誌』第1巻第1号刊行.
7.12	編集機構整備のため編集委員会を設置(第13回委員会).
9.6	第1回編集委員会(委員6名).
9.26	文部大臣の認可を受け社団法人となり定款を決定.
10.1	政府, 帝国大学の名称を廃止(東京帝国大学は東京大学へ).
10.29	法人設立登記. 事務所を東京大学理学部内におき, 支部を札幌, 仙台, 名古屋, 京都, 大阪, 福岡, 広島の7都市におく.
11.4～5	第1回電子放射分科会(東京大学, 講演17).
11.8	委員長改選, 新委員長木内政蔵(47.1.1～48.10.31)(第16回委員会).
12.13	科学技術史編集委員会を設置(GHQの指示により, 日本学術振興会から戦中, 戦後の研究抄録を編集するよう通告を受けたため)(第17回委員会).
12.22	第3回通常総会(東京大学).
○	ノーベル物理学賞・アップルトン「上層大気の物理学とくに電離層の研究」.
○	学士院賞・田口泷三郎「トーキーフィルムによる日本語の音素研究」.

物理学会関係

1948(昭和23)

2.14	科学技術史編集委員会設置 (GHQの指示で41~47の研究抄録を編集し、提出するため)、文部省の指示で編集方針の成文化にとりかかる (決定された編集方針は会誌、第3巻、第5~6号に発表) (第19回委員会)。
2.22	広島支部発会式・第1回例会 (広島大学、講演25)。
3.1	理化学研究所解散、株式会社科学研究所として再発足 (社長仁科芳雄)。
5.8	図書委員設置 (日本数物学会から分割受領した図書の整理と外国との出版物交換事務のため) (第22回委員会)。
5.9	礼文島に金環日食、天文・地磁気・電離層など日米研究者の協力で観測。
5.21~23	第3回年会 (京都大学、天文は日本天文学会と共催、初めて8分野別に分けて発表が行われる、発表数395)。
6.12	GHQの指示により年会発表講演のアブストラクトの提出を決定、特に核物理に関するものは詳しくとの要求により、発表者に詳報の再提出を依頼する (第23回委員会)。
7.10	日本学術会議法公布 (文・哲・史、法・政、経・商、理、工、農、医・歯・薬の7部門で構成)。
8.1	物理学用語委員会、物理学用語集を発表 (会誌、第3巻、第3~4号に掲載)。
8.14	恒常的な赤字に対し、集中的な対策を立てるため、赤字対策委員会の設置が立案される (第25回委員会)。
9.2	湯川秀樹、プリンストン高等学術研究所に招かれて渡米。
10.2	赤字対策として1942年以降のRev. Mod. Phys. のリプリントを出版することにきめ、CIEから許可をえた。会員の投票結果、学術会議会員推薦候補者を湯川秀樹、茅誠司、仁科芳雄、伏見康治、嵯峨根遼吉の5名に決定 (第27回委員会)。
10.30	新委員長・山内恭彦 (48.11.1~49.10.31)。
11.13	赤字対策委員会 (出版委員も兼務、委員長・落合殿麒一郎) 設置 (第28回委員会)。
11.28	ラビ、米国科学使節団の一員として来日 (12.10 講演会開催)。
12.18	第4回通常総会 (東京大学、会員数2255)。
12.20	学術会議第1回選挙、210人を決定。
12.23	第1回赤字対策委員会。
-	年内にRev. Mod. Phys. 複製本、Vol. 13, No. 3, No. 4, Vol. 14, No. 4 刊行。
○	ノーベル物理学賞・ブラケット「ウィルソン霧箱の方法の発展ならびに原子核物理学と宇宙線の領域における諸発見」。
○	学士院賞・小谷正雄、朝永振一郎「磁電管の発振機構と立体回路の理論的研究」。
○	藤原武夫「任意の結晶方位を有するアルミニウム及び鉄単結晶の製作法とその物理的性質のX線の研究」。

物理学会関係

1949(昭和24)

-
- 2.12 文部省に設置される学術用語調査会委員として木原太郎を推薦(第31回委員会).
- 2.28 学術会議会員, 物理学会委員第1回懇談会.
- 3.3 科学研究費配分委員会設置. 学術会議との連絡委員決定(緊急委員会).
- 3.10 『学術用語集 物理学編』刊行.
- 4.15 Rev. Mod. Phys. 複製本, 第2回分 Vol. 16, No. 2, Vol. 17, No. 1 刊行.
- 4.27~30 第4回年会(東京大学, 講演419).
- 4.29 Rev. Mod. Phys. の複製につき米国物理学会より出版中止の通告を受ける(海賊版であると判定されたため), GHQ 経済科学局・科学技術課長ケリーに既判分の黙認と継続発行のための善処をたのむ(委員懇談会).
- 4.- 名大, 宇宙線望遠鏡の建設開始.
- 5.14 秋の素粒子論分科会の京都大学で開催がきまり, 他の分科会もこの前後に可能なかぎりまとめて開くことにきめる. Progress の発行を行ってきた秋田屋が解散し, 名義上物理学会刊行にきりかえる. 素粒子論研究も同様の扱い(第33回委員会).
- 6.25 学術会議会員・物理学会委員第2回懇談会. 研究機関の窮迫を訴える声明発表. 米国物理学会発行の8誌のうち, 1誌から3論文以上とらないよう編集した論文集を日本物理学会編のリプリント版として発行することを許可される.
- 7.7 リプリント版論文集の編集・刊行を決定(第35回委員会).
- 8.29 朝日新聞社, 第1回朝日科学奨励金100万円を宇宙線研究に贈呈と発表, 乗鞍岳宇宙線観測所建設の端緒.
- 8.- 朝永振一郎, プリンストン高等学術研究所に招かれて渡米.
- 9.14 仁科芳雄, 国際学術連合会(コペンハーゲン, ~9.16)に日本学術会議代表として参加(戦後初の国際会議正式出席).
- 9.23 米トルーマン大統領, ソ連の原爆実験の事実を公表(9.25 ソ連タス通信原爆保有を報道).
- 10.15 物理学論文選集・第1回(『高分子』等5点)を刊行.
- 10.19~24 秋の分科会(京都大学, 素粒子論・物性論・光学及び分光学・電波物理・応用数学力学の各分科会を初めて合同開催).
- 10.28 第1回特務委員会, 新委員長武藤俊之助(49.11.1~50.10.31), 赤字対策委員会の廃止決定.
- 12.10 湯川博士ノーベル物理学受賞記念講演会(東京大学).
- 12.17 第5回通常総会(東京大学, 会員数2354)定款を変更, 通常会員の他に名誉会員をおく.
- 12.17 会誌の英訳名を Proceeding of the Physical Society of Japan (Nippon Buturi Gakkaishi) とする(第40回委員会).
- ノーベル物理学賞, 湯川秀樹「核力の理論による中間子存在の予言」.
- 文化勲章・岡田武松.
-

物理学会関係

1950(昭和25)

1.9	ケリーの名誉会員推薦を決定。Rev. Mod. Phys. (41~50) 全冊リプリントの許可を得て出版にとりかかる(会員のみに頒布、輸出しない条件)。科学研究費配分審議会委員候補者4名を選出(第41回委員会)。
1.23	ケリーの帰国が1.27にきまったため、前回の委員会決議にもとづき委員代表がケリーに会い名誉会員推薦を伝えた。正式決定は臨時総会を聞き追認することにした。
3.11	科学研究費配分審議会の下部組織・物理学関係配分委員29名を選出(第43回委員会)。
4.1~4	春の分科会(東京大学、東京工業大学、素粒子・原子核、強誘電体、半導体など)。
4.2	第6回臨時総会(東京大学、ケリーを名誉会員に推薦し可決)。
4.3	素粒子論グループ、平和声明発表。
4.10	科学研究用の放射性同位元素、戦後初めて米国から到着。
4.28	学術会議第6回総会、戦争を目的とする科学研究には従事しないと決議。
5.1	日本天文学会春季年会(天体物理分科会と共催)。
6.10	GHQ工兵司令部情報部調査課より事業内容、優秀な会員5~10名の名簿提出の指示、意向不明ゆえ今後の反応をみるにとどめる(第46回委員会)。
7.8	臨時総会を聞き名誉会員をさらに若干名推薦することをきめる(第47回委員会)。
8.-	乗鞍山の宇宙線観測所完成。
9.9	第7回臨時総会(東京大学、田中館愛橘・長岡半太郎・本多光太郎を名誉会員に推薦可決)。
9.-	戦後初めて会員名簿刊行。
10.14	委員長改選、新委員長平田森三(50.11.1~51.10.31)(第49回委員会)。
11.1~5	第5回年会(大阪大学、講演604)。
11.2	GHQの要請で本年5月以降の学術的会合における発表の英文要旨(50~100語)の提出を会員に指示、滞納者(1200円以上約300名)の除名実施を決定(委員懇談会)。
12.9	第8回通常総会(東京大学、会員数9.30現在2,483、内・除名予定者384)。
12.20	会誌第5巻第6号『半世紀の回顧』記念号。
○	ノーベル物理学賞・パウエル「写真を用いて原子核破壊過程を研究する方法の展開、さらに諸中間子に関する諸発見」。
○	文化勲章・三島徳七。
○	恩賜賞・坂田昌一「二中間子論」。

物理学会関係

1951(昭和26)

2.10	学術会議物理学研究連絡委員会・委員候補者20名を選出(第53回委員会)。
3.3	分科会を常置の組織とする案が素粒子論研究者から提起され、重大な審議事項ゆえにこの問題のための懇談会を聞き十分協議することに決定。物理学関係配分委員33名を選出(第54回委員会)。
3.14	第1回分科会常置懇談会(分科会常置の代りに専門分科会委員会を置くことが提案された)。
4.21	第2回専門分科会委員会問題懇談会(専門分科委員会の具体的な規定、任務、構成などにつき協議)。
5.26	専門分科委員会を専門委員会と改称した(分科の利益代表であると受けとられることを避けるため)、この問題とは別に科学教育分科会の設置が提案されとりあえず年会の折にシンポジウムを開催することにきまった(拡大特務委員会)。
5.-	ローレンス来日、サイクロトロン再建を勧告。
7.14	特別委員会の規定を物理学会細則中に設け、素粒子委員会・分子構造委員会の設置を決定(第58回委員会)。
8.13	立教大、大阪大、大阪市大、气象台などの研究者協力し、筑波山で気球による成層圏の宇宙線研究開始。
8.17	北海道大、潜水探測機「くろしお号」の初試験実施(60.改造)。
10.5~9	第6回年会(大阪大学、講演586、10.10第1回科学(物理)教育シンポジウム開催)。
10.8	委員長改選、新委員長小谷正雄(51.11.1~52.10.30)(第60回委員会)。
11.2~4	第1回応用力学講演会(応用物理学会、日本機械学会など7学会と共催)。
12.8	物理学教育委員会設置を審議(第61回委員会)。
12.25	第9回通常総会(東京大学、会員数2,230)。
12.29	米、最初の原子力発電に成功(実験増殖炉により発生電力100kW)。
12.-	科学研究所、サイクロトロン(中心磁場16,000G)の再建に着手(52.12.29試運転に成功)。
	<input type="radio"/> ノーベル物理学賞・コッククロフト、ウォルトン「荷電粒子に対する高圧加速装置の考案とそれによる元素変換の先駆的研究」。
	<input type="radio"/> 文化勲章・西川正治、菊池正士。
	<input type="radio"/> 学士院賞・永田武「岩石の磁氣的性質に関する地球磁気学的研究」。

物理学会関係

1952(昭和27)

1.19	光学懇談会設立に協力し学会代表委員木内政蔵・久保田広を選出(第62回委員会).
2.16	科学教育委員会設置(委員長藤岡由夫, 委員15名)(第63委員会).
2.26	英首相チャーチル, 原爆保有を公表(10.3 モンテペロ島で初の原爆実験成功).
3.15~17	振動波動関係連合講演会(東京大学).
4.1	名誉会員へ推薦する候補選定. 学生会員制度導入は当分見合わせると決定(第65回委員会).
4.1~4	分科会(東京大学, 素粒子論・統計力学・分子構造など).
4.3	分子構造シンポジウム(日本化学会関東支部と共催).
4.3	素粒論グループ, 事務局設置.
4.4	科学教育シンポジウム(東京大学, 第1回科学教育委員会開催).
5.17	外国人会員制設置(会費年額6ドル, 外国滞在の日本人会員にも適用)(第66回委員会).
6.14	第10回臨時総会(学習院大学, 中村清二・寺沢寛一・木村正路を名誉会員に推薦可決).
6.27	学術会議選挙管理審議会, 原子核特別委員会設置(委員長朝永振一郎).
7.21	京都大学に湯川記念館開設.
7.-	東北大学金属材料研究所, ヘリウム液化器を設置, 極低温の研究を開始(全国共同利用).
7.-	中央气象台 IBM 統計機械を設置(9月から実用化).
10.11	委員長改選, 新委員長山内恭彦(52.11.1~53.10.31 新委員83名)(第70回委員会).
10.29~11.3	第7回年会(京都大学, 講演645).
10.-	学術会議, 原子力研究につき政府に申入れる茅・伏見提案を否決.
11.1	米, エニウエツク環礁で水爆実験.
11.3	日本物理教育学会設立発起人会(京都大学, 第3回科学教育シンポジウムの後).
11.15	物理教育学会第1回理事会議(東京教育大学, 会長藤岡由夫).
11.22	1953年度国際理論物理学会議開催に協力し, 学術会議・京都大学・物理学会の三者で共同主催することを承認(第71回委員会).
12.6・7	レオロジー討論会(東京工大, 日本化学会・高分子学会と共催).
12.20	第11回通常総会(東京大学, 会員数2651).
12.20	委員選出規定検討のための小委員会につき審議(第72回委員会).
-	気象用レーダーによる台風の観測始まる.
-	無線雨量ロボットによる山岳雨量の観測始まる.
○	ノーベル物理学賞・ブロッホ, パーセル「核磁気共鳴吸収の方法による原子核の磁気モーメントの測定」.
○	文化勲章・朝永振一郎.
○	学士院賞・坪井忠二「地殻の物理的性状に関する研究」.

物理学会関係

1953(昭和 28)

1.14	日本工業標準調査会委員に森口繁雄を推薦、賛助会員勧誘委員に小谷正雄他7名決定。国際理論物理学会議関係小委員会(委員長平田森三他委員6名)設置(第73回委員会)。
3.14	第3期学術会議選挙の有資格者名簿作成基準を決定(第74回委員会)。
4.6	水素結合シンポジウム(大阪学大)。
4.29~5.4	分科会(大阪大・大阪市大、半導体・誘電体など)。
4.-	『日本物理教育学会誌』創刊。
5.6	学術会議、原子核研究所の設立と反射望遠鏡の設置を政府に申入れ。
5.7	東大地震研究所、観測に支障ありとして浅間山の米軍演習地使用に反対(7.16使用取止め決定)。
7.18	制度検討小委員会(委員長小谷正雄他委員16名)設置(外部に対する諸推薦候補—学術会議会員・朝日科学奨励金など—の選出制度の整備を検討する)(第77回委員会)。
7.28	共同利用研究所として京都大学湯川記念館に基礎物理学研究所を、東京大学に乗鞍宇宙線観測所を設置。
8.8	ソ連首相マレンコフ、水爆保有を発表(8.12実験成功、8.20公表)。
9.10	モット、スレーター、ウィーラー公開講演会(東京大学)。
9.11~23	国際理論物理学会議(東京、日光、9.18~23京都で本会議)。
9.-	東京天文台、電波望遠鏡(口径10mのパラボラ反射鏡)観測開始。
10.3	委員長改選、新委員長茅誠司(53.11.1~54.10.31)、新委員87名(第79回委員会)。
10.15~20	第8回年会(東京大学、講演468)。
10.18	第12回臨時総会(東京大学、入会金100円を300円に値上げ決定)。
12.14	第13回通常総会(東京大学、会員数3101)。
-	日本質量分析学会創立。
-	宇宙線研究者会議発足。
-	地震研究所、釜石鉱山で人工地震の実験。
○	ノーベル物理学賞・ゼルニケ「位相差顕微鏡の研究」。

物理学会関係

1954(昭和29)

1.21	米, 最初の原子力潜水艦「ノーチラス号」進水.
2.27	学術会議, 原子力研究に対する学術会議の態度につき公聴会開催.
3.1	米, ビキニ水域で水爆実験.
3.1	日本放射性同位元素協会創立.
3.2	保守3党, 原子炉建設補助費2億3500万円を54年度予算修正案として突如提出(3.4衆議院通過, 科学者の時期尚早反対論起る).
4.1~3	分科会(東京工大, 場の理論・高分子など).
4.1	衆議院, 原子力国際管理決議案可決(4.5参議院も同趣旨の決議案可決).
4.3	最初の原子力予算をふくむ昭和29年度予算成立.
4.5~8	分科会(東京大学, 原子分子・光学分光学など).
4.23	学術会議第17回総会, 核兵器研究の拒否と原子力研究3原則(公開・民主・自主)を声明.
5.9	ソ連, 世界最初の原子力発電所臨界達成(AM-I, 出力5000kW, 6.27運転開始).
5.27	米原子力委員会特別委員会, オッペンハイマーを危険人物と認定.
5.-	ウラン資源調査対策委員会(会長立岩巖)発足.
7.11~13	分科会(東北大学, 磁気・極低温など).
7.16	原子核研究所の東京田無町設置決定, 地元に対立運動起る.
8.8	原水爆禁止署名運動全国協議会結成(事務局長安井郁, 5.9結成の杉並協議会が発端, 12.14現在署名2008万1232人と発表).
8.13	ロンデル結晶学講演会(東京大学, 8.20大阪大学).
9.24	東北大学シンクロトロン完成.
10.9	委員長改選, 新委員長小谷正雄(54.11.1~55.10.31), 新委員102名.
10.31~11.6	第9回年会(大阪大学, 講演625).
12.4	国連総会, 国際原子力機関の設立と原子力平和利用国際会議の開催に関する決議案を満場一致で採択.
-	ウラン鉱の調査開始.
○	ノーベル物理学賞・ポルン「量子力学についての研究」, ポーテ「原子核反応と γ 線についての研究」.
○	文化勲章・萩原雄祐.
○	学士院賞・山下英男, 小野勝次, 佐藤亮作「継電器式電気統計計算機の共同研究」.

物理学会関係

1955(昭和30年)

	本年より学会誌毎月発行，但し，1，2月号は合併号。 会誌編集方針 (1)解説，(2)講義，(3)最近の研究から，(4)談話室(自由投稿)， (5)展望，(6)研究室便り，座談会等，(7)新著紹介，(8)学界ニュース，(9)会告， 会合プログラム，本会記事。
1.22	委員長を東京以外にもおけるようにすることについて中間報告(第90回委員会)。
2.4~6	生物化学物理討論会(名大，講演13)。
2.12	電気伝導シンポ(九大，講演5)。
2.19	JournalとProgressの選択購読制について審議(第91回委員会)。
3.28~30	春の分科会 素粒子論，原子核理論，原子分子他(京大，講演239)。
3.31~4.3	磁気，金属・塑性，統計力学他(名大，講演40)。
4.8~10	放電，誘電体(東大，講演40)。
4.23	第90，91回委員会の件は継続討議，会誌に広告掲載の件審議(第92回委員会)。
4.28	学術会議第19回総会，濃縮ウラン受入れ問題討議。
5.7~9	応用数学力学分科会(奈良女子大，講演49)。
5.-	阪大に原子力工学科の講座開設。
6.2	イオン結晶分科会(東大理工研，講演5)。
6.2~3	レオロジー討論会(東大，講演30)。
6.9~11	原子核実験分科会(東北大金研，講演38)。
6.11	外国滞在者の会費免除制度審議(第93回委員会)。
7.1	東大に原子核研究所(核研)設置(東大附置全国共同利用，所長菊池正士)。
8.-	素粒子論グループ第1回夏の学校(木崎湖)。
8.25~27	磁気講習会及び展示会「強磁性体の基礎理論と応用」(学習院大，講師9人)。
9.15~27	生体物理シンポ(京大基研)。
9.17	第15回臨時総会(東大)。
9.17	職員の退職金規定細則6章20条を変更することを審議(第95回委員会)。
10.9~16	第10回年会(東京教育大・お茶大，講演693)。
10.13	委員改選 次期委員長湯川秀樹，副山内恭彦(55.11.1~56.10.31)(第96回委員会)。
11.27~28	電子顕微鏡大会(19学協会共催，産経会館ホール)。
11.30	原子力研究所設立(原研)(56.6.15特殊法人に改組)。
12.24	第16回通常総会(東大)。
○	ノーベル物理学賞・クッシュ，ラム「水素の微細構造のマイクロ波による測定」
○	文化勲章・増本量。
○	恩賜賞・藤田良雄「低温度星の分光学的研究」。
○	刊行『Supplement of Progress of Theoretical Physics』No. I, No. II。

物理学会関係

1956(昭和31)

1.1	原子力委員会発足.
4.1	金属および合金の相転移シンポ(東大工学部, 講演9).
4.5~6	放電分科会(東大工学部).
4.7~9	第2回応用物理学関係連合講演会(応用物理学会他6学会共催)東大.
4.14	別刷代値上げに関する件討議(第101回委員会).
4.28	学術会議(21回総会)核エネルギーの平和利用に関する声明.
5.1	科学技術庁発足.
5.12	物理学研究連絡委員会(物研連)委員選挙人の選び方に関する件審議(第102回委員会).
5.17~19	第1回応用数学力学講演会(日本物理学会・日本航空学会共催)(東大理工研, 講演55).
6.22	高分子電気材料に関する講演会(4学会共催)(東大工学部, 講演6).
6.23	静電気に関する研究発表会(9学会共催)(東大工学部, 発表者22).
7.1	金属材料技術研究所発足(科学技術庁所管).
7.5	会誌特集11巻7号「測定の自動化」.
7.16~20	第11回年会(東北大, 講演633).
7.17	日中物理学交流準備委員会(委員長野上茂吉郎)設立(第104回委員会).
8.-	第1回物性若手夏の学校(木崎湖).
9.4~7	半導体講習会(学習院大).
10.13	委員改選 次期委員長有山兼孝, 副三輪光男(56.11.1~57.10.31)(第105回委員会).
10.13~15	第6回応用力学連合講演会(京大工学部).
10.27~28	錯塩化学討論会(日本化学会関東支部共催)(学習院大, 講演57).
10.23~25	秋の分科会 金属・塑性, 統計力学, 極低温等(阪大・市立大, 講演202).
10.29~11.2	イオン結晶, 半導体等(東大, 講演81).
10.29~11.3	素粒子, 核理論, 実験, 宇宙線等(京大, 講演109).
11.7~11	生体物理, 高介子, レオロジー討論会等(京大, 講演56).
11.17	物研連委員選挙人を全会員の直接投票により選ぶ方法を実施することを原案どおり可決(第106回委員会).
12.15	第17回通常総会(東大, 会員数3553).
-	東工大に原子炉物理学講座, 京大に原子核反応, 放射化学, 原子炉構造, 原子核化学工学の4研究部門, ウイルス研究所設置.
○	ノーベル物理学賞・ショクレー, バーディーン, ブラッテン「半導体およびトランジスター効果の発見」
○	恩賜賞・志方益三, 館勇「ポーラログラフィの研究」.
○	学士院賞・山内恭彦「原子スペクトル理論への群論の応用」.

物理学会関係

1957(昭和32)

1.13~15	第1回原子力シンポ(学術会議他36学協会共催)東大工学部。
2.9	会費滞納1年以上の者に退会取扱を承認(第108回委員会)。
2.9~10	生体物理シンポ(東京慈恵医大,講演6)。
3.23	第18回通常総会(東大,会員数3667)。
4.1	物性研究所,東大附置置全国共同利用研究所として発足。
4.1	第2回金属材料の強度と疲労に関する総合シンポ(7学会共催)(東工大)。
4.1~3	応用物理学連合講演会(早大)。
4.6~8	春の分科会 磁気,極低温,原子分子,金属,塑性他(広島大,講演199)。
4.9~11	半導体,イオン結晶,誘導体他(九大,講演118)。
4.1~2	放電分科会(早大,講演25)。
5.17~19	素粒子,核理論,核実験他(金沢大,講演126)。
5.23~25	宇宙線(神戸大,講演51)。
5.29~30	高分子,統計力学,生体物理他(静岡大,講演51)。
5.22~24	流体力学他,第2回応用数学力学講演会(岐阜県市町会館,講演62)。
4.20	第1回訪中物理学代表团決定(团长朝永振一郎,33名5.7頃出発)(第110回委員会)。
4.26	学術会議,全世界の科学者に原水爆実験禁止を訴える。
5.18	核磁気共鳴に関する講演会(6学会共催)(阪大,講演6)。
5.22~24	第2回応用数学力学講演会(航空学会共催)以後第10回まで毎年開催。
6.29	放射線医学総合研究所発足(科学技術庁所管)。
7.10~13	原子核と原子力講習会(阪大工学部)。
8.27	原研JRR-1原子炉(ウォーターボイラー型)臨界点に達し原子の火ともる。
9.7~9	第7回応用力学連合講演会(7学会共催)(東大工学部)。
9.14	別刷代変更2割値上げ(58.1より),一般および外国会員の会費値上げ(第113回委員会)。
9.30	東大核研,サイクロトロン試運転に成功。
10.13~14	レオロジー討論会(4学会共催)(東大理工研,講演12)。
10.15~20	第12回年会(東大教養,講演626),分子の電子状態討論会(講演23)。
11.9	会費値上げ決定(58年度2100円,59年度以降2400円),前納者会費割引制設定,委員改選次期委員長永宮健夫,副今井功(57.11.1~58.10.31)(第114回委員会)。
12.14	学生会員制設置,金沢に北陸支部をおくことを決定(第115回委員会)。
○	ノーベル物理学賞・リー,ヤン「パリティの非保存則の研究」。
○	文化勲章・小平邦彦「調和積介論の基本定理を完成」(1954年フィールズ賞受賞)。
○	学士院賞・小平邦彦。

物理学会関係

1958(昭和33)

2.5	会誌特集13巻2号「測定実験技術」.
2.7~9	第2回原子力シンポ(学術会議, 原子力特別委員会, 原子力研究所, 原子燃料公社, 物理学会他35学会共催)(学士会館, 一橋講堂, 鉱山会館, 講演272).
2.8	阪大超高温研究グループ, 放電管内でプラズマで推定1,000,000°Cを得, 中性子, X線の発生を認めたと発表.
2.15~16	生体物理シンポ(阪大医学部, 講演8).
3.15	第19回通常総会(東大, 会員数3764).
3.27~30	春の分科会 イオン結晶, 金属, 磁性, 半導体等(東工大, 講演322).
5.1~5	素粒子, 原子核理論, 実験, 宇宙線等(名大, 講演156).
5.26~28	圧縮流体, 粘性流体, 乱流電磁流体力学等(都立大, 講演70).
3.31	京大に原子核工学科設置, 東大に生物化学科設置.
4.1	東大理工学研究所を廃止, 航空研究所を復活, 阪大に蛋白質研究所を設置, 東工大窯業研究所を工業材料研究所に改組.
4.-	4国立大, 1私大で初の新制博士号授与(計61人).
4.12	年会における分科の分類25とすることを検討(第118回委員会).
4.18	学術会議, 科学技術会議設置法案に反対.
5.16	東北大金研, 極強磁場装置完成(50万Oe).
5.16	応用物理学会との協力について理事懇談会(東大).
5.26~28	第3回応用数学力学講演会(都立大, 講演70).
7.12~15	X線解析法講習会(結晶学会共催)(都立大).
9.6~8	第8回応用力学連合講演会(7学会共催)(東大).
10.13	第1回核融合懇談会(京大, 講演102).
10.13~14	分子の電子状態討論会(京大, 講演44).
10.15~20	第13回年会(京大, 講演651).
10.18	委員改選 次期委員長友近普, 副高橋秀俊(11.1~59.10.31). 年会を東京で隔年に開催する習慣をやめることを承認(第123回委員会).
11.5	会誌特集13巻11号「日本の核物理」.
11.15~16	錯塩化学討論会(日本化学会共催)(立教大, 講演54).
11.27~28	学術会議物研連の中に日中交流小委員会設置.
11.27~30	最近のX線分析講習会(主婦会館).
12.5~6	学術会議, 放射線影響シンポ開催.
12.-	学術会議, 学問思想の自由を守るための声明, 原子力開発についての勧告を科学技術庁長官へ.
○	ノーベル物理学賞・チェレンコフ, タム, フランク「チェレンコフ効果の発見と解釈」.

物理学会関係

1959(昭和34)

1.14	原子力研究所国産1号炉着工.
1.24	名誉会員推薦, 終身会員制度について審議(第126回委員会).
2.1	第1回北陸支部例会及び発会式(金沢大, 講演8).
2.14	日本原子力学会設立.
2.12~13	第3回原子力シンポジウム講演会.
3.14	終身会員制度の成文化, 会員名簿記載事項について審議(第128回委員会).
3.14	第20回通常総会(東大, 会員数4120).
3.23	学術会議, 基礎科学振興シンポジウム開催.
3.31	第4回金属材料の強度と疲労シンポジウム(8学会共催)(東大, 講演8).
3.31~4.4	物性関係分科会, 第9回応用物理学関係連合講演会(東京理大, 講演679).
4.3	原子力研究所, 東海研究所内に原子炉研修所開く.
4.5	会誌特集14巻4号「磁場の生成と測定」.
4.7~10	素粒子論, 原子核理論等分科会(立教大, 講演168).
4.21	学術会議, 基礎科学白書第1集を発表(研究費の不足, 設備の老朽化を訴える).
5.1	学術会議, 原子力基本法厳守について勧告.
5.14	学術会議, 核融合研究に関するシンポジウム.
6.-	学術会議, 学術視察団西ドイツへ出発(兼童会長以下10名).
7.11	学会章, 名誉会員章のデザイン懸賞募集の件, グループの研究会情報を会誌に掲載する件審議(第132回委員会).
8.27~29	格子欠陥仙台会議(東北大金研, 講演26).
8.31~9.7	電子計算機講習会(東大, 講義出席者428人, 実習者176人).
9.12	職員退職金規定の成文化(第133回委員会).
10.8~12	第14回年会(広島大, 講演803).
10.20	学術会議「基礎科学についての声明と白書」発表, 原子核研究等欧米との格差増大.
10.22	学術会議「科学者の生活白書」発表, 科学者の低収入と研究の悪条件を強調.
11.1~3	相転移ならびに異常分散に関する国際シンポジウム(大阪市中央電気クラブ).
11.-	『結晶学会誌』11月より発刊.
12.2	京大, ヘリオトロンA(超高温プラズマ発生装置)完成, 公開.
12.23	委員改選, 次期委員長今井功, 副鳩山道夫(59.11.1~60.10.31), 終身会員制成文化, 学会章の懸賞募集要項に関する件決定(第136回委員会).
○	ノーベル物理学賞・セグレ, チェンバレン「反陽子の発見」.
○	文化勲章・丹羽保次郎.
○	恩賜賞・今井功「航空力学への貢献」.
○	学士院賞・久保田広「光学系の映像に関する研究」.

物理学会関係

1960(昭和35)

1.18	学術会議, 原子力開発長期計画についての第1回シンポ.
1.23	Journal 海外向け購読料値上げ \$10 → \$15, 外国会員費 \$7.5 → \$10. 61年実施(第137回委員会).
3.11	学術会議宇宙空間研究連絡委員会, 宇宙空間科学シンポ開催.
3.12	増収策(会誌別刷代金, 年会参加費値上げ案等)について審議. 国際会議募金委員会の設置(第139回委員会).
3.12	第21回通常総会(東大, 会員数4467).
4.2~7	第15回年会(東大, 講演731).
4.6	素粒子論懇談会, アインシュタイン-ラッセル声明, バグウォッシュ運動の支持を声明.
5.18	X線マイクロアナライザー研究会(4学会共催)(電気工業会館, 講演7).
6.11	応用物理学会の欧文誌出版計画に関連する問題について検討(第142回委員会).
8.16~20	第1回生物物理若手夏の学校, 核酸を中心とする生物物理研究会(京都会館).
9.1~3	第10回応用力学連合講演会(8学会共催)(日大理工, 講演数148).
9.6~8	磁気共鳴講習会(学習院大, 聴講者284人, 実習参加者192人).
9.26~28	秋の分科会 結晶塑性, 格子欠損, 金属等(北大).
9.30~10.2	半導体, イオン結晶, 光物性等(東北大).
10.15~18	素粒子, 核理論, 核実験等(九大).
10.17~19	宇宙線(山梨大).
10.17~20	放電, プラズマ物理, 核融合等(名大).
10.21~24	磁性, 低温実験, X線電子線等, 中性子回折シンポ(阪大).
10.5	会誌特集15巻10号「生物物理」.
10.29	赤字対策(Journal掲載論文1ページ当たり組版代500円徴収, 講演料申込み1題につき100円は見送り)61年実施(第145回委員会).
11.11~13	第5回応用数学力学講演会(航空学会共催)(愛媛大, 講演1033).
11.13	高エネルギー将来計画シンポ(名大, 講演4).
11.18	第2回原子力研究所研究成果発表会(日消ホール, 講演5).
12.10	生物物理学会発足.
12.20	委員改選 次期委員長鳩山道夫, 副高橋秀俊(60.11.1~61.10.31). 終身会員のJournal購読料6割負担, 委員の都内近郊の交通費の規定改定を承認(第147回委員会).
○	ノーベル物理学賞・グレーザー「泡箱の発明」.
○	文化勲章・岡潔「多変数関数論の未解決の問題を解決」.
○	学士院賞・神田英蔵「低温度における凝縮気体の性質および極低温における磁性の研究」.

物理学会関係

1961(昭和36)

-
- 1.21 会員バッジ 200 円に決定, 会誌原稿料 1 枚につき 200 円承認 (第 148 回委員会).
- 1.25 X 線マイクロアナライザー研究発表会 (早大, 講演 6).
- 2.11 核特委, 学研連, 原子核研究将来計画シンポジウム開催.
- 3.18 Progress 値上げ, 7.1 より正会員 1800 → 2400 円, 学生会員 1500 → 1800 円 (第 150 回委員会).
- 3.18 第 22 回通常総会 (東大, 会員数 4763).
- 3.31 名大にプラズマ研究所 (共同利用), 広大に原爆放射能医学研究所, 阪大に基礎工学部各設置.
- 4.1 名大理学部に分子生物学研究施設設置.
- 4.3 第 6 回金属材料の強度と疲労シンポジウム (5 学会共催) (早大, 講演数 8).
- 3.31~4.2 春の分科会 誘電体, 結晶, 塑性, 金属等 (早大, 講演 108).
- 4.1~4 放電, プラズマ物理, 核融合等 (日大歯, 講演 67).
- 4.3~5 半導体, イオン結晶, 光物性等 (阪大, 講演 135).
- 4.5~9 素粒子, 核理論, 核実験, 放射線物理等 (東教大, 講演 317).
- 5.15~17 高分子, 生体物理 (信州大, 講演 54).
- 4.27 学術会議 33 回総会, 研究費の増額, 自主的将来計画, 研究体制 5 要綱の発展整備, 研究公開, 成果の平和的利用の基礎科学振興 5 原則声明.
- 5.5 会誌特集 16 巻 5 号「半導体」.
- 5.19 国立臨時教員養成所設置 (北大, 東工大など 9 国立大学に付置, 3 年制).
- 6.17 国際会議の Proc. の刊行に関する件審議, 本会出版委員会が担当と決定 (第 153 回委員会).
- 6.29~7.1 格子欠陥シンポジウム (虎の門共済会館, 講演 17).
- 8.29~9.1 生物物理夏期研究会「生体における情報」(京大主催, 琵琶湖畔堅田).
- 9.4~15 国際宇宙線地球嵐会議 (京都会館, 講演 386, 国外 26 か国 197 人, 国内 260 人).
- 9.16 応用物理欧文誌刊行準備委員会, 10.3 発足 (第 156 回委員会).
- 9.25~30 国際磁気学結晶学会議 (京都会館, 講演 299 国外 18 か国 225 人, 国内 597 人).
- 10.9~14 第 16 回年会 (金沢大, 講演 818).
- 11.- 委員改選 次期委員長高橋秀俊, 副熊谷寛夫 (61.11.1~62.10.31).
- 12.16 東大核研の電子シンクロトロン, 第 1 段階の目標エネルギー 750 MeV に到達.
- 12.- 放射線物理研究会発足 (機関紙として『放射線物理』季刊として発行予定).
- ノーベル物理学賞・ホフスタッター「高エネルギー電子の原子核散乱による核子構造の研究」, メスバウアー「メスバウアー効果の発見」.
 - 文化勲章・水島三一郎.
-

物理学会関係

1962(昭和37)

3.17	事務合理化委員会を設定(第162回委員会).
3.17	第23回通常総会(東大, 会員数5287).
4.1	東大に海洋研究所設置(共同利用), 工学部に都市工学科設置.
4.1	学術会議36回会議(科学研究基本法承認).
4.3~8	第17回年会(阪大, 講演810).
4.4	物理学研究将来計画に関するシンポ(阪大).
4.6	会費納入及び購読料半年単位で前納することを審議(第163回委員会).
5.18	学術会議, 科学研究基本法制定の必要を政府に勧告.
6.23	格子欠陥国際会議のProc.の頒布値, 会議登録料を決定(第165回委員会).
7.5	会誌特集17巻7号「原子衝突論」.
7.17~20	高分子の構造と物性講習会(日本化学会高分子学会主催)(学習院, 聴講者543名).
8.11	Progress購読料(学生1800→2400円, 正会員2400→3000円)内規変更(第167回委員会).
8.20~22	第2回固体内の輸送現象研究会.
8.27~31	第4回宇宙技術と科学の国際シンポ(東京日本都市センター).
9.3~12	格子欠陥国際会議(学術会議主催)(9.3~4 東京商工会議所, 講演27, 国外12か国89人, 国内258人), (9.7~12 京都会館, 講演135, 国外14か国118人, 国内402人).
9.10~14	国際分子構造分光学会議(赤坂プリンスホテル, 都市センターホール, 講演280, 国外25か国200人, 国内650人).
9.12	原子力研究所国産1号炉(JRR-3), 臨界に達する.
9.14	写真感光シンポ(3学会共催)(東条会館ホール, 講演数10).
9.15	半導体講演会(物性研講堂)講演3.
9.19~22	秋の分科会 プラズマ, 核融合, 放電等(東北大, 講演148).
9.25~27	素粒子, 核理論, 宇宙線(北大, 講演123).
10.8~11	格子欠陥, 金属, 半導体等(東工大, 講演455).
10.10~11	光学, 測定技術, 音響(神戸大, 講演11).
10.20~22	誘電体(名大, 講演46).
10.3~5	第2回炉物理分科会発表会(日本原子力学会主催)(日本化学会図書館).
11.10	日本ME学会設立(医学・生物学のための電子機械工学の方法等研究).
11.17	支部費予算査定(第170回委員会).
11.22	日本原子力研究所研究成果普及講演会(朝日新聞講堂, 講演8).
11.-	委員改選 次期委員長熊谷寛夫, 副坂田昌一(62.11.1~63.10.31).
12.-	低温工学懇話会発足(会長神田英蔵, 年5回会誌発行).
○	ノーベル物理学賞・ランダウ「凝縮系、とくに液体ヘリウムの理論的研究」.

物理学会関係

1963(昭和 38)

1.21~22	ベータ崩壊の研究会(京大基研).
1.26	特別会計として国際会議基金新設(第172回委員会).
1.31~2.2	半金属の物性研究会(出席60人).
2.16	会費値上げ(正会員1800, 学生1200, Journal会費, 正会員1500円等)(第173回委員会).
2.22~23	第1回原子力総合シンポ(22学協会共催, 5団体後援)(学士会館, 特別講演9, 討論会2).
2.22~23	第5回電磁流体力学シンポ(航空学会共催)(東大航研, 講演数10).
3.16	第24回通常総会(東大会員数5772).
3.16	国際会議基金運営規則制定(第174回委員会).
3.31	京大に数理解析研, 原子炉実験所設置.
4.1	東大宇宙航空研の研究施設として鹿児島宇宙空間観測所設置.
4.2	金属材料の強度と疲労に関する総合シンポ(6学会共催)(東大, 講演8).
4.4~9	第18回年会(日大文理学部, 講演877).
5.-	東大物性研究所で超高温発生装置(約10万気圧3000°C)の本格的運転開始.
6.3~6	ベータ崩壊とミュー中間子捕獲の長期研究会(京大基研, 講演19).
6.13~15	物理科学総合研究機構シンポ「物理学の具体的問題点, 物理学の将来計画」(核特委主催, 名大プラ研).
6.15	第25回臨時総会, 会費値上げその他について(東大, 会員数5902).
7.17~20	物理分析法講習会並びに器械展示会(学習院大)聴講者311人.
8.1~7	若手夏の学校 物性(第8回)(野沢温泉村), 参加大学院学生184人, 会社研究所37人.
8.8~14	素粒子論(野沢温泉村), 参加88(学生79)人.
8.13~18	原子核(木崎湖), 参加48(講師4)人.
8.27~9.2	プラズマ(第1回)(蓼科高原), 52人.
9.5~9	分子科学(第3回)(清里清泉寮), 71人.
10.5	事務所建設基金の設定(第180回委員会).
10.13~16	秋の分科会 格子欠陥, 金属, 半導体等(九大, 講演675).
10.25~28	放電, プラズマ, 核融合(京大, 講演106).
10.25~28	素粒子, 核理論, 宇宙線等(大阪市大, 講演225).
11.-	委員改選 次期委員長今井功, 副伏見康治(63.11.1~64.10.31).
○	ノーベル物理学賞・ウィグナー「原子核と素粒子の理論における対称性原理の発見と応用」, メーヤー, ジャンセン「原子核の殻構造に関する研究」.
○	文化勲章・古賀逸策.
○	恩賜賞・永宮健夫「反磁性体の理論的研究」.
○	刊行『Journalの論文をよくするために』初版発行. 『物性研究』創刊10月(『物性研究』終刊), 物理学会編『高分子の物理』朝倉書店9月刊行.

物理学会関係

1964(昭和39)

2.12~13	第2回原子力総合シンポ(25学協会共催, 6団体後援)(学士会館, 講演20).
2.17~18	電磁流体力学シンポ(他2学会共催)(東大航研, 講演8).
2.19~21	核研究学会「重い核の核構造」.
3.14	第26回通常総会(東大, 会員数6265).
3.14	事務所建設基金運営規則制定(第184回委員会).
3.27	東大航空研・同生産技研ロケット部門を合併して東大宇宙航空研を設立(共同利用). 東工大に原子炉工学研を設置.
3.31~4.4	物性関係分科会, 第11回応用物理関係連合講演会(中央大, 講演71).
3.31~4.4	放電・プラズマ物理, 核融合分科会, 第9回応用数学力学連合講演会(日大理工, 講演138).
4.-	東大教養学部基礎科学科設置.
4.6~9	金属, 磁性, 磁気共鳴, 半導体, 物性基礎論, 低温等分科会(東北大, 講演291).
4.6~9	素粒子, 核理論, 実験, 宇宙線, 放射線物理分科会(京大, 講演227).
4.21~23	第1回理工学における同位元素研究発表会(37学協会共催)(東大, 講演144).
7.17~20	量子エレクトロニクス講習会(学習院大, 聴講者368人).
8.1~8	夏の学校 物性グループ(菅平), 参加311(うち講師20)人.
8.2~8	プラズマ若手グループ(霧ヶ峰高原), 参加68(うち講師6)人.
8.9~15	素粒子, 原子核, 宇宙線(白馬学生村), 参加220人.
9.1~8	国際光学会議(学術会議及び応用物理学学会共催)(9.1~5 東京プリンスホテル, 9.6~8 京都国際会議場, 講演80)参加 国外200人, 国内300人.
10.5~10	第19回年会(名大, 講演997).
11.-	委員改選 次期委員長久保亮五, 副小林稔(64.11.1~65.10.31).
11.-	東大に大型計算機設置(HITAC-5020 3機).
12.5	会誌特集19巻12号「原子分子理論最近の発展」.
12.12	年会参加費徴収300円, 論文選集既刊分6月から80%値上げ, Journalの組版投稿者負担分算定方式改定(第192回委員会).
○	ノーベル物理学賞・タウンズ「量子エレクトロニクス基礎研究」.
○	パゾフ, プロコルフ「レーザーメーザーの原理とその発展」.
○	文化勲章・茅誠司.
○	恩賜賞・武藤清「耐震構造に関する研究」.
○	学士院賞・森野米三「気体電子回折およびマイクロ波分光による分子構造の研究」. 西島和彦「素粒子の相互転換に関する研究」.

物理学会関係

1965(昭和40)

2.13	日中物理学交流小委員会設置(中国物理学代表国招待の準備のため、委員長有山兼孝、67.4の第22回年会において、代表団メンバーによる特別講演を予定するところまで招待計画が進行したが、先方の都合により中止、その後先方より訪日無期延期の申し入れがあり、67.7.8 第22回委員会において同小委員会一応解散)。(第194回委員会)。
3.13	第27回通常総会(東京大学、会員数6650)。
3.31~4.3	春の分科会 素粒子・原子核・宇宙線・放射線分科(東北大学、講演219)、 磁性・磁気共鳴・金属・低温・物性基礎論分科(京都大学、講演212)。
4.1	弘前大・静岡大・鹿児島大に理学部設置(以後66~79年までに国立新制大12大学に理学部設置)。
4.1	新潟大・神戸大・奈良女子大に大学院理学研究科(修士課程)設置(66年佐賀大に設置)。
4.6~10	第12回応用物理学関係連合講演会・日本物理学会物性関係分科会合同講演会(早稲田大学、講演875)。
4.24	制度検討小委員会設置(6.11 第1回委員会、4回にわたる討議の結果を10.11 第202回委員会に報告。67.10.22 第214回委員会において解散)(第196回委員会)。
5.-	『投稿の手引』第1版刊行(JournalとJJAPのために、73年改訂版、93年1月1993年版)。
6.12	定款、細則の変更に伴う内規の変更可決(今後、会員の入会許可は委員会議の議を経て行う)(第198回委員会)。
7.11~15	プラズマ・核融合・放電・応数力学分科会(北海道大学、講演213)。
7.17	第28回臨時総会(東京大学)定款変更、欧文誌の自由講読制、会費を基本会費(定款に規定)と付加会費(細則に規定)の二本立てとする(1966年度より基本会費年額、正会員2,700円、学生会員2,000円、付加会費年額Journal 2,400円、JJAP 1,500円、Progress 2,400円、定款変更認可65.9.9)。
7.20~23	講習会「単結晶作製法」(学習院大学、講義数22、聴講者373)。
9.1~3	NMR国際シンポジウム(東京 赤坂プリンスホテル、日本分析化学会主催、5学会共催、8.30同シンポジウム講演会 東大)。
9.2~4	Honolulu Meeting(ハワイ大学、日米物理学会共催、講演409、参加者約560、内本会会員60.6.12 第198回委員会において「米軍がベトナムで戦争行為をやめるまで同ミーティングの延期を米国物理学会に申し入れる」という5人の会員による提案を審議打ち切り)。
9.5~17	Tokyo Summer Institute of Theoretical Physics(神奈川県大磯クリスチャンアカデミーハウス、日本学術振興会主催、本会協賛、9.5~10「多体問題」、9.12~17「場の理論」)。
9.7・8	物理教育シンポジウム(国際キリスト教大学、日本物理教育学会と共催)。
9.20	単行書『量子エレクトロニクス』朝倉書店より刊行(1964年講習会に基づく)。
9.23	中間子論30周年記念講演会(京都会館、本会主催、講演2、会誌21巻4号に掲載)。
9.24~30	中間子論30周年記念:素粒子の国際会議(京都会館、学術会議主催)。
10.10~15	第20回年会(岡山大学、講演1099、参加費徴収開始300円、64.12.12 第192回委員会で決定)。
10.-	学術会議、科学総合計画第一次五ヶ年計画を総会で可決、政府に勧告、 委員長改選、新委員長伏見康治(65.1.1~66.10.31)。
○	ノーベル物理学賞・朝永振一郎、シュウィンガー、ファインマン「量子電気力学分野での基礎的研究」。
○	学士院賞・江崎玲於奈「エサキダイオードとその応用の研究」。

物理学会関係

1966(昭和41)

1.29	第29回臨時総会(東京大学)事務所移転のための定款変更(東京大学理学部内→機械振興会館内)。
2.14~15	第4回原子力総合シンポジウム(学士会館本館, 本会共催)。
2.19	新機軸による分科会開催の試み決定(66秋の分科会より, (1)テーマをしばって原著募集を行うこともできる。(2)シンポジウム形式とすることもできる。(3)分科会を開催しないこともできる。以上の選択は各分科の世話人が行う。実施面での新機軸: 予稿集原稿は1篇1/2ページを単位とする。ピラをやめてスлайド一本。講演申込資格として, 申込当日会員であることが必要)(第206回委員会)。
2.28	単行書『単結晶作成法』朝倉書店より刊行(1965年の講習会に基づく)。
3.5	会誌21巻3号, 特集「宇宙空間物理学」。
3.31~4.5	第21回日本物理学会年会・第13回応用物理学関係連合講演会合同講演会(東京大学・東海大学・日本大学, 講演1554)。
4.5	東大に大型計算機センター設置(全国共同利用。69年東北大・京大・阪大・九大, 70年北大, 71年名大に設置)。
4.19~21	第3回理工学における同位元素研究発表会(東京大学, 41学協会共催)。
6.11	欧文誌付加会費改定(1967年度よりJournal 2,400円→3,000円, JJAP 1,500円→2,000円)(第211回委員会)。
7.19~22	講習会「低温物理学の基礎と応用」(学習院大学, 講義数16)。
7.23~31	北京シンポジウム1966年暑気物理討論会(北京, 本会後援, 論文数99, 33か国144人, うち日本31人)。
8.1~7	物性若手グループ夏の学校(長野県 野沢温泉)。
8.8~14	素粒子論・原子核・宇宙線若手グループ夏の学校(長野県 野沢温泉)。
8.29~9.3	2nd Tokyo Summer Institute of Theoretical Physics(大隈クリスチャンアカデミーハウス, 学術振興会主催)。第1期8.29~9.3「光物性のダイナミクス」。第2期9.12~17「高エネルギー物理」。
9.8~13	半導体国際会議(京都会館, 本会主催, IUPAP・学術会議・文部省後援, 論文数147, 外国218人, 日本317人)。
10.1~4	秋の分科会 磁性・磁気共鳴・低温・金属・物性基礎論統力分科(北海道大学)。
10.11~15	素粒子・原子核・宇宙線・プラズマ・応数力学分科など(大阪大学)。
10.12~15	半導体・イオン結晶・光物性・原子分子・量エレクトロニクスなど(新潟大学)。
	格子欠陥・結晶成長・X線粒子線・誘電体・放射線分科(名古屋大学)。
10.12~14	第11回応用数学力学講演会(大阪大学, 日本航空学会・本会共催・講演54)。
10.19~20	第16回応用力学連合講演会(東京大学, 7学協会共催)。
11.1	事務所を機械振興会館に移転(11.12 移転記念パーティー, 12.5 蔵書移管)。
11.19~20	第15回高分子討論会(大阪大学, 3学会共催, 本会高分子分科会合流, 講演124)。
1.24~26	第15回レオロジー討論会(東京工業大学, 12学協会共催, 講演49)。
12.15~18	生体物理分科会(京都大学および基礎物理学研究所, 日本生物物理学会第5回一般講演会と合同, 講演165)。
12.一	半導体国際会議(1966)のProc.をJournal vol.21のSuppl.として刊行。
一	委員長改選, 新委員長高橋秀俊(66.11.1~67.10.31)。
○	ノーベル物理学賞・カストレル「原子のラジオ波共鳴の研究のための光学的方法の発見と開発」。

物理学会関係

1967(昭和42)

1.-	Journal vol. 22 より年 1 巻→2 巻 (1 巻 6 号) になる (ページ数急増のため)。
3.18	第 31 回通常総会 (機械振興会館, 会員数 7333)。
4.2~7	第 22 回年会 (東北大学講演 1278, 66.7.9 第 212 回委員会で開催方針決定: 年会は一律の方針を取り, 講演時間一律 10 分, 1 人 1 回登壇, 予稿原稿一律 1/2 枚, 素粒子分科を除きピラはやめて幻燈一本とし, ピラ掛けの用意せず)。
4.4	特務委員会に委員会の権限の一部を委譲 (制度検討の議論で「さしあたり運営面の能率化を目標に定款変更を必要としない程度の小改革を行う」という方針を立て, 委員会は重要事項だけを審議, あまり重要でないことや事務的なことについては特務委員会に決定権を委譲, 委譲する案件は各期の第 1 回委員会議で決定とする) (第 220 回委員会)。
5.13	半導体国際会議 (1966) への米軍補助金問題につき事情説明 (同国際会議実行委員会セクレタリーより, 5.5 朝日新聞に上記関係記事掲載後, 委員および会員から事実公表の要望書提出, 5.25 学術会議, この件を遺憾とし今後は受けぬと発表), Journal の頁数急増の対策委員会設置 (第 221 回委員会)。
7.1	半導体国際会議への米軍補助金問題に関して会員 80 人より臨時総会請求書提出 (7.8 までに署名者数 544, 他に京都支部会員および名古屋支部からも同趣旨の申し入れ)。
7.8	第 32 回臨時総会 (機械振興会館) 基本会費値上げのための定款変更 (1968 年度より正会員 2,700 円→3,600 円, 学生会員 2,000 円→2,400 円, 定款変更認可 67.8.18)。
7.8	欧文誌付加会費の改定 (1968 年度より JJAP 2,000 円→2,500 円, Progress 3,600 円→4,800 円, Journal は据置き) (第 222 回委員会)。
7.18~21	講習会「金属の物理的性質」(科学技術館ホール, 講演 16, 聴講者 251)。
8.5	会誌 22 巻 8 号に「半導体国際会議に米国陸軍極東開発局からの補助金を受けたことに関する事情説明」および「委員長談話」掲載。
9.7~13	原子核構造国際会議 (東京プリンスホテル, 学術会議主催, IUPAP・本会他共催, 講演 423, 外国 274 人, 日本 231 人)。
9.9	第 33 回臨時総会 (機械振興会館), 半導体国際会議米軍補助金問題に関連して決議 1, 2, 3 可決 (決議 3「日本物理学会は今後内外を問わず, 一切の軍隊からの援助, その他一切の協力関係をもたない。」)。
10.5	会誌 22 巻 10 号, 特集「素粒子研究所」。
10.7	第 223 回委員会において第 33 回臨時総会の決議に伴う今後の具体的運営について議論 (以後, 特に決議 3 の扱いについて 1970 年末頃まで毎回の委員会で議論続行, その後も各期の委員会の引継事項として存続)。
10.10~14	秋の分科会 素粒子・原子核・宇宙線分科 (神戸大学, 講演 207)。
10.12~15	磁性・半導体・金属・低温・物性基礎論分科など (広島大学, 講演 784)。
10.21~25	放電・プラズマ・核融合・応数力学分科 (愛媛大学, 講演 223)。
12.9	第 33 回臨時総会速記録の扱い決定 (委員全員に無料配布, 会員希望者に有料頒布, 会誌 23 巻 1 号に広告), 事務局職員貸付規定制定, 事務局次長を置くための細則変更 (第 224 回委員会)。
-	委員長改選, 新委員長伊藤順吉 (67.11.1~68.10.31)。
○	ノーベル物理学賞・ペーテ「核反応の理論への貢献, 特に星におけるエネルギー発生に関する発見」。
○	学士院賞・末元善三郎「太陽および恒星の彩層の研究」。

物理学会関係

1968(昭和43)

1. -	会誌 23 巻 1 号より表紙デザイン変更 (セピア色地、白抜き「Buturi」→からし色枠、黒字「Butsuri」).
1.20	決議 3 に関連して講演 (渡辺武男「日本学術会議での国際学術交流のあり方」、会誌 23 巻 3 号に掲載) (第 225 回委員会).
2.17	分科の世話人選定方針の変更 (委員会候補を選定→各分科の世話人に候補選定依頼、委員会で承認)、就業規則小委員会設置 (事務局職員の就業規則等立案、68.11.16 第 234 回委員会で解散) (第 226 回委員会).
3.5	会誌 23 巻 3 号に第 33 回臨時総会 (67.9.9) 議事録掲載.
3.16	第 34 回通常総会 (機械振興会館、会員数 7583、半導体国際会議への米軍援助金 792,000 円の収支決算書承認).
3.16	文部省科研費補助金配介委員候補の推薦の方針決定 (本会としては、学術会議から委員候補の推薦を依頼された場合にのみ推薦に応ずることに決定、この年、文部省が配分委員の新選定方式を強行して学術会議と意見が対立、学術会議は委員を推薦せず文部省が独自に委員を選任、68.5.15 名大物理教室より文部省の新方式に反対、配分に非協力の決議、68.8.5 物性若手グループ夏の学校総会において、不当な配分方式に抗議、その受取りを拒否、今年度配分審査委員に抗議の声明、68.10.17 名大物理教室より、配分を返上した研究者の行動を支持し文部省に抗議する決議、など、1969 年度は、学術会議と文部省の間に一応の了解が成立、本会も学術会議に審査委員を推薦) (第 227 回委員会).
4.1~6	第 23 回年会 (大阪大学講演 1262、4.3 第 33 回臨時総会の事後処理方針に関する公聴会、4.4 有志による「ベトナム戦争と物理学者の役割」討論会開催、決議及び核武装に関する声明採択).
5.11	次期委員立候補募集方針の変更 (従来事務局による特定の個人宛の勧誘を今より取り止め)、測定技術分科の廃止 (講演申込み非常に少ないため) (第 229 回委員会).
6.7	旧図書委員会解散、新図書小委員会発足 (旧図書委員会は移転に関する事項完了により解散、新図書小委員会は特務委員会の下部機構として常置、図書業務に関する審議を行う) (第 230 回委員会).
8.5	会誌 23 巻 8 号に半導体国際会議 (1966 年) に際し導入された米軍資金についての「事実調査報告」、同報告に関する「委員長の見解」ほか掲載.
9.9~14	統計力学国際会議 (京都会館、本会共催、講演 102、外国 92 人、日本 184 人).
9.26~30	秋の分科会 放電・プラズマ・核融合・応数力学分科 (東京都立大学、講演 229).
10.4~7	素粒子・原子核・宇宙線・磁性・統力学分科など (東京工業大学、講演 500).
10.13~16	半導体・原子分子・高分子・生物物理分科など (電気通信大学、講演 517).
10.28~31	基礎物理学研究所 15 周年シンポジウム.
11.14	1969 年春の合同講演会に関する要望 (開催地の一つ、立教大学物理教室より、軍機関係者の発表などの事態が起こらぬよう物理学会に十分な配慮を要望、68.12.7 第 235 回委員会において、開催地の要望を尊重し学協会共同の運営委員会に申し入れ決定).
11.30	単行書『金属の物理的性質』裳華房より刊行 (1967 年の講習会に基づく).
12.5	会誌 23 巻 12 号に「臨時総会の決議 3 を実施するための方針について」掲載. (68.10.26 第 234 回委員会で認めた運営方針報告、会誌 24 巻 7 号に訂正版).
-	委員長改選、新委員長小林稔 (68.11.1~69.10.31).
○	ノーベル物理学賞・アルバレ「水素泡箱の使用、データ解析の技術の開発による多数の共鳴状態の発見」.
○	学士院賞・谷一郎「境界層に関する流体力学的研究」、加藤愛雄「地磁気の変化、磁場とその微細変動の原因に関する研究」.

物理学会関係

1969(昭和44)

1.25	制度検討委員会設置(委員長小林稔, 69.10.18 第245回委員会に報告書提出, 同日解散)(第236回委員会).
2.5	会誌24巻2号より「会員の声」欄新設.
2.7	名古屋支部より物理学会に要望書(1969年秋, 当地開催の物理学会において, 軍機関係者が参加した研究の発表は行わないこと, 軍機関係者が参加しないことへの配慮を要望. 69.4.19 第239回委員会で名古屋支部の要望を受け容れ, その主旨に沿って開催と決定).
3.22	第35回通常総会(機械振興会館, 会員数7901). 米軍資金凍結会計設置可決.
3.一	本会単行書貸出規定(図書小委員会と事務局の協力により作成. 1人3冊まで, 1か月など).
3.30~4.3	第24回年会(立教大学・学習院大学, 第16回応用物理学関係連合講演会との合同講演会, 講演1815).
6.24	量子エレクトロニクス国際会議(70.9)の共催を保留に変更(決議3との関係より)(第241回委員会).
6.30	座談会—物理学会の制度検討について—(機械振興会館, 会誌24巻8号に掲載).
7.5	会誌24巻7号に「臨時総会の決議3を実施するための方針について(訂正)」掲載(会誌23巻12号掲載の同名記事の訂正版. 訂正は, 個人の発表の権利の問題は未解決であることを付記した点).
7.12	「大学立法」に反対する委員会声明を決議(国会で「大学の運営に関する臨時措置法」案審議).(第242回委員会).
8.5	物性若手グループ, 夏の学校において決議採択(軍関係者の学会からの排除を要望).
8.14~19	日ソ低温物理学会議(ソ連ノボシビルスク, 日本学術振興会が窓口となる. ソ連側250人, 日本26人).
8.20~23	講習会「生物物理」(科学技術館ホール, 講義数23, 聴講者271).
8.26	文部省学術審議会, 素粒子研究所について文部大臣に答申(70年度着工).
8.29	「大学運営に関する臨時措置法」に対する日本物理学会委員長談話発表.
9.4~9	第2回強誘電体国際会議(京都会場, 学術会議主催, 本会・IUPAP共催, 講演162, 外国84人, 日本214人).
10.6~9	秋の分科会 素粒子・原子核・宇宙線分科(金沢経済大学, 69.10.7 公聴会—臨時総会決議と学術的会合のあり方—開催, 他の2会場でも同様, 69.10.7 名古屋大学, 69.11.16 香川大学付属高松小学校).
10.8~11	磁性・物性基礎・生体物理分科など(名古屋大学・大同工業大学).
10.18	制度検討委員会より報告書提出(この改革案を基に次期委員会で定款変更案を作成. 制度検討委員会解散). 事務局職員就業規則類制定(事務局問題小委員会で原案作成, 職員との数回の懇談を経て成案).(第245回委員会).
11.15~18	秋の分科会 半導体・原子分子・量エレクトロニクス分科など(香川大付属高松小・中学校校).
11.30	単行書『低温の物理』朝倉書店より刊行(1966年の講習会に基づく).
12.1	1970年春の分科会プログラムにただし書き付加決定(諸般の事務を考慮した結果, 軍関係者の講演は見合わせていただく旨. 会誌25巻2号会告に掲載)(第246回委員会).
12.26	本会会計の変更(1970年度から, 基本会計と出版会計の2本建. 国際会議プロシーディングズ会計を廃止)(第247回委員会).
—	東京天文台, 太陽電波観測装置(22基)野辺山高原に完成.
—	委員長改選, 新委員長西川哲治(69.11.1~70.8.31).
○	ノーベル物理学賞・ゲルマン「素粒子の分類と相互作用に関する貢献, 発見」.
○	恩賜賞・久保亮五「非可逆過程の統計力学における線型応答理論」.

物理学会関係

1970(昭和45)

1.5	会誌25巻1号, 特集「物理学と数学」.
1.31	公聴会—臨時総会決議と学術的会合のあり方—(機械振興会館).
1.—	第2回強誘電体国際会議 Proc. を Journal vol. 28 の Supple. として刊行.
2.11	東大宇宙航空研究所, 国産初の人工衛星「おおすみ」打上げに成功.
2.12~13	第8回原子力総合シンポジウム(国立教育会館, 34学協会共催, 講演33).
3.5	会誌25巻3号に「臨時総会決議3と学術的会合のあり方について—問題点とこれまでの経過—」掲載.
3.14	「決議3と学術的会合のあり方」に関するアンケート, 全会員に配布を決定(第250回委員会).
3.28	第36回通常総会(機械振興会館, 会員数8096)定款を変更, 委員長, 特務委員→会長, 理事(会長は会員の投票により決定することを細則に規定, 委員理事の任期: 11.1~翌10.31→9.1~翌8.31, 定款変更認可70.6.8).
4.1~4	春の分科会 素粒子・原子核・宇宙線分科(高知大学, 講演240). 物性関係他諸分科(東北学院大学・東北工業大学, 講演1006, 4.2物性若手グループ春の総会において, 従来の軍関係者の学会講演に抗議の声明採択).
4.16~18	第7回理工学における同位元素研究発表会(国立教育会館, 41学協会共催).
5.9	第25回年会開催について基本方針決定(年会の講演募集に際し, 決議3の尊重を何らかの形で明記. 学会はこの基本的立場を確認した上で最終的には会員個人個人の自覚にまつ). (第252回委員会).
5.19	筑波研究学園都市建設法公布(10.22 筑波新大学創設準備会設置).
7.31	会長選挙, 新会長伊藤順吉(70.9.1~71.8.31).
8.3~6	講習会「宇宙物理」(科学技術館ホール, 講義数16).
8.27~9.1	1970 Tokyo Summer Institute of Theoretical Physics (作並YMCA国際会議センター, 仙台).
9.4~10	第12回国際低温物理学会議(京都會館, 学術会議主催, 本会・IUPAP共催, 講演299, 外国309人, 日本499人).
9.5	第25回年会プログラムに前文掲載(会誌25巻9号. 決議3引用に続いて, この決議の精神の尊重を呼びかけるもの).
10.3~9	第25回年会(東京学芸大学, 講演1214. 10.5 電波研究所において委員会主催の討論会「現代社会における物理学の研究」).
10.23~24	第20回応用力学連合講演会(機械振興会館, 9学協会共催, 講演92).
11.2	学術会議より文部大臣に申し入れ「特定の大学に付置されない共同研究所の所員の身分保障について」(高エネルギー研究所の発足を前にして, 国立大学の学長・教員の身分と同様の保障を要請).
12.25	1971年春の分科会, 会場校の事情を考慮の上, 防衛大学校所属会員の講演申込を辞退してもらうことを決定(第258回委員会).
12.—	応用物理学欧文誌(JJAP)刊行会事務所が独立(新橋).
—	『結晶の加工と表面』刊行.
○	ノーベル物理学賞・ネール「反強磁性およびフェリ磁性に関する研究と発見」,
○	アルペーン「電磁流体力学の基礎的発見とプラズマ物理などへの応用」.
○	学士院賞・山本義一「大気放射の研究」.

物理学会関係

1971(昭和46)

1.5	1971年春の分科会講演募集に決議3に関する前文掲載(会誌26巻1号, 決議3引用に続き「1971年春の分科会に際しても, 参加会員各位はこの決議を尊重されるようお願いします」。以後, この前文は1995年5月まで毎回の分科会, 年会の講演募集およびプログラムに掲載)。
2.5	会誌26巻2号に「決議3と学術的会合のあり方」に関するアンケートの結果報告掲載。
2.15~16	第9回原子力総合シンポジウム(国立教育会館, 33学協会共催, 講演34)。
2.20	特別委員会の解散(物理教育委員会・用語委員会・財政向上世話人会を解散, 最近ほとんど開催されないため)。会誌の正式な欧字名を「Butsuri」と決定。(第259回委員会)。
3.27	第37回通常総会(機械振興会館, 会員数8564)定款変更, 賛助員会費値上げ(認可71.7.3)。
3.31	高エネルギー物理学研究所設置(文部省所轄の共同利用研究所として, 筑波学園都市), 核物理研究センター設置(大阪大学付置の共同利用研究所として)。
4.6~9	春の分科会 物性関係諸分科(東京大学, 71年度から学会参加費 一般300円→500円に値上げ, 学生300円に据置き)。
4.15~17	第8回理工学における同位元素研究発表会(国立教育会館, 48学協会共催)。
4.20	単行書『生物の物理』丸善より刊行(1969年の講習会に基づく)。
6.15~16	第16回静電気研究発表会(大阪教育大付属天王寺中高校, 13学協会共催, 講演26)。
6.16~19	春の分科会 素粒子・原子核・宇宙線分科など(東京大学, 講演490)。
7.3	出版委員会規定制定, 細則変更: 編集委員会→Journal編集委員会。(第262回委員会)。
7.20	単行書『宇宙の物理』丸善より刊行(1970年の講習会に基づく)。
7.30~8.4	物性若手夏の学校(長野県 野沢温泉)。
8.2~5	講習会「物理実験におけるデータ処理」(科学技術館ホール, 講義数16)。
8.3	付加会費改定(1972年度よりJournal 3,000円→4,000円, JJAP 2,500円→3,000円, Progress 4,800円→6,000円), 100年記念事業企画調査委員会設置(73.10.20 報告提出, 73.11.10 解散), 科研費第2段審査委員の増員の要望(1名→2名とする要望を学術会議に申し入れ)(第263回委員会)。
8.3	会長改選, 新会長宮原将平(71.9.1~72.8.31)。(第263回委員会に選挙結果報告)。
8.27	第38回臨時総会(機械振興会館)基本会費値上げのための定款変更(1972年度より正会員3,600円→4,500円, 学生会員2,400円→3,000円, 定款変更認可71.10.30)。
8.30~9.2	第3回真空紫外物理国際会議(日本都市センター, 本会主催, 日本分光学会共催, 講演91, 数十か国より約200人参加)。
9.30~10.3	第26回年会(北海道大学, 講演1470, 10.1 委員会主催「日中物理学交流シンポジウム」開催)。
10.8~9	第16回音波の物性と化学討論会(北大応用電気研, 5学協会共催)。
10.19~21	第19回レオロジー討論会(名古屋大学, 11学協会共催)。
10.26~27	第21回応用力学連合講演会(学術会議, 10学協会共催)。
11.25	第7回熱測定討論会(名古屋市立科学館, 14学協会共催, 講演82)。
○	ノーベル物理学賞・ガボール「ホログラフィ法の発明とその後の発展」。
○	恩賜賞・林忠四郎「核反応と恒星の進化に関する研究」。

物理学会関係

1972(昭和47)

2.15~16	第10回原子力総合シンポジウム(国立教育会館, 33学協会共催, 講演48).
2.26	日仏, 原子力平和利用協力協定に調印(安い核燃料入手の道開く, 9.22発効).
3.10	原子力研究所, トカマク型核融合実験装置 JFT 2 を完成(12.5 温度 300 万度の超高温プラズマの生成に成功).
3.25	第39回通常総会(機械振興会館, 会員数8923). 定款変更, 新潟に支部を置く(変更認可72.6.3).
4.2~5	春の分科会 素粒子・原子核・宇宙線分科(上智大学).
4.3~6	半導体・イオン結晶光物性・誘電体分科など(東京電機大学).
4.5~8	磁性・物性基礎論統計力学・生体物理分科など(電気通信大学).
4.5	会誌27巻4号, 特集「高エネルギー物理学研究所発足にあたって」.
4.13~15	第9回理工学における同位元素研究発表会(国立教育会館, 47学協会共催).
6.1~2	第17回静電気研究発表会(愛知工業大学, 11学協会共催, 講演30).
7.17~21	高エネルギー物理学研究所, 第1回サマースクール(筑波 東部研修センター).
7.25	会長改選, 新会長小野周(72.9.1~73.8.31).
7.26~28	講習会「現代の地球観」(科学技術館ホール, 講義数10).
7.28~8.1	物性若手夏の学校(長野県白馬村).
9.4~8	核モーメントと核構造国際会議(大阪 ホテルプラザ・大阪大学, 阪大原子核研究施設主催, 本会共催, 講演55,206人).
9.30	会友制度新設(会員に関する内規に「会友」の規定を追加, 満10年以上本会会員であった満60歳以上の退会した会員, 本会主催の学術的会合への参加および本会出版物の購入にあたり会員と同等の取り扱いを受けることができる). 光学分科廃止(世話人よりの申し出による). 事務局問題委員会設置. 講演謝金変更(年金, 分科会における非会員の特別講演に対する謝金, 日本人・外国人を問わず今後一律3,000円とする)(第271回委員会).
10.10~13	第27回年会(広島大学, 講演1287).
10.16~18	第20回レオロジー討論会(福井市 繊維ビル, 12学協会共催, 講演50).
11.7~8	第17回音波の物性と化学討論会(愛知県産業貿易館, 6学協会共催).
11.11	Journal 掲載の論文の Synopsis を抄録誌 Current Physics Advance Abstracts (CPAA) に掲載決定(CPAA を発行する American Institute of Physics からの申し入れに応じて, Journal vol. 28, No. 5 掲載のものから実施). 第33回臨時総会の投票を焼却処分することの承認. 国際会議基金を本年度未運用資金の不足を補うため一時流用.(第272回委員会).
12.2	新潟支部発会式, 第1回例会(新潟商工会議所中ホール).
12.5~6	第22回応用力学連合講演会(学術会議, 10学協会共催).
12.9	流体物理学分科新設. 会員名簿(1973年)の出版費の一部分600円を会員負担と決定(第273回委員会).
○	ノーベル物理学賞・バーディーン, クーパー, シュリーファー「超伝導のBCS理論の確立」.

物理学会関係

1973(昭和 48)

1.5	会誌 28 巻 1 号印刷にコンピュータ写植の試み (校正の労力過大のため 2 号より活版印刷に戻る).
2.24	名大プラズマ研, 日本で最大の瞬間大電流発生装置完成.
3.10	Journal への投稿論文の U.S. Air Force への謝辞削除 (決議 3 にかんがみ著者了解の上), (第 276 回委員会).
3.28	第 40 回通常総会 (機械振興会館, 会員数 9434).
3.-	核モーメントと核構造国際会議の Proc. を Journal vol. 34 の Suppl. として刊行.
4.3~6	第 28 回年会 (九州大学, 講演 1399, 73.2.1 第 275 回委員会において, 今回臨時の措置として防衛大学校関係者の発表は行わないという方針を決定. この決定に基づき防衛大所属の講演申込者に会長より取り下げお願いの手紙, 本会事務所で事情説明, 73.4.3 欧文誌の在り方についてのインフォーマル・ミーティング開催. その内容を会誌 28 巻 9 号に掲載).
4.12	座談会一博士浪人と任期制一 (会誌特別企画として, 会誌 28 巻 9 号に掲載).
4.17~19	第 10 回理工学における同位元素研究発表会 (国立教育会館, 46 学協会共催).
5.25	単行書『計算機による物理実験データ処理』サイエンス社より刊行 (1971 年講習会).
5.29	単行書『現代物理学用語』培風館より刊行 (会誌「物理学メモ」の単行書化).
6.8	オーストラリア物理学会と本会との相互協定とり決め (相互の会員に訪問先で当地会員に準じた便宜供与).
7.14	分科の名称の変更; 低エネルギー原子核実験→原子核実験, 高エネルギー原子核実験→素粒子実験, 音響→音波物性・音響. Progress 付加会費改定 (1974 年より正会員, 学生会員 6,000 円→7,500 円, 外国会員 12,000 円→15,000 円). Journal および JJAP に掲載される論文の著作権の移転 (1974 年 1 月号以後に掲載された論文の著作権を Journal は日本物理学会に, JJAP は応用物理学欧文誌刊行会に移転). (第 280 回委員会).
7.20	会長改選, 新会長松原武生 (73.9.1~74.8.31).
8.6~9	講習会「新しい物質観」(日仏会館ホール, 講義数 16, 聴講者 406).
9.29	筑波大学設置 (新たな大学管理方式「筑波方式」を導入. 74.4.25 開学).
10.11~14	秋の分科会 素粒子・原子核・宇宙線分科 (新潟大学, 講演 237).
10.20	100 年記念事業企画調査委員会より報告 (100 年記念年会, 会誌記念号, 記念展示会など提案. なお同調査委員会は任務の終了により, 73.11.10 第 284 回委員会で解散を承認) (第 283 回委員会).
11.10	図書小委員会設置 (理事会の下部機関として設ける. 74.1.12 第 286 回委員会委員 5 名決定) (第 46 回理事会).
11.22~25	秋の分科会 物性関係他諸分科 (慶応大学, 講演 1246).
12.31	望月誠一事務局長定年退職 (34.10.8 以来勤続 39 年余, 73.12.8 第 285 回委員会終了後, 永年勤続表彰と送別会).
-	日本レオロジー学会, レーザー懇談会創立.
○	ノーベル物理学賞. 江崎玲於奈, ジェバー「半導体内におけるトンネル効果の実験的発見」, ジョセフソン「トンネル通過の超電流の性質とジョセフソン効果の理論的予想」.
○	文化勲章・久保亮五.
○	恩賜賞・近藤淳「極低温における稀薄磁性合金の電気抵抗の極小に関する研究」.
○	学士院賞・秋本俊一, 川井直人「超高压・高温下における地球物質の実験的研究」.

物理学会関係

1974(昭和49)

1.1	山里健事務局長次長, 事務局長代行に就任.
1.5	会誌 29 巻 1 号~3 号, 「Journal の論文をよくするために」連載.
2.18~19	第 12 回原子力総合シンポジウム (国立教育会館, 本会共催, 講演 39).
3.19	私立大学物理, 応用物理学科主任会議 (早稲田大学, 第 1 回, 第 2 回は秋の年会のインフォーマルミーティングとして).
3.20	江崎玲於奈氏ノーベル賞受賞記念講演会 (東京 イノホール, 6 学協会共催).
3.27	第 41 回通常総会 (機械振興会館, 会員数 9947).
4.3~6	春の分科会 素粒子・原子核・宇宙線分科 (大阪大学, 講演 246). 物性関係他諸分科 (金沢大学, 講演 1172).
4.20	単行書『地球の物理』丸善より刊行 (1972 年の講習会に基づく).
5.11	日本物理学会創立 100 年記念事業実行委員会の組織を承認 (委員長熊谷寛夫, 6.8 第 1 回実行委員会, 記念年会・展示会・物理学史についての単行書出版とその準備のためのシンポジウムを 74 年秋の年会で開催・募金など決定) (第 290 回委員会).
6.17~19	第 11 回理工学における同位元素研究発表会 (国立教育会館, 44 学協会共催).
7.5	会誌 29 巻 7 号, 特集「色中心」.
7.9	会長改選, 新会長小野周 (74.9.1~75.8.31).
7.28~8.3	物性若手夏の学校 (長野県 野沢温泉).
8.5~8	講習会「プラズマと核融合」(日仏会館ホール, 講演 13, 聴講者 330).
8.9	第 42 回臨時総会 (機械振興会館) 定款変更. 入会金・基本会費・賛助員納入金改定. (1975 年度より入会金 300 円→1,000 円, 基本会員正会員 4,500 円→7,000 円, 学生会員 3,000 円→4,500 円, 賛助員納入金 1 口 15,000 円→25,000 円, 定款変更認可 74.10.5).
8.10	Journal の Index 出版を承諾 (日外アソシエーツからの申し入れ). 防衛大学校所属会員の年会講演申込に関する措置を理事会に一任 (第 293 回委員会).
10.1	東京天文台木曾観測所, 日本最大のシュミット望遠鏡完成.
10.2~4	第 22 回レオロジー討論会 (東北工業大学, 15 学協会共催, 講演 34).
10.11~14	第 29 回年会 (千葉工業大学, 講演 1359, 11.13 物理学史シンポジウム「日本の物理学と物理学史」).
10.31~11.1	第 19 回音波の物性と化学討論会 (日本化学会講堂, 本会共催).
11.12~13	第 24 回応用力学連合講演会 (学術会議, 10 学協会共催, 講演 109).
11.15	阪大核物理研究センター, 日本最大のサイクロトロン (75 MeV) 設置.
11.28~30	第 10 回熱測定討論会 (東京 全共連ビル, 本会共催, 講演 84).
12.-	抄録誌 CPAA 廃刊 (Am. Inst. Phys. 発行, Journal・JJAP・Progress の論文も収録).
○	ノーベル物理学賞・ライル, ヒューイッシュ「電波天文学における先駆的研究」(ライル: 開口合成技術, ヒューイッシュ: パルサーの発見).
○	文化勲章・江崎玲於奈, 永田武.
○	学士院賞・友田好文「航行船舶上における重力の連続測定—測定装置の開発と西太平洋海域における測定結果」.

物理学会関係

1975(昭和50)

2.18~19	第13回原子力総合シンポジウム(国立教育会館, 講演48).
3.1	創立100年記念事業実行委員会の設置および運営規則, 同事業特別会計の設置承認(74.5.11 同実行委員会の組織を承認, 74.6 実行委員会発足, 75.3.26 通常総会で記念事業計画の主要承認)(第299回委員会).
3.26	第43回通常総会(機械振興会館, 会員数10242) 定款変更, 外国会員制を廃止, 現在の外国会員をすべて正会員とする(定款変更認可75.9.6). 外国会員としての入会は4.1付が最後.
3.28	東大原子核研究所, 世界で2番目の電子ストレージ・リング完成.
4.1	千葉大に大学院理学研究科(修士課程)設置(77年弘前大・鹿児島大, 78年埼玉大・富山大・信州大・静岡大, 79年山形大・茨城大, 80年琉球大, 82年山口大・愛媛大, 83年佐賀大, 85年島根大・高知大に設置).
4.2~5	第30回年会(京都大学, 講演1501).
4.21	事務局職員労働組合結成(正職員7名, 臨時職員1名, 図書アルバイト1名, 合計9名加入).
6.5~6	第20回静電気研究発表会(福井工業大学, 10学協会共催, 講演36).
6.18~20	第12回理工学における同位元素研究発表会(機械振興会館, 50学協会共催, 講演105).
7.1	野々村敵事務局長就任(75.6.14 第303回委員会で採用決定).
7.20	単行書『新しい物質観』丸善より刊行(1973年の講習会に基づく).
7.21	会長改選, 新会長熊谷寛夫(75.9.1~76.8.31).
7.27~8.2	物性若手夏の学校(長野県 野沢温泉).
7.31~8.5	分子科学若手夏の学校(鳥取県西伯郡大山町).
7.-	Journalのショートノート欄廃止とLetters欄新設(Journal vol.39, No.1-1975年7月号より, 75.1.11 第297回委員会で決定).
8.6~8	講習会「極限状態の物理学」(日仏会館ホール, 講義数12, 聴講者164).
8.28~9.1	第25回バグウォッシュ会議開催(京都 ロートプラット・湯川秀樹ら15か国31人出席, サハロフが特別アピールを寄せる).
9.27~30	秋の分科会 素粒子・原子核・宇宙線分科(弘前大学, 講演318). 物性関係他諸分科(日本大学, 講演1246).
10.12~14	第23回レオロジー討論会(広島大学, 15学協会共催, 講演31).
10.23	事務局全土曜日休日日制実施(67.7より隔週土曜日休日日制実施).
10.28~29	第25回応用力学連合講演会(学術会議, 10学協会共催, 講演18).
11.5	会誌30巻11号, 特集「核融合研究の現状と将来」.
11.7~8	第20回音波の物性と化学討論会(福井市文化会館, 本会共催).
11.19~21	第11回熱測定討論会(福岡市 電気ビル, 本会共催, 講演71).
12.-	高エネルギー研, 世界第6位の陽子シンクロトロン(8 GeV)完成.
○	ノーベル物理学賞・A・ポーア, モッテルソン, レーンウォーター「原子核内の核子と集団運動の関係の発見, 原子核構造の理論」.
○	恩賜賞・小田稔「すだれコリメーターの発明とX線天文学への寄与」.

物理学会関係

1976(昭和51)

2.18~19	第14回原子力総合シンポジウム(国立教育会館, 本会共催. 講演37).
2.29	宇宙開発事業団, 初の実用衛星「うめ」打上げに成功.
3.4	高エネルギー研, 陽子シンクロトロン8 GeVまで加速成功(12.22 11.8 GeV加速).
3.29	第44回通常総会(機械振興会館, 会員数10709).
4.1	静岡大に大学院電子科学研究科(後期3年博士課程)設置(同じく人間文化研究科, 77年お茶の水女子大・81年奈良女子大に設置).
4.4~7	第31回年会(名古屋大学, 講演1597).
5.25	長岡技術科学大学, 豊橋技術科学大学設置.
6.15	会長改選, 新会長松原武生(76.9.1~77.8.31).
6.24~25	第21回静電気研究発表会(早稲田大学, 11学協会共催).
6.29~7.1	第13回理工学における同位元素研究発表会(国立教育会館, 50学協会共催).
6.30	単行書『プラズマと核融合』丸善より刊行(1974年の講習会に基づく).
7.22~28	原子核若手三者夏の学校(長野県 野沢温泉).
7.27~8.2	物性若手夏の学校(長野県 野沢温泉).
8.2~4	講習会「レーザーが科学技術にもたらしたもの」(日仏会館ホール, 講義数17, 聴講者262).
8.9~14	プラズマ若手夏の学校(国立教育会館筑波分館).
8.20	事務局に関する特別委員会設置の検討を承認(後, 事務局問題特別委員会として設置される)(第316回委員会).
8.30~9.1	第1回日ソ強誘電体シンポジウム(ソ連ノボシビルスク, ソ連科学アカデミー主催, 日本24人参加).
10.2~5	秋の分科会 素粒子・原子核・宇宙線分科(福井大学, 講演316).
	物性関係他諸分科(山形大学, 講演1384).
10.8	原子力委員会, 放射性廃棄物処理の基本方針を決定(高レベルはガラス化して地下へ, 低レベルは固定化し海洋投棄と陸地処分を併せて行う).
10.18~20	第12回熱測定討論会(名古屋大学, 本会共催).
10.29~31	第24回レオロジー討論会(群馬大学, 14学協会共催).
10.31	単行書『極限状態の物理』丸善より刊行(1975年の講習会に基づく).
11.4~5	第21回音波の物性と化学討論会(佐賀大学, 6学協会共催).
11.25~27	第26回応用力学連合講演会(学術会議, 9学協会共催).
—	物理学論文選集小委員会発足(出版委員会の下).
—	東大大型計算機センター, 増大する学術情報をオンライン情報検索サービス(TOOL-IK)により, 全国の大学研究室に提供開始.
—	原子衝突研究協会創立.
○	ノーベル物理学賞・リヒター, ティン「重い新素粒子(J/ψ 粒子)の発見」.

物理学会関係

1977(昭和 52)

1.-	Journal のマイクロフィッシュ発行 (vol.42, No.1-1977 年1月号より, Progress, JJAP も同様).
2.5	会誌 32 巻 2 号特集「物理と医学」.
3.1~2	第 15 回原子力総合シンポジウム (国立教育会館, 本会共催, 講演 45).
3.28	第 45 回通常総会 (機械振興会館 会員数 11102) 定款変更, 会長選出方法と理事会構成の変更のため, (会長に選任された者はその選任の日から理事となる. 細則の変更; 次期会長選挙の候補者の選定を「次期委員に確定した者は次期委員の中から」→「委員は委員の中から」と変更. これにより次期会長の選挙が従来より早く行える. この細則変更の確定は 78.12.16 第 340 回委員会).
4.1~4	春の分科会 素粒子・原子核・宇宙線分科 (佐賀大学, 講演 372).
4.4~7	物性関係他諸分科 (山口大学, 講演 1530).
4.5	会誌 32 巻 4 号, 特集「原子衝突」.
5.14	分科の名称の変更: 分子性結晶・有機半導体→分子性結晶・液晶・有機半導体 (第 324 回委員会).
6.10	会長改選, 新会長宮原将平 (77.9.1~78.8.31).
6.23~24	第 22 回静電気研究発表会 (倉敷市 市民会館, 8 学協会共催, 講演 20).
6.29~7.1	第 14 回理工学における同位元素研究発表会 (国立教育会館, 46 学協会共催).
7.28~8.3	物性若手夏の学校 (長野県 野沢温泉).
9.5~9	「超低温の物理」国際シンポジウム (箱根観光ホテル, IUPAP と共同主催).
9.5~10	1977 年原子核構造国際会議 (東京 京王プラザホテル, 本会共催, 講演 102).
10.5	会誌 32 巻 10 号特集「日本物理学会のあゆみ」(創立 100 年記念事業の一環).
10.7~20	記念展示会「数学・物理 100 年の歩み展」(国立科学博物館, 日本数学会・国立科学博物館と合同).
10.8	東京数学会社雑誌第 1 号復刻版出版 (日本数学会と合同, 創立 100 年記念事業の一環).
10.8~12	第 32 回年会 (創立 100 年記念年会) (日本数学会と合同).
10.8	記念式典, 記念講演会 (共立女子学園, 講演 2).
10.9~11	記念特別講演会 (共立女子学園, 講演 10).
10.9~12	一般講演 (東京理科大学, 講演 1636, 10.11「物理学者の社会的責任」シンポジウム第 1 回, 以後毎年の年会で継続して開催).
10.12~13	第 1 回静電気学会年次大会 (機械振興会館, 静電気学会主催, 本会共催).
10.15	Progress 付加会費改定 (1978 年度より 10,800 円→11,400 円). (第 327 回委員会).
11.15~17	第 27 回応用力学連合講演会 (学術会議, 10 学協会共催).
12.12	定款変更の修正 (77.3.28 通常総会において可決された定款変更について, 同時に可決された付帯決議に基づき一部字句修正. 今期における特別措置; 定款一部変更を実施するため, 文部大臣の認可があり次第直ちに次期会長選挙をおこなう. 定款変更認可 78.1.13) (第 329 回委員会).
-	超低温の物理国際シンポジウム (1977) の Proc. を Conf. Proc. Series No. 1 として刊行.
○	ノーベル物理学賞・バンブレック, モット, アンダーソン「磁性体および無秩序系の電子構造に関する理論的研究」.
○	学士院賞・赤祖父俊一「磁気圏擾乱の研究」.

物理学会関係

1978(昭和 53)

1.5	会誌 33 巻 1 号, 特集「宇宙物理」.
2.8~10	核融合連合講演会(国立教育会館筑波分館, 4 学会共催).
2.-	原子核構造国際会議(1977)の Proc. を Journal vol.44 (1978) の Suppl. として刊行.
3.1	会長改選, 新会長小野周(78.9.1~79.8.31).
3.15	東京教育大の閉学記念式挙行.
3.20	動力炉・核燃料開発事業団(動燃)の転換炉「ふげん」, 臨界に達する.
3.27	第 46 回通常総会(機械振興会館, 会員数 11410).
3.31~4.3	第 33 回年会(東北大学講演 1864, 全会場でスライドの他に OHP の使用可能).
4.5	会誌 33 巻 4 号特集「日本物理学会創立 100 年記念特別講演」.
4.8	宇宙開発事業団わが国初の実験放送衛星「ゆり」を打上げ(ケーブカナベラル).
5.22~27	IAU シンポジウム「天体力学一理論と応用」(東京).
5.23	第 23 回静電気研究発表会(愛知県産業貿易館, 本会共催. 講演 18).
5.31	単行書『日本の物理学史下巻資料編』東海大学出版会より刊行(『日本の物理学史一上, 下』2 巻の刊行は創立 100 年記念事業の一環, 上巻 歴史・回想編は 78.11.25 東海大学出版会より刊行).
6.27~29	第 15 回理工学における同位元素研究発表会(国立教育会館, 46 学協会共催).
7.28~8.2	物性若手夏の学校(長野県 野沢温泉).
8.7~9	講習会「超伝導一現状と将来」(日仏会館ホール, 講義数 14, 聴講者 183).
8.23~31	第 19 回高エネルギー物理学国際会議(京王プラザ, 学術会議・本会主催. 講演 171, 外国 38 か国 520 人, 日本 339 人).
8.28~9.1	メスバウアー効果の応用国際会議(国立京都会館, 本会後援).
9.3~9	第 6 回国際生物物理会議(京都国際会議場).
9.28~10.1	秋の分科会 素粒子・原子核・宇宙線分科(信州大学, 講演 337, 全会場で OHP 使用可).
10.3~6	物性関係他諸分科(静岡大学, 講演 1474, 磁性分科で初のポスターセッション, OHP 使用不可).
10.24~26	第 26 回レオロジー討論会(愛知県 産業貿易館, 13 学協会共催, 講演 42).
11.14~16	第 28 回応用力学連合講演会(学術会議, 10 学協会共催, 講演 185).
11.16~18	第 14 回熱測定討論会(京都会館, 本会共催).
12.16	会長候補選挙に関する細則の変更(細則第 7 条第 2 号を次のように変更し 1979 年度から適用:「二. 委員は委員の中から次期会長候補として適任と思われる者一名の氏名を記入し, 指定された期日までに投票する」)(第 340 回委員会).
12.-	第 19 回高エネルギー物理学国際会議(1978)の Proc. を刊行.
-	単行書『レーザーその科学技術にもたらしたもの』丸善より刊行(1976 年の講習会に基づく).
○	ノーベル物理学賞・カピッツァ「低温物理学の基礎的研究」, ペンジアス, ウィルソン「3 K 宇宙黒体放射の発見」.
○	文化勲章・南部陽一郎.

物理学会関係

1979(昭和54)

2.17	創立100年記念事業実行委員会解散(第342回委員会).
2.21	東大宇宙航空研, X線天体観測衛星「はくちょう」を打上げ.
3.2	会長改選, 新会長小口武彦(79.9.1~80.8.31).
3.26	第47回通常総会(機械振興会館, 会員数11824).
3.28	米ペンシルベニア州スリーマイル島原子力発電所で大規模な事故発生(大量の放射能もれ, 3.30州知事, 非常事態を宣言. 周辺住民避難, 4.6一応終息).
3.31~4.3	第34回年会(大阪大学, 講演1885, 全会場でOHP使用可. 磁性分科ポスターセッション併用, 4.2有志による「原発安全のためその一時停止を求める緊急署名」, 署名数399).
4.1~6	日本化学会創立百周年を記念し日米両化学会合同で第39回春季年会開催(ホテル).
5.8	日本電気パーソナル・コンピュータPC-8001を発表(9月発売, 本体16万8000円, パソコンブームの口火となる).
5.24	第24回静電気研究発表会(上智大学, 本会共催. 講演1).
6.25~27	第16回理工学における同位元素研究発表会(国立教育会館, 47学協会共催).
8.1~8	第25回原子核三者若手夏の学校(長野県飯山市信濃平).
8.5	会誌34巻8号特集「工学と物理学」.
8.6~18	第16回宇宙線国際会議(国立京都国際会館・新都ホテル, 学術会議・本会主催. 講演825, 外国30か国278人, 日本290人).
8.7~9	講習会「加速器とその応用」(日仏会館ホール, 講義数17. 聴講者112).
10.2~5	秋の分科会 素粒子・原子核・宇宙線分科(高知大学, 講演346). 物性関係他諸分科(愛媛大学, 講演1522, ポスターセッション併用分科, 3分科に増加).
10.3~5	第15回熱測定討論会(金沢大学, 本会共催).
10.22~24	第27回レオロジー討論会(慶応大学, 12学協会共催).
10.24	学術会議原子力安全委員会と共催で米スリーマイル島原発事故シンポジウム開催(これに反対する傍聴人40人, 会長に発言を求め議場混乱, 休会. 11.26反対派学者の抗議行動の中で開催, 参加500人).
11.5	会誌34巻11号特集「中国四国支部」.
11.11	高エネルギー物理・日米科学協力事業計画, 米国エネルギー省と日本の文部省の間で調印.
11.20~22	第29回応用力学連合講演会(学術会議, 本会共催, 講演162).
11.30	単行書『超伝導』丸善より刊行(1978年の講習会に基づく).
—	第16回宇宙線国際会議(1979) Conference Papers 刊行.
—	Journalのロールフィルム版出版.
○	ノーベル物理学賞・グラショウ, ワインバーグ, サラム「弱い相互作用と電磁相互作用の統一理論」.
○	恩賜賞・古在由秀「土星衛星, 人工衛星及び小惑星の運動の研究」.

物理学会関係

1980(昭和55)

1.5	会誌35巻1号, 特集「統一理論とその周辺」, 「朝永振一郎博士の業績をふりかえって」.
2.18~19	第18回原子力総合シンポジウム(国立教育会館, 本会共催, 講演38).
3.3	会長改選, 新会長宮原将平(80.9.1~81.8.31).
3.27~30	第35回年会(学習院大学・早稲田大学, 講演1979).
3.31	第48回通常総会(機械振興会館, 会員数12074).
6.14	京大ヘリオトロン核融合研究センター世界最大の装置ヘリオトロンEの完成式.
6.30~7.2	第17回理工学における同位元素研究発表会(国立教育会館, 46学協会共催).
7.11	原子力委放射性廃棄物対策専門部会, 処理方針を決定(太平洋投棄計画はサイパン, 小笠原など内外で問題化).
7.12	年会分科会参加費の改定(1981年から一般500円→1,000円, 学生300円→500円)(第357回委員会).
7.22~25	IAUシンポジウムNo.93, 恒星進化論の基本問題(京大会館, 基研主催, IAU他共催).
7.25~30	物性若手夏の学校(長野県上水内郡戸隠村).
8.1~7	原子核三者若手夏の学校(長野県 志賀高原).
8.5	会誌35巻8号, 特集「太陽系の物理」.
8.6~8	講習会「ランダム系の物理学 非品質物質—この未来を担うもの」(日仏会館ホール, 講義数15, 聴講者339).
8.9	分科の設立: 表面・界面分科(第358回委員会).
9.1~5	第15回半導体物理国際会議(国立京都国際会館, 学術会議・本会主催, 講演244, 外国32か国326人, 日本479人).
9.6~11	第2回ソ強誘電体シンポジウム(京都会館, 本会共同主催, 講演79, ソ連側33人, 日本側79人).
10.1~4	秋の分科会 物性関係他諸分科(福井大学, 講演1616).
10.3~6	素粒子・原子核・宇宙線分科(福島大学, 講演335).
10.20~22	第28回レオロジー討論会(宮城県医師会館, 16学協会共催).
11.5	会誌35巻1号, 特集「名古屋支部」.
11.5~7	第30回応用力学連合講演会(学術会議, 本会共催, 講演156).
11.12~14	第16回熱測定討論会(東京工業大学, 14学協会共催).
12.-	アジア物理学会検討小委員会設置(理事会で決定, 80.12.25第1回小委員会, アジア物理学会への加入問題を検討).
-	第15回半導体物理国際会議(1980)のProc.刊行(Journal vol. 49 Suppl. A).
-	第2回日ソ強誘電体シンポジウムのProc.刊行(Journal vol. 49 Suppl. B).
○	ノーベル物理学賞・クローニン, フィッチ「中性K中間子崩壊におけるCP対称性の破れの発見」.
○	文化勲章・小谷正雄.
○	学士院賞・霜田光一「レーザーの物理とそれに基づく分子分光学的研究」.

物理学会関係

1981(昭和56)

1.5	会誌36巻1号特集「エネルギー問題Ⅰ」。
1.ー	Journal vol. 50より、1967年以後の年2巻から年1巻に変更。
2.4~6	第2回核融合連合講演会(工業技術院筑波研究センター、6学協会共催)。
2.5	会誌36巻2号特集「原子分子過程としての化学反応」。
3.2	会長改選、新会長有馬朗人(81.9.1~82.8.31)。
3.7	物理学史関係資料調査収集整理に関する特別委員会設置(併せて物理学史資料調査等事業会計の設置承認、この委員会は物理学史資料調査・収集特別委員会-委員長玉木英彦と物理学史資料整備特別委員会-委員長辻哲夫として発足)(第364回委員会)。
3.27	第49回通常総会(機械振興会館、会員数12434)。
3.30~4.2	第36回年会(広島大学、講演2108)。
4.1	神戸大に大学院自然科学研究所(後期3年博士課程)設置(87年新潟大・金沢大・岡山大、88年千葉大・熊本大に設置)。
4.5	会誌36巻4号特集「シンクロトロン放射光による物性研究」。
4.14	東大宇宙航空研究所を廃し宇宙科学研究所設置(文部省直轄)。
4.30	単行書「加速器とその応用」丸善より刊行(1979年の講習会に基づく)。
6.5	会誌36巻6号特集「エネルギー問題Ⅱ」。
6.7	第4回科学者京都會議開催(湯川秀樹ら26人参加、核廃絶を訴える)。
8.5~7	講習会「物質の窮極を探る-現代の統一理論」(日仏会館ホール、講義数15、聴講者361)。
8.10	原子力シンポジウム開催の承認(「日本物理学会は年会(または分科会)において継続して原子力シンポジウムを開催する」ことを承認、82.1.13第373回委員会において同シンポジウム企画委員の選定、82.9.30第37回年会において第1回~86.3.30第41回年会において第5回まで継続して開催)(第369回委員会)。
10.1~4	秋の分科会 素粒子・原子核・宇宙線分科(島根大学、講演385)。
10.2~5	物性関係他諸分科(新潟大学、講演1757)。
10.5	会誌36巻10号、特集「新潟・北陸支部」。
10.3	単行書『ランダム系の物理学』培風館より刊行(1980年の講習会に基づく)。
11.5	会誌36巻1号特集「物性論におけるソリトン」。
11.14	日本物理学会国際会議基金運営規則の一部変更(融資限度額200万円→300万円)(第371回委員会)。
12.ー	新会員番号システム採用(従来の会員番号の末尾にチェック・コード-英大文字-一字-を付ける、会員関係業務のコンピュータ処理への移行に伴う措置)。
○	ノーベル物理学賞・シグバーン「高分解能電子分光学への貢献」；ブルームパーゲン、ショーロー「レーザー分光学への貢献」。
○	文化勲章・福井謙一(1981年ノーベル化学賞受賞)。
○	学士院賞・岡小天「生物レオロジーの理論的研究」、横山泉「重力異常の分布から見た火山の構造」。

物理学会関係

1982(昭和 57)

1.-	JJAP の A4 判化および, Part I (本論文, Short Note) と Part II (Letters) の 2 分冊化.
2.5	会誌 37 巻 2 号, 特集「表面物性」.
3.1	会長改選, 新会長牧二郎 (82.9.1~83.8.31).
3.1	「アジア西太平洋地区国際物理学シンポジウム」(83.6. シンガポール) の共催を承認 (本会が同シンポジウムの企画について基本構想の段階から参加し, 共催学会として運営・開催に参加. これはアジア物理学会検討小委員会の提案による. 理事会の下にシンガポール物理学シンポジウム小委員会を設置) (第 375 回委員会).
3.1	東京天文台野辺山宇宙電波観測所開所 (45 m 電波望遠鏡など設置).
3.23	第 50 回通常総会 (機械振興会館, 会員数 12712).
3.30~4.2	春の分科会 物性関係他諸分科 (横浜国立大学, 講演 1847).
3.31~4.3	素粒子・原子核・宇宙線分科 (東京農工大学, 講演 413). この分科会以後, 講演発表においては主として OHP のみの使用に移行.
4.5	会誌 37 巻 4 号, 特集「湯川秀樹博士追悼」.
6.5	会誌 37 巻 6 号, 特集「生体系と物理的測定」.
7.5~7	第 19 回理工学における同位元素研究発表会 (国立教育会館, 47 学協会共催).
7.10	Journal 付加会費改定 (1983 年より 6,000 円→8,400 円) (第 379 回委員会).
7.25~30	物性若手夏の学校 (長野県戸隠).
7.29~31	講習会「宇宙の物理」(東京会場:日仏会館ホール, 講義数 15, 聴講者 351). (京都会場:京都会館会議場, 講義数 15, 聴講者 260).
8.3~5	
8.2~6	プラズマ若手夏の学校 (山梨県河口湖町).
9.25	東京天文台, 星の光をコンピュータで増幅しデータ処理する初の全自動光電式子午環完成.
9.30~10.3	第 37 回年会 (北海道大学, 講演 2066, 9.30 第 1 回原子力シンポジウム).
10.5~10	1982 年磁気国際会議 (国立京都国際会館, 学術会議・本会共同主催, 講演 251, ポスター 754, 外国 32 か国 351, 日本 665 人).
10.5	会誌 37 巻 10 号, 特集「強磁場の発生と物性への応用」.
10.6~8	第 18 回熱測定討論会 (東北大学, 15 学協会共催).
10.21~22	第 7 回固体イオニクス討論会 (東京工業大学, 本会共催).
10.27~29	第 30 回レオロジー討論会 (千葉大学, 12 学協会共催).
11.1~2	第 6 回静電気学会学術講演会 (徳島大学, 本会共催).
11.18~20	第 23 回高压討論会 (国立京都国際会館, 23 学協会共催).
11.19	高エネルギー研, 衝突型加速器トリスタンのトンネルの起工式.
11.20	単行書『物質の窮極を探る』丸善より刊行 (1981 年の講習会に基づく).
12.1~3	第 32 回応用力学連合講演会 (学術会議, 11 学協会共催).
12.11	会長選出方法の改定 (次期会長選挙で委員会推薦の候補者の指名を全員に通知する際, 本会理事および監事としての経歴も併せて通知すること, 細則第 7 条にその旨の規定を追加) (第 383 回委員会).
○	ノーベル物理学賞・ウィルソン「相転移における臨界現象の理論」.

物理学会関係

1983(昭和 58)

1.-	Journal vol. 52 から分類番号に PACS (Physics & Astronomy Classification Scheme) を採用.
1.-	会誌に掲載される寄稿等の著作権を物理学会に譲渡 (81.8.10 第 369 回委員会で承認, 1983 年 1 月号掲載分から).
3.2	会長改選, 新会長星埜禎男 (83.9.1~84.8.31).
3.24	第 51 回通常総会 (機械振興会館, 会員数 13037).
3.27~30	第 38 回年会 (中央大学, 講演 2237, 3.29 第 2 回原子カシンポジウム).
5.10	阪大核融合研究センター, 世界最大級のレーザー核融合実験装置「激光 12 号」を完成.
6.12~18	アジア・西太平洋物理学シンポジウム (シンガポール国立大学, 本会・シンガポール物理学会-南東アジア理論物理学協会・トリエステ国際理論物理センター共催, 参加者 275 人, うち日本から 42 人).
7.4~6	第 20 回理工学における同位元素研究発表会 (国立教育会館, 49 学協会共催).
7.25~30	物性若手夏の学校 (長野県志賀高原).
7.27~29	講習会「半導体ヘテロ接合・超格子の物理とその応用」(日仏会館ホール, 講義数 13, 聴講者 280).
8.1~5	ブラズマ若手夏の学校 (長野県大田市).
8.1~7	原子核三者若手夏の学校 (長野県戸狩).
8.19	第 52 回臨時総会 (機械振興会館) 定款変更, 入会金, 基本会費, 賛助員納入金の改定 (1984 年 1 月より入会金 1,000 円→3,000 円, 基本会費; 正会員 7,000 円→11,000 円, 学生会員 4,500 円→7,000 円, 賛助員納入金 10 25,000 円→35,000 円, 定款変更認可 83.9.26).
8.19	年会, 分科会参加費の改定 (1984 年より会員一般 1,000 円→2,000 円, 学生 500 円→1,000 円; 非会員 (新設) 一般 4,000 円, 学生 2,000 円, ただし非会員のうち賛助員である団体に所属する人の参加費は会員と同額とする) (第 392 回委員会).
8.22~26	第 10 回アモルファス及び液体半導体国際会議 (東京経団連会館, 本会主催, 論文数 300, 外国 27 か国から 184 人, 日本 383 人).
8.29~31	「量子力学の基礎と新技術」国際会議 (日立中研, 同組織委主催, 本会協賛, 以後 3 年目毎に開催).
10.9~12	秋の分科会 素粒子・原子核・宇宙線分科 (神戸大学, 講演 428).
10.11~14	物性関係他諸分科 (岡山大学, 講演 1976).
11.30	単行書『宇宙と物理』培風館より刊行 (1982 年の講習会に基づく).
12.-	新しいタイプの秩序相への相転移に関する国際集会 (1982) Proc. を Journal vol. 52 (1983) の Suppl. として刊行.
12.-	「物理学史資料調査・収集特別委員会報告」, 「物理学史資料整理特別委員会報告—日本の物理学研究の動向と物理学会誌 (1878-1945)」完成 (両委員会, 任務終了により解散, 両報告書は 1985 年合冊本として本会より刊行).
-	エントロピー学会創立.
○	ノーベル物理学賞・チャンドラセカール「星の構造と進化の理論」, ファウラー「宇宙の化学元素生成に関わる核反応の研究」.

物理学会関係

1984(昭和 59)

1.7	国際交流小委員会設置(理事会の下に設置, 本会の国際交流に関する本格的検討始まる)(第182回理事会).
1.25	単行書『科学英語論文のすべて』丸善より刊行.
3.1	会長改選, 新会長上村洸(84.9.1~85.8.31).
3.29	第53回通常総会(機械振興会館, 会員数13302).
4.1~4	第39回年会(九州大学, 講演2189, 特別の場合を除きOHPのみを使用する方針, 4.3 第3回原子カシンポジウム).
4.5	会誌39巻4号, 特集「日本の加速器」.
4.-	量子力学の基礎と新技術国際会議(1983)のProc.刊行.
6.1	事務局事務分掌一部変更.
6.16	外国人の学会発表についての措置承認(日本に滞在する非会員外国人が分科会で講演を希望する場合会員二人の推薦があれば分科の世話人は理事会の了承を得て追加講演をさせることができる. 追加講演を認めている分科に適用される過渡的措置)(第401回委員会).
7.2~4	第21回理工学における同位元素研究発表会(国立教育会館, 49学協会共催).
7.25~27	講習会「スーパーコンピューターいかに使うか, 現状と将来一」(日仏会館ホール, 講義数13, 聴講者285).
7.25~28	第16回乱流シンポジウム(中央大学, 日本流体力学学会主催, 本会他共催).
8.-	物理学史資料委員会設置(常置委員会として, 委員長辻哲夫).
8.24	物理学史資料委員会規定, 日本物理学会日本物理学史資料の取扱基準制定. JJAP付加会費改定(1985年より7,500円→8,900円)(第403回委員会).
9.3~5	固体表面吸着種の分光学的研究に関する国際シンポジウム(関西学院千刈セミナーハウス, 本会共催).
9.-	日本物理学会名簿1984年度版から有償の選択配布方式となる(1988年度版のみ無料配布).
9.29~10.2	秋の分科会 素粒子・原子核・宇宙線分科(茨城大学, 講演402).
10.2~5	物性関係他諸分科(富山大学, 講演1903).
10.5	会誌39巻10号特集「パターン形成・自己組織系の物理」.
10.8~12	「開発のための物理」国際会議で決議(イタリア トリエステの国際理論物理センターにおいて, IUPAPの総会と併行して行われた国際会議, 会議最終日に, 米国物理学会・欧州物理学会・日本物理学会に対して開発のための物理に向けて協力を要請する決議がなされ本会にも決議文が送られた).
10.13	Progress付加会費改定(1985年より11,400円→14,400円)(第404回委員会).
10.24~26	第32回レオロジー討論会(奈良女子大学, 本会共催).
11.10	単行書『半導体超格子の物理と応用』培風館より刊行(1983年の講習会に基づく).
12.5	会誌39巻12号, 特集「モノポール」.
12.11~13	第34回応用力学連合講演会(学術会議, 11学協会共催).
-	文部省科研費補助金配分審査物理学関係第2段審査委員増員(1名→2名).
○	ノーベル物理学賞・ルビア, バンデルメーア「W粒子とZ粒子の発見のプロジェクトへの貢献」.
○	学士院賞・辻隆「低温度星外層の理論的研究」.

物理学会関係

1985(昭和60)

1.-	Journal, vol. 54 から Short Note 欄復活 (2 ページ以内, SYNOPSIS なし).
1.-	重イオン物理学国際シンポジウム (1984) Proc. 刊行 (Journal vol. 54 Suppl.).
2.4~9	核の危機に関する東京セミナー (2.4~6 広島, 2.7~9 東京, 国連大学他共催, 「核の冬」を討議).
3.1	会長改選, 新会長市川芳彦 (85.9.1~86.8.31).
3.28	第 54 回通常総会 (機械振興会館, 会員数 13624).
3.31~4.3	第 40 回年会 (京都大学, 講演 2267, 3.31 I.M. 「理研における研究の自由」で集会決議, 4.1 第 4 回原子力シンポジウム).
4.1	日本・米物理学会間の相互協定承認 (相手側学会員と同じ条件で学会講演申し込み, 参加可能. Journal および米物理学会刊行誌を相手側学会員と同じ購読料で購読. 85.4.25 発効) (第 410 回委員会).
5.20	日本物理学会定款英訳作成 (会誌 40 巻 9 号に米物理学会定款と細則, 欧州物理学会定款と細則と共に掲載).
7.9~11	講習会「シンクロトロン放射光—新しい科学技術の旗手—」(東京会場:野口英世記念会館, 講義数 16, 聴講者 130).
7.11~13	同上講習会 (大阪会場:日本生命中之島研修所, 聴講者 117).
8.5	会誌 40 巻 8 号, 特集「一般相対論 70 年」.
8.10	日本・欧州物理学会間および日本・韓国物理学会間の相互協定承認 (日米物理学会間の相互協定と同様, 今後, 各国物理学会との同様の相互協定に関する交渉は理事会に一任). 物理学国際交流財団 (仮称) 設立計画検討委員会の設置, 国際交流基金の設置承認 (第 414 回委員会).
8.12~16	第 6 回強誘電体国際会議 (神戸国際会議場, 学術会議・応物学会と共同主催, 論文数 398, 外国 23 か国 154 人, 日本 365 人).
8.15~17	中間子論 50 周年記念国際会議 (京都大学, 京都大学主催, 本会協賛).
8.19~24	1985 年高エネルギーレプトン・光子相互作用国際会議 (国立京都国際会館, 本会主催または共催, 講演 512, 外国 31 か国 450 人, 日本 358 人).
8.20	野々村徹事務局長定年退職. 岩柳陽子事務局長代行就任.
8.26~30	第 6 回核物理偏極現象国際会議 (千里阪急ホテル, 大阪大学核物理研究センター主催, 本会他共催, 講演約 335, 約 300 人).
10.1~4	秋の分科会 物性関係他諸分科 (千葉大学, 講演 1881).
10.12~15	素粒子・原子核・宇宙線分科 (山梨大学, 講演 442).
10.13	米, 世界最大の加速器「テバトロン」完成.
11.5	会誌 40 巻 11 号, 特集「物性における計算物理」.
12.5	日本物理学史資料利用細則制定 (物理学史資料委員会).
12.7	第 41 回年会 (1986 年春) 総合講演講師に米物理学会会長 Robert R. Wilson の招待を決定 (外国人物理学者への総合講演講師の依頼慣例化) (第 417 回委員会).
12.31	山里前事務局長代行, 勤続 37 年で退職 (1983 年の定年後の 2 年間は嘱託として勤務).
-	単行書『スーパーコンピュータ』培風館より刊行 (1984 年の講習会に基づく).
○	ノーベル物理学賞・クリツィング「量子ホール効果の発見」.
○	文化勲章・和達清夫.
○	学士院賞・益川敏英, 小林誠「六元クオーク模型の提唱」.

物理学会関係

1986(昭和61)

1.5	会誌41巻1号, 特集「高橋秀俊教授追悼」.
1.13~17	第2回アジア・西太平洋物理学会議(インドバンガロア市, 本会共催, 講演約200, 19か国約200, うち日本28人).
1.-	Journal, vol. 55 から Letter 論文に担当編集委員制導入(専門分野の編集委員が編集業務の一部を行う).
1.-	第6回核物理偏極現象国際会議(1985) Proc. を Journal vol. 55 の Suppl. として刊行.
2.5	会誌41巻2号, 特集「核物理と宇宙物理」.
2.28	会長改選, 新会長山口嘉夫(86.9.1~87.8.31).
3.27	第55回通常総会(機械振興会館, 会員数13873).
3.-	Journal 投稿料の開発途上国の著者への援助制度導入(別刷代金50部分, 本会国際協力事業として以後継続).
3.29~4.1	第41回年会(青山学院大学, 講演2267, 3.30第5回原子カンボジウム).
4.5	学術情報センター設置(全国大学の共同利用機関).
4.11	ハレー彗星最接近(米国・ソ連・欧州宇宙機関・日本などの探査機がハレー彗星彗星に接近).
4.26	ソ連のチェルノブイリ原子力発電所で人為的ミスによる大規模な原発事故発生(4.28発表, 住民116000人疎開, 近隣諸国に放射能汚染の恐怖広がる).
4.28~5.1	「物理学における研究及び交流」に関する国際会議(米国ワシントンD.C., 米国物理学会主催, 本会・欧州物理学会・カナダ物理学会共催, 48か国の物理学会などの代表者参加, 日本から8人).
6.-	日本物理学会誌投稿規定改定.
7.12	Journal 付加会費改定(1987年より8,400円→9,000円). (第424回委員会).
7.22~24	講習会「量子力学と新技術」(野口英世記念館, 講義数10, 聴講者182).
7.末~8月	日・米・豪の国際共同実験「超長基線電波干渉計(VLBI)」.
8.24~29	「物理教育の動向」に関する国際会議(上智大学, IUPAP・日本物理教育学会主催, 本会後援, 外国126人, 日本323人).
8.24~30	原子物理学・少数多体系物理学国際会議(8.24~26東京プリンスホテル, 8.27~30仙台市民会館, 学術会議・本会・IUPAP共催, 論文数258, 24か国238人, うち外国から約100人).
9.27~30	秋の分科会 物性関係他諸分科(関西学院大学, 講演2095).
10.7~10	素粒子・原子核・宇宙線分科(甲南大学, 講演439).
10.5	会誌41巻10号, 特集「強結合プラズマ」.
11.19	高エネルギー研, トリスタン完成(11.19 25 GeVの加速に成功, 87.5.30本実験開始).
12.5	会誌41巻12号, 話題特集「三角格子反強磁性体の相転移と秩序相」.
12.13	事務局次長1名→1名または2名とする細則変更承認(1987年1月より). (第428回委員会).
12.25	会誌検討小委員会開始(86.9月発足の会誌編集委員会が同小委員会設立, 86.12.25 第1回小委員会, 87.8.17 最終回, 会誌A4版化, 表紙デザイン公募等の提案を出す).
12.-	単行書『シンクロトロン放射』培風館より刊行(1985年の講習会に基づく).
○	ノーベル物理学賞・ルスカ「電子顕微鏡の発明」; ビーニッヒ, ローラー「走査型トンネル顕微鏡の開発」.
○	文化勲章・林忠四郎.

物理学会関係

1987(昭和62)

1.1	岩柳陽子事務局長代行, 事務局長に就任.
1.10	会員管理システムの開発及び運用業務委託契約書の承認(会員管理委員会名簿および発送業務の電算機導入による一本化をはかる)(第429回委員会).
1.13~14	1987年情報学シンポジウム(学術会議, 本会共催).
1.30	米政府, 超伝導超大型加速器(SSC)計画を発表.
3.2	会長改選, 新会長小沼通二(87.9.1~88.8.31).
3.25	第56回通常総会(機械振興会館, 会員数14114).
3.27~30	第42回年会(名古屋工業大学, 講演2625, 3.28 チェルノブイリ原子力発電所事故に関するシンポジウム, 3.28 低温シンポジウム「超伝導にまつわる最近の話題および高温超伝導」, 9時30分~22時35分終了, 高温超伝導研究の急速な進展に対応し, 年会で初めて追加講演のセッションを設ける, 追加講演49).
4.5	会誌42巻4号特集「高分子物理」.
4.20~24	第11回素粒子と原子核物理国際会議(PANIC'87)(国立京都国際会館, IUPAP・本会主催, 論文数487, 外国285人, 日本287人).
4.-	第2回量子力学の基礎と新技術国際会議(1986)のProc.を刊行.
5.9	低温分科の世話人の増員: 2名→4名(第433回委員会). 定款変更検討小委員会発足(89.3.25第58回通常総会において可決される定款変更案の作成に当たる).(第228回理事会).
7.26~30	物性若手夏の学校(長野県志賀高原).
7.26~29	生物物理若手夏の学校(東海大学三保社会教育センター).
8.5	会誌42巻8号, 特集「重い電子系」.
8.5	ASPAP Newsの配布案内(Asia-Pacific Physics News, 1986年創刊, 本会も国際協力事業の一環として今年度の刊行費援助を行う. ASPAP Newsを希望者に頒布, その収入を国際協力事業費に還元以降, 毎年継続).(会誌42巻8号).
8.20~22	講習会「生物物理」(野口英世記念会館ホール, 講義数16, 聴講者197).
8.20~26	第18回低温物理学国際会議(国立京都国際会館, 学術会議・本会他共同主催, 論文数960, 外国38か国605人, 日本959人).
9.26~29	秋の分科会 物性関係他諸分科(東北大学, 講演2149).
9.30~10.3	素粒子・原子核・宇宙線分科(宇都宮大学, 講演417).
11.24	第7回日本工学会記念講演会「わが国工学の将来と使命—高温超伝導材料の現状と将来—」(東京建築会館ホール, 幹事学会:本会・応物学会・日本金属学会).
12.5	会誌42巻12号, 特集「東京大学物性研究所創立30周年によせて」.
12.15	単行書「量子力学と新技術」培風館より刊行(1986年の講習会に基づく).
-	物理学論文選集のバックナンバー8320冊をトリエステの国際理論物理センターに提供(発展途上国への協力, 援助のため).
○	ノーベル物理学賞・ペドノルツ, ミュラー「セラミックスの高温超伝導の発見」.
○	恩賜賞・山崎敏光「中間子物理の実験的研究」.
○	学士院賞・上田誠也「弧状列島のテクトニクスに関する地球熱学的研究」.

物理学会関係

1988(昭和63)

1.5	会誌43巻1号より変形A4版に変更(表紙デザインも変更).
2.22~23	第26回原子力総合シンポジウム(国立教育会館, 本会共催).
2.25	単行書「原子力発電の諸問題」東海大学出版会より刊行(第37回~第41回年会まで5回にわたり開催した原子力シンポジウム及び第42回年会の際に開催したチェルノブイリ原子力発電所事故に関するシンポジウムの内容を編集).
3.1	会長改選, 新会長大野公男(88.9.1~89.8.31).
3.29	第57回通常総会(機械振興会館, 会員数14407).
3.31~4.3	第43回年会(日本大学, 講演2477, 4.1シンポジウム「日本物理学会と国際交流」-理事会主催).
4.1	事務局事務分掌一部変更.
4.5	会誌43巻4号, 特集「物理出身者は今, 企業で……」(5号に同特集のつづき).
5.25	総合研究大学院大学設置(学長長倉三郎).
6.1	物理教育検討小委員会設置(理事会の下に設置, 委員長阿部龍蔵).
6.20~24	第3回アジア・西太平洋物理学会議(TAPPC)(香港中文大学, 本会共催, 講演282, 298人, うち日本53人).
7.4~6	第24回理工学における同位元素研究発表会(国立教育会館, 本会共催).
7.5	会誌43巻7号, 特集「量子エレクトロニクスの現状と将来」.
7.18~21	生物物理若手夏の学校(神戸市関西地区大学セミナーハウス).
7.25~29	1988年原子核および原子核におけるサブクラスターの様相に関する第5回国際会議(京都国際ホテル, 本会・理研共催, 論文数258, 外国25か国104人, 日本139人).
7.26~30	物性若手夏の学校(長野県大町市).
8.20~26	第4回日ソ強誘電体シンポジウム(つくば市科技厅研究交流センター, 同シンポジウム組織委員会・本会共同主催論文数10, ソ連25人, 日本122人).
9.6	事務局の6月一時金に「勤勉手当」を導入, 支給.
10.3~6	秋の分科会 素粒子・原子核・宇宙線(愛媛大学, 講演543). 物性関係他諸分科(広島大学, 講演2203).
10.31~11.1	Workshop of Increasing Flow of Scientific Literature to Third World Institutions (Trieste, Italy, 本会代表派遣).
11.2~6	C.V. Raman 生誕百年記念国際会議(カルカッタ, 本会代表派遣).
11.28~30	第3回核融合連合講演会(学士会館本館, 本会共催).
12.1	事務局労働組合, 東京地方労働委員会へ不当労働行為の救済申立て(93.3月闘争終結).
—	開発途上国への欧文誌の寄贈(本会国際協力事業として, 以後, 毎年継続).
—	Association of Asia Pacific Physical Societies (AAPPS) 設立のための ad hoc group meeting に本会代表派遣.
○	ノーベル物理学賞・レーダーマン, シュワルツ, シュタインバーガー「ニュートリノビーム法の開発ミュー粒子ニュートリノの発見によるレプトンの二重構造の実証」.

物理学会関係

1989(昭和64=平成元)

1.5	会誌44巻1号特集「サイエンス・シティ」(2号に同特集のつづき)
1.ー	第5回クラスター国際会議(1988)のProc.をJournal vol.58のSuppl.として刊行.
3.1	会長改選, 新会長牧二郎(89.9.1~90.8.31)
3.1	本会所蔵の単行本の処分決定(所蔵単行本約1100冊を有効に利用するところに移管)(第453回委員会).
3.5	会誌44巻3号特集「光ディスクの物理」.
3.17~19	国際的研究施設に関する国際会議(ユーゴスラヴィア ザグレブ欧州物理学会主催, 日本・米国内物理学会他共催, 論文数51, 参加者150人, うち日本4人).
3.25	第58回通常総会(機械振興会館, 会員数14870)定款変更, 目的を達するために行う事業として国際交流・協力を付加, 会長・副会長・理事・監事は総会で選任(これに伴う細則変更により, 総会において次々期会長を選任, 会長当選者は次期副会長となる, 副会長は次期の会長となると規定. 細則変更は89.7.8 第457回委員会, 内規変更89.9.30 第459回委員会, 定款変更認可 89.5.16. 新定款, 細則, 90.1.1 から実施).
3.28~31	第44回年会(東海大学, 講演2566).
4.1	埼玉大に大学院理工学研究科(修・博士課程)設置(91年佐賀大, 95年茨城大に設置).
4.5	会誌44巻4号, 特集「マイクロクラスター」.
5.29	核融合科学研究所設置(国立大学共同利用機関として, 名古屋市). 97.7 岐阜県土岐市に移転.
6.30	単行書「生物物理のフロンティアー蛋白質/筋収縮/脳・神経ー」培風館より刊行(1987年の講習会に基づく).
7.24~26	講習会「計算機物理学-コンピュータ支援による新しい展開」(野口英世記念会館ホール, 講義数20, 聴講者269).
7.22~27	第1回日中米物理教育会議(ハワイ大学, 米国40人, 中国9人, 日本25人-本会物理教育検討小委員会より4人).
8.21~26	第14回高エネルギー加速器国際会議(つくばセンタービル, IUPAP・学術会議・本会主催, 外国234, 日本263).
9.4~8	第7回液体及びアモルファス金属国際会議(京都会場, 本会主催, 論文数約250, 外国19か国83, 日本139人).
10.3~6	秋の分科会 物性関係他諸分科(鹿児島大学, 講演2335, 参加費に消費税加わる).
10.11~14	素粒子・原子核・宇宙線分科(宮崎大学, 講演555).
10.15	アジア太平洋物理学連合(Association of Asia Pacific Physical Societies, AAPPS)発足(本会もFounding Membersの1つとして加盟, 89.8.19 第458回委員会で本会の加盟承認).
11.5	会誌44巻1号談話室特集「近藤効果25年」.
12.20	第59回臨時総会(機械振興会館)次期会長選挙, 次期会長石井武比古(90.9.1~91.8.31).
ー	ASPEN(Asian Physics Education Network)への日本の加盟とnational point-of-contactの推薦に対する協力, Coordinating Board Members会議への出席者派遣.
○	ノーベル物理学賞・ラムゼー, デーメルト, パウル「精密な原子分光学的開発への重要な貢献」.
○	学士院賞・守谷亨「遍歴電子磁性におけるスピンゆらぎの理論」, 小柴昌俊「大マゼラン雲超新星(SNI987A)からのニュートリノの検出」.

物理学会関係

1990(平成2)

1.5	会誌 45 巻より「新博士紹介」欄中止 (研究分野の拡大, 大学院研究科新設増大により必要な情報の収集困難のため).
1.17~18	1990 年情報学シンポジウム (学術会議, 本会共催).
3.28	第 60 回通常総会 (機械振興会館, 会員数 15294) 第 47 期会長選挙, 第 46 期理事・第 46~47 期監事の選任. 第 47 期会長小沼通二 (91.9.1~92.8.31) (第 46 期副会長に就任).
3.30~4.2	第 45 回年会 (大阪大学, 講演 2594).
4.1	事務局就業規則類を抜本的に改定.
6.5	会誌 45 巻 6 号よりシリーズ特集「大学物理教育を考え直す」(9号まで4回連載).
6.9	本会所蔵雑誌の処分決定 (本会出版物など最小限必要なものを以外を有効に利用する. 研究機関の図書館に寄贈) (第 467 回委員会).
6.-	第 3 回量子力学の基礎と新技術国際会議 (1989) の Proc. を刊行.
7.2~4	第 27 回理工学における同位元素研究発表会 (国立教育会館, 本会共催).
7.23~25	講習会「現代の宇宙像 - 宇宙の誕生から超新星爆発まで -」(野口英世記念会館ホール, 講義数 15, 聴講者 326).
7.30~8.2	生物物理若手夏の学校 (名古屋クラウンホテル).
7.31~8.4	物性若手夏の学校 (長野県 志賀高原).
7.-	事務局労働組合, 科学技術産業労働組合協議会 (科労協) に加盟.
8.2~8	第 25 回高エネルギー物理学国際会議 (シンガポール, IUPAP 主催, 本会他アジア諸国の物理学会共催, 論文数 940. 参加者 38 か国約 800 人, うち日本 69 人).
8.10	アジア太平洋物理学会連合 (AAPPS) 第 1 回総会 (本会代表出席).
8.13~17	第 4 回アジア西太平洋物理学会議 (4th APCC) (韓国ソウル市 AAPPS 主催, 本会共催, 参加 412 人, うち日本 70 人).
8.2	JJAP 付加会費改定 (1991 年より 8,900 円→12,000 円) (第 469 回委員会).
9.10	単行書「学術用語集 物理学編 (増訂版)」文部省と共同編集, 培風館より刊行.
9.16~21	第 4 回日ソ固体内原子衝突シンポジウム (筑波大学 本会・筑波大共催).
9.30~10.3	秋の分科会 素粒子・原子核・宇宙線分科 (奈良女子大学, 講演 540).
10.2~5	物性関係他諸分科 (岐阜大学, 講演 2488).
10.5	会誌 45 巻 10 号, 特集「仁科芳雄生誕百年記念」.
10.25~30	事務所の改装.
-	資料「日本の大学基礎物理教育の現状」予備調査報告書刊行 (物理教育検討小委員会).
-	AAPPS 加盟学会として本会代表の派遣および AAPPS News Letters の刊行援助 (以後の年も継続. 1991 年より AAPPS Bulletin の刊行援助も加わる). Asian Physics Education Network への協力 (以後の年も継続).
-	第 46 期会長石井武比古 (1990.9.1~1991.8.31).
○	ノーベル物理学賞・フリードマン, ケンドール, テイラー「クォークモデルの発展につながる先駆的研究」.
○	文化勲章・長倉三郎.

物理学会関係

1991(平成3)

1.20	単行書『計算物理学』培風館より刊行(1989年の講習会に基づく).
1.-	JJAP part I は応用物理学会編集, part II は月2回刊行を実施.
2.5	会誌46巻2号, 特別記事「超伝導大型加速器(SSC)計画」.
3.24~27	春の分科会 物性関係他諸分科(学習院大学, 講演2406).
3.27~30	素粒子・原子核・宇宙線分科(東京理科大学, 講演407).
3.27	第61回通常総会(機械振興会館, 会員数15775) 第48期会長伊達宗行(92.9.1~93.8.31).
4.1	信州大に大学院工学系研究科(修・博士課程)設置(同じく工学研究科, 93年山形大・94年富山大・鹿児島大に設置).
4.5	会誌46巻4号, 特集「表面」.
5.5	会誌46巻5号, 談話室小特集「高校物理教育を考える」(会誌6号に続く).
6.10~14	第4回原子核・原子核衝突国際会議(金沢文化ホール, 理化学研究所主催, 本会・IUPAP共催, 論文数336, 外国23か国184人, 日本137人).
6.14	物理教育委員会設置(特別委員会として設置承認, 委員長中山正敏)(第478回委員会).
6.24~29	一般相対論に関する第6回マーセルグロスマン会議(国立京都国際会館, 本会主催, IU-PAP・学術会議共催, 論文数425, 外国32か国279人, 日本210人).
7.5	物理学論文選集の再出版(会誌46巻7号に刊行委員会よりのアナウンス, ここ数年, 企画進行が途絶えていたが, 学際的分野のガイダンスとなるような性格の論文集を出してほしいという要望が高まる. 新しい論文選集はA4判, ローマ数字で新たにIからナンバリング).
7.10	単行書『現代の宇宙像』培風館より刊行(1990年の講習会に基づく).
7.22~26	第3回超伝導物質・機構及び高温超伝導国際会議(金沢観光会館, 応物学会主催, 本会他共催, 論文数1152, 外国36か国566人, 日本818人).
7.23~28	第2回日中米物理教育会議(静岡県富士教育研修所, 日本物理教育学会主催, 本会共催, 論文数85, 外国4か国53人, 日本44人).
7.24~26	講習会「表面新物質とエピタクシー」(野口英世記念会館ホール, 講義数15, 聴講者122).
8.2	原子力委員会, プルトニウム利用計画を決定(プルサーマル方式を90年代半ばから実施).
8.5	会誌46巻8号, 談話室小特集「大学と企業」.
9.27~30	第46回年会(北海道大学, 講演数3103).
11.8	国際会議の協賛, 後援承認を理事会に一任(第482回委員会).
11.22	SSCに関する日本学術会議の要望書(91.10.23~24学術会議第113回総会において議決. 仮にSSC計画に参加する場合にも, 我が国の学術研究予算の充実を優先し, 本計画への協力は別枠の予算によるなど適切に対処するよう政府に申し入れ).
12.5	会誌46巻12号, 特集「中性子散乱研究の新しい展開」.
12.6	東大宇宙線研究所, 「スーパーカミオカンデ」起工式(岐阜県神岡鉱山, 95.11完成).
-	第47期会長小沼通二(91.9.1~92.8.31).
○	ノーベル物理学賞・ドジャンヌ「相転移現象を数学的に解明する基礎理論の確立」.
○	恩賜賞・外村彰「電子線ホログラフィの開発とAB効果の実証」.
○	学士院賞・早川幸男「宇宙放射線の研究」.

物理学会関係

1992(平成4)

1.1	高田吉信次長, 事務局長に就任.
2.5	会誌47巻2号, 特別記事「核融合科学研究所大型ヘリカル計画」.
2.1	学術的会合などの共催・後援などに関する基準の改定(第485回委員会).
3.26	第62回通常総会(機械振興会館, 会員数16320) 第49期会長小林澈郎(93.9.1~94.8.31). 定款変更, 松山市に支部設立(定款変更認可92.7.27).
3.27~30	第47回年会(慶応大学日吉キャンパス, 講演2929).
3.28	学会講演予稿集に掲載される予稿の著作権を日本物理学会に委譲(92年秋の分科会より, その後89年春の分科会から92年春の第47回年会までの予稿集の著作権についても同様の扱いとなる). (第487回委員会).
7.24	有人宇宙ステーション計画に反対する声明(米国物理学会他の連名でワシントンで発表, 日本物理学会会長も加わる).
8.5	「物理学研究の動向と将来への課題—物理学研究連絡委員会物理学研究・教育調査小委員会報告」刊行(会誌47巻8号付録, 92.7.24 学術会議運営審議会において公表承認).
8.5	会誌47巻8号談話室小特集「物研連報告を通して見る物理学研究の現状」(9号に同小特集つづき).
8.10~15	第5回アジア・西太平洋物理学会議(マレーシア クアラルンプール, 本会共催, 論文数220, 26か国260人, うち日本45人).
8.18~20	第5回高圧半導体物理国際会議(アピカルイン京都, 本会共同主催, 論文数102, 外国8か国50人, 日本74人).
9.5	会誌47巻9号, 小特集「四半世紀を迎えた「決議三」」.
9.8~11	アジア物理教育シンポジウム—大学初年級の物理教育—(東海大学, 本会共同主催, 論文数59, 外国20か国44人, 日本48人).
9.25~28	秋の分科会 物性関係他諸分科(東京大学, 講演2696). 素粒子・原子核・宇宙線分科(新潟大学, 講演608).
10.5	会誌47巻10号話題小特集「宇宙元素合成の謎—物質密度の非一様性はあったか?—」.
10.17	Progress 付加会費の改定(1993年よりは, 14,400円→16,800円). 細則変更, 会長・理事の選任について(会長および理事を総会で選任する際, 議案説明に候補者に関する説明を付する)(第491回委員会).
10.21~25	第3回常温核融合国際会議(名古屋国際会議場, 本会後援).
11.5	会誌47巻11号談話室小特集「今、大学院が変わろうとしている—その1—」.
12.10	単行書『表面新物質とエピタクシー』培風館より刊行(1991年の講習会に基づく).
—	日本学術振興会「日本旧ソ連研究者交流事業」発足(3年間の寄付金特別事業).
—	第48期会長伊達宗行(92.9.1~93.8.31).
○	ノーベル物理学賞・シャルバック「粒子検出器, 特に多様式比例計数箱の発明と改良」.
○	文化勲章・森野米三.
○	学士院賞・鈴木秀次「固体ヘリウムの塑性変形および機械的性質の転位論的研究」.

物理学会関係

1993(平成5)

1.16	学術情報センターの講演概要集(予稿集)データベース公開に本会が同意(従来の年会、分科会の「講演予稿集」は93.3月の第48回年会より「講演概要集」と名称変更)(第494回委員会).
2.5	会誌48巻2号, 談話室小特集「今, 教養部は?—教養部改組をめぐって(その1)—」(会誌48巻8号に同小特集, その2).
2.20	宇宙科学研究所, X線天文衛星「あすか」打ち上げ(鹿児島宇宙空間観測所より).
3.26	第63回通常総会(機械振興会館, 会員数16864)第50期会長伊達宗行(94.9.1~95.8.31).
3.29~4.1	第48回年会(東北大学, 講演3067. この年会よりプログラムが会誌別冊付録となる).
4.	岩柳前事務局長退職.
6.5	会誌48巻6号, 小特集「第一原理による電子物性」.
7.5	会誌48巻7号, 談話室小特集「今, 大学院が変わろうとしている—その2—」(会誌48巻9号に同小特集—その3—「研究所の大学院生受け入れの現状と将来計画」).
8.8~12	第9回三元および多元化合物に関する国際会議(横浜国際平和会議場応物学会主催, 本会共催).
8.10~12	講習会「カオス—力学系に現れる秩序, 無秩序, そして複雑さへの挑戦—」(野口英世記念会館ホール, 講義数16, 聴講者277).
8.22~26	第11回硼素および硼化合物等に関する国際シンポジウム(つくば市, 本会共催).
9.20~25	第21回国際純粋・応用物理学連合総会(1993 IUPAP General Assembly)(奈良県立新公会堂, 学術会議・応物学会・本会共催. 外国31か国85人, 日本77人. 9.22~23アカデミックセッション).
10.3~6	秋の分科会 素粒子・原子核・宇宙線分科(高知大学, 講演649).
10.12~15	物性関係他諸分科(岡山大学, 講演2953). (この分科会より参加費, 概要集代金支払いは原則として振込による事前送金に変更).
10.17	ロシア, 日本海で液体放射性廃棄物を投棄(日本の抗議と世界の批判を受け, 10.21予定の2回目の投棄中止. 11.2日本の原子力委員会, 低レベルの放射性廃棄物の処分について「海洋投棄はせず地中埋設を進める」との方針を決定).
10.21	米上下両院協議会, テキサス州に建設中のSSCの計画中止に合意.
12.17	伊達第48期会長, 科学技術会議—科学技術系人材部会に提言「若者の理科離れ, 物理離れ対策について」(人材部会会合において個人として提言).
—	Journalの投稿資格を学会員に限定しないこととする.
—	日本物理学会・応用物理学会・アジア太平洋物理学会連合・米国物理学会・欧州物理学会の代表者会議を開催(本会の国際交流・協力事業の一環として).
—	UNESCOのPhysics Advisory Committeeへの代表の派遣.
—	第49期会長小林激郎(93.9.1~94.8.31).
○	ノーベル物理学賞・ハルス, テイラー「連星パルサーの発見, 重力波の存在の間接的証明」.
○	文化勲章・小田稔.
○	恩賜賞・田中靖郎「X線天体の相対論的特性」.
○	学士院賞・有馬朗人「原子核の力学的模型と電磁相互作用の理論的研究」.

物理学会関係

1994(平成6)

1. -	ユネスコ, Physics Action Council (PAC) 発足 (各国物理学会推薦の9名, 内日本1名).
2. 5	会誌 49 巻 2・3 号談話室連載「物理をみんなに伝えよう」.
3. 25	第 15 期物研連対外報告「日本の物理学—明日への展望」印刷・公表.
3. 25	第 64 回通常総会 (機械振興会館, 会員数 17537) 第 51 期会長江沢洋 (95. 9. 1~96. 8. 31).
3. 28~31	第 49 回年会 (福岡工業大学, 講演 3294. 応数力学・液体物理分科で初のビデオセッション開催. 3. 28 インフォーマルミーティングで「物性研究将来計画報告」の公開討論会).
3. 30	ドイツ物理学会との相互協定締結承認 (第 508 回委員会).
3. -	Journal vol. 63 の Suppl. A 国際シンポジウム「メゾスコピック先端技術と量子化学」(1993) の Proc. を刊行.
4. 1	神戸大に大学院自然科学研究科 (博士前期・後期課程 5 年) 設置 (95 年新潟大に設置).
4. 1	清田勇毅次長, 事務局長に就任 (3. 31 高田事務局長退職).
4. 12	日本物理学会・応用物理学会・日本物理教育学会の各会長による共同声明「理科教育の再生を訴える」発表 (会誌 49 巻 6 号に掲載).
6. 5	会誌 49 巻 6 号, 小特集「小谷正雄先生の物理学への貢献をふりかえって」.
6. 28	物理教育について諸学会会長共同声明発表 (国際文化会館において, 米物理学会会長 B. Richter, アジア太平洋物理学会連合会長 C. N. Yang, 欧州物理学会会長 N. Kroó, 応用物理学会会長 南茂夫, 日本物理学会会長 小林激郎. 94. 4 月付).
6. -	Journal vol. 63 の Suppl. B 刊行—新しいシリコン材料の光物性と物質科学.
7. 4~8	第 6 回アジア・太平洋物理学会議 (APPC) (Brisbane, Australia, AAPPS 主催, 本会共催. 参加者オーストラリア 461 人, 日本 37 人, 他各国 106 人).
7. 20~22	講習会「脳・心・コンピュータ」(東京 社会文化会館, 講義数 12, 聴講者 342).
8. 22	小・中・高校の物理教育についての日本物理学会会長から文部大臣宛の要望書.
9. 2~5	秋の分科会 物性関係他諸分科 (静岡大学, 講演 660).
9. 5	会誌 49 巻 9 号, 交流小特集「B ファクトリーの建設が始まる」.
9. 29~10. 2	秋の分科会 素粒子・原子核・宇宙線分科 (山形大学, 講演 2465).
9. -	物理学史資料委員会会報 No. 1「物理学史資料室紹介—日本における物理学史資料の保存状況—」を同委員会が刊行.
11. -	事務局に電子メールサーバーを導入.
12. 5	「大学の物理教育」発刊 (物理教育委員会編, 年 3 回刊. 創刊号は会誌 49 巻 12 号付録, 以後, 講読希望会員に有料配布).
12. 16	CERN 理事会, 大型ハドロン衝突型加速器 (LHC) 計画承認 (95. 6. 23 同理事会, 日本を「オブザーバー参加国」と決定. 日本は 50 億円の資金協力を約束).
12. 17	オーストラリア物理学会との相互協定の改定 (第 515 回委員会).
12. 22~23	日本物理学会シンポジウム「宇宙と重力を考えよう」(慶応大学, 本会主催, 演題 10. 聴講者 243).
-	第 50 期会長伊達宗行 (94. 9. 1~95. 8. 31).
○	ノーベル物理学賞・ブロックハウス, シャル「中性子分光法, 中性子散乱技術の開発」.

物理学会関係

1995(平成7)

2.10	メキシコ物理学会との相互協定の締結承認(第517回委員会).
3.2	米国フェルミ国立加速器研究所の2つの国際共同グループ、トップクォークの発見を正式に確認、発表(同研究所の粒子加速器、デバトロンによる. 94.4.26 発見宣言).
3.26	日本数学会年会第50回記念公開講演会(大阪科学技術センター、本会他後援).
3.27	第65回通常総会(機械振興会館、会員数17819)第52期会長米沢富美子(96.9.1~97.8.31).
3.28~31	第50回年会(神奈川大学、講演3482).
4.5	会誌50巻4号、交流特集「階層のある系の物理」. 会誌50巻4号より「地震情報」欄臨設(阪神大震災被災地域の諸大学からの情報を掲載、8号まで継続).
5.13	日本物理学会論文賞規定制定(JournalおよびProgress掲載の独創的な論文著者に授与)(第520回委員会).
7.8	決議三にもとづく諸慣行の変更(年会・分科会の講演募集要綱およびプログラムの第1頁に示されている、決議三の尊重を要望する文章を削除.ただし、毎年会誌1月号に同趣旨の文章を掲載、会誌・ジャーナルなど、学会の刊行する出版物に対する投稿、および学会発表は、その研究内容が明白な軍事研究であると判断される場合を除き自由とする.学会が共催、協賛、後援する諸団体、学協会の会合および各国との国際協力については、主催組織が軍関係団体である場合には協力を断る.凍結されている米軍資金については今後の検討課題とするなど). (第522回委員会).
7.25~28	中高生のためのサマー物理実験室(国立科学博物館 新宿分館、国立科学博物館創造的科学研究推進事業. 本会他共催).
8.1~3	講習会「ニュートリノと重力波—実験室と宇宙を結ぶ新しいメディア—」
8.7~9	(東京会場:野口英世記念会館8.1~3. 講義数12, 聴講者124人, 大阪会場:千里ライフサイエンスセンター, 8.7~9. 聴講者85人).
8.-	単行書“Computational Physics as a New Frontier in Condensed Matter Research”刊行(La TEXで刊行, その経験を生かしてJournal投稿用La TEXスタイルファイル作成).
9.18~22	物理学における研究と交流に関する第2回国際会議—世界物理学会会議—(東京国際連合大学, 本会・応物学会共同主催, AAPS・米国物理学会・欧州物理学会・国連大学共催. 外国43か国63人, 日本40人).
9.27~30	秋の分科会 素粒子・原子核・宇宙線分科(中部大学, 講演611, 電子メールによる講演申込受付開始). 物性関係他諸分科(大阪府立大学, 講演2967). (事前参加登録者を対象に、年会・分科会検討ワーキンググループによるアンケート実施、この分科会より会員としての参加登録の受付は事前参加登録のみ).
11.5	会誌50巻11号、特集「追悼 久保亮五博士」.
11.12	公開シンポジウム「光は未来をひらく」(上智大学, 本会主催, 演題3, 聴講者170).
11.25	英国物理学会との相互協定の締結承認(第525回委員会).
12.27	中教審会長宛に「次期教育課程に関する要望」提出(本会・応用物理学会・日本物理教育学会各会長連名).
—	第51期会長江沢洋(95.9.1~96.8.31).
○	ノーベル物理学賞・パール, ライネス「レプトン物理学への先駆的な実験的貢献」.
○	恩賜賞・深尾良夫「マントルダイナミクスに関する地震学的研究」.
○	学士院賞・杉本大一郎, 野本憲一「星の進化と超新星の理論」, 菅宏「凝相における相変化と緩和過程」.

物理学会関係

1996(平成8)

1.5	会誌 51 巻第 1 号, 特集「日本物理学会 50 周年記念」.
2.29	第 1 回論文賞授賞論文 5 篇を第 343 回理事会において決定.
2.21~2.28	日本学術振興会アジア学術セミナー「素粒子論と原子核理論の最近の発展」開催 (韓国, ソウル). 韓国科学技術財団も財政的に支援.
3.28	第 66 回通常総会 (機械振興会館, 会員数 18,513) 第 53 期会長佐藤勝彦 (97.9.1~98.8.31).
3.31~4.3	第 51 回年会 (金沢大学, 講演数 3707, 参加登録者数 4,519). 総合講演 (金沢市文化会館) 大貫義郎「素粒子論 50 年を顧みて」. J. Robert Schrieffer, "Concepts and Misconceptions in the Theory of Superconductivity." 第 1 回論文賞表彰式 (金沢市文化会館)
4.1	新庄輝也, 前川禎通責任編集『物理学論文選集 VII 巨大磁気抵抗効果』刊行.
5.24~6.4	秋の分科会への電子メールによる講演申込のテスト.
6.17~6.27	秋の分科会への電子メールによる講演申し込み (正式申込期間).
7.5	会誌 51 巻第 7 号, 追悼八木利夫 (生: 1930/6/16, 没: 1996/11/28).
8.5	会誌 51 巻第 8 号, 小特集「回想の木庭二郎」
10.1~10.4	秋の分科会 物性等 (山口大学, 講演 3202, 参加登録者 3585)
10.6~10.9	素粒子等 (佐賀大学, 講演 675, 参加登録者 713)
10.-	Journal vol. 65 の Supplement B 刊行 - 日仏セミナー「稀土類化合物の磁気, 電気, 熱現象」
11.5	会誌 51 巻第 11 号, 追悼三浦功 (没: 1996/7)
12.25	『年表 (1877-1995) ~ 歴史の中の物理学会 ~』刊行.
12.-	名簿に会員のファクシミリ番号と電子メールアドレス等の掲載を開始.
12.-	Journal vol. 65 の Supplement A 刊行 - 国際シンポジウム「中性子光学及びその研究施設における進展」
12.-	The Proceedings of the Second International Conference on Research and Communications in Physics - World Congress of Physical Societies - 日本物理学会と応用物理学会の共同刊行
-	第 52 期会長米沢富美子 (96.9.1~97.8.31).
○	ノーベル物理学賞・リー, オシエロフ, リチャードソン「ヘリウム 3 における超流動の発見」
○	朝日賞・荒木不二洋「物理学と数学の境界領域の開拓」, 飯島澄男「カーボンナノチューブの発見」

物理学会関係

1997(平成9)

1.5	会誌 52 巻第 1 号, 「年会・分科会検討ワーキンググループ報告」 追悼 Nevill Mott (生: 1905/9/30, 没: 1996/8/8)
2.5	会誌 52 巻第 2 号, 追悼橋口隆吉 (生: 1914/8/23, 没: 1996/10/4) 「科学研究費補助金配分報告の中止について」
3.5	会誌 52 巻第 3 号, 特集「高温超伝導 10 年—新しい物理学の展開—」 「物理学会物性分科会の変更案について」 「年会・分科会参加費の変更」
3.25	第 67 回通常総会(機械振興会館, 会員数 18,561) 第 54 期会長興地斐男 (98.9.1~99.8.31)
3.28	勝又紘一, 田崎清明編集/解説『物理学論文選集 VIII Haldane Gap—スピン系におけるマクロな量子現象』
3.28~3.31	第 52 回年会 (名城大学, 講演 3,679, 参加登録者数 4,449) 総合講演 (名古屋公会堂) 柳田敏雄「生体分子が働くナノスペースをイメージングする—生物分子機械のやわらかさの秘密—」 戸塚洋二「地底から宇宙をさぐる(スーパーカミオカンデによるニュートリノ観測)」 池内了「宇宙の大規模構造は、どうしてできたか」 第 2 回論文賞表彰式 (名古屋公会堂)
4.-	1997 年 3 月, 4 月の理事会において事務所移転問題ワーキング・グループ設置, 物理学会事務所移転について検討開始.
5.5	会誌 52 巻第 5 号, 追悼 Abdus Salam (生: 1926, 没: 1996/11/21) 追悼谷内俊彌 (没: 1996/12/6)
6.5	会誌 52 巻第 6 号, 「物理学会の会員制度の変更案について—皆様の御意見を求めます—」.
7.1~7.4	重力波に関する第 2 回アマルディ会議 (スイス, ジュネーブ, CERN)
7.5	第 541 回委員会議 化学物理分科設立承認 (1998 年年会より実施)
7.5	日本物理学会誌第 52 巻第 7 号 連載「科学は今……」開始
7.19~7.21	科学セミナー 物理学 21 世紀へ向けて 新物質が拓く物理学の新たな地平「電子の波動性と粒子性」(学習院創立百周年記念会館, 聴講者: 158 名)
7.25	物理学論文選集 IX 輻射場と粒子の量子制御 (花村榮一, 山村正道 編集/解説)
9.15~9.17	電子発見 100 年: 過去・現在・未来 —電子発見 100 年記念国際シンポジウム— (イギリス, ケンブリッジ, Churchill College)
9.20~9.23	秋の分科会 素粒子等分科 (東京都立大学, 参加登録者数: 734 名, 講演: 635 件)
9.-	物理学史資料委員会会報 No. 2 を同委員会が刊行
10.5~10.8	秋の分科会 物性関係他諸分科 (神戸大学, 参加登録者数: 3,788 名, 講演: 3,382 件)
-	1997 年秋の分科会から登録参加費変更 (事前登録参加費: (一般会員) 3,200 円, (学生会員) 1,600 円, 現地登録参加費: (一般会員) 4,000 円, (学生会員) 2,000 円, (一般非会員) 5,000 円, (学生非会員) 2,500 円)
10.6	物理学論文選集 X クラスタ— (近藤保, 山口豪, 寺寄亨 編集/解説)
11.9	公開講座「複雑系の物理入門」(早稲田大学理工学部, 聴講者: 168 名)
-	第 53 期会長 佐藤勝彦 (1997.9.1~1998.8.31)
○	ノーベル物理学賞・チュー, コーエン・タヌジ, フィリップス「気体原子のレーザー冷却法および捕獲法の開発」
○	文化勲章・小柴昌俊
○	文化功勞者・秋本俊一
○	久保亮五記念賞設立

物理学会関係

1998(平成 10)

2.7	第 546 回委員会議承認：終身会員制度の変更(有料制) 負担金額 4,000 円(年額), 実施時期 1999 年 1 月以降(適用は 2000 年から)の終身会員申込者から.
2.7	第 546 回委員会議承認：会友制度廃止(1998 年末).
3.27	第 68 回通常総会(機械振興会館, 正会員数: 18,926 名). 会長選挙 第 55 期会長佐藤文隆.
3.30~4.2	第 53 回年会(東邦大学, 日本大学, 参加登録者数: 4,189 名, 講演数: 3,607 件) 総合講演(習志野文化ホール) 物理と化学を繋ぐ d 軌道(金森順次郎), 原子波動光学(清水富士夫), 動き出した Spring-8(上坪宏道) 第 3 回論文賞表彰式(習志野文化ホール)
4.5	会誌 53 巻第 4 号 追悼福井謙一(生: 1918/10/4, 没: 1998/1/9)
7.5	会誌 53 巻第 7 号 追悼横田伊佐秋(没: 1998/1/14)
7.19~7.20	科学セミナー「アインシュタインとボーア—20 世紀の物理学を創った相対論・量子論の新展開—」(野口英世記念会館, 聴講者 308 名)
8.5	会誌 53 巻第 8 号 追悼藤田光孝(生: 1959/8/16, 没: 1998/3/18)
9.25~9.28	1998 年秋の分科会 物性関係他諸分科(琉球大学, 沖縄国際大学 参加登録者数: 3,580 名, 講演: 3,552 件)
10.3~10.6	1998 年秋の分科会 素粒子等分科(秋田大学, 参加登録者数: 719 名, 講演: 719 件)
11.8	公開講座「先端技術の主役, 電子 その発見から百年」(東京大学教養学部 13 号館 1313 号室, 聴講者 85 名)
12.-	物理学会事務局分室設置(東京都港区芝公園 3-5-22 タイガービル 4 階)
-	第 54 期会長興地斐男(98.9.1~99.8.31)
○	ノーベル物理学賞・ラフリン, ツイ, シュテルマー「分数電荷の励起を持つ新たな量子液体の発見」

物理学会関係

1999(平成 11)

1.5	会誌の索引, web で公開開始.
2.5	会誌 54 巻第 2 号, 特集「強相関系—絶縁体転移」. 追悼砂川重信 (生: 1925, 没: 1998). 追悼池田宏信 (没: 1998). 追悼伴野雄三 (生: 1919, 没: 1998).
3.5	事務局の問題について (事務所分室の設置, 事務局の状況, 労使交渉) 日本物理学会理事会.
3.26	第 69 回通常総会 (機械振興会館, 会員数 19029). 会長選挙 第 56 期会長鈴木増雄.
3.28~3.31	第 54 回年会 (広島大学, 講演 3524, 参加登録者 3939). 総合講演 (広島国際会議場) 1 高エネルギー γ 線と宇宙線 木船正 2 広島原爆調査と物理学者 佐藤文隆 3 脳のこころ 松本元 第 4 回論文賞表彰式 (広島国際会議場)
4.5	WWW 運営小委員会だより 第 1 回「アクセス統計と会員専用ページ公開のお知らせなど」
5.5	会誌 54 巻第 5 号, Friedrich Hund (1896-1997) in Memorial
6.5	ITER 計画 (国際熱核融合実験炉: International Thermonuclear Experimental Reactor)
7.5	新学習指導要領に関する数学, 物理学, 化学系学会の見解発表について (会誌 54 期第 7 号に掲載)
7.22~7.23	科学セミナー「生命力のみなもと—生体エネルギーへの物理的アプローチ—」(野口英世記念会館, 講演 10)
9.5	JJAP の将来と欧文誌刊行会
9.23~9.26	1999 年秋の分科会 素粒子等 (島根大学, 講演 690, 参加登録者 810)
9.24~9.27	1999 年秋の分科会 物性等 (岩手大学, 講演 3363, 参加登録者 3935)
10.5	定款変更案の作成について 第 54 期理事会 物理学関連学術誌出版に関する相互協力について 第 54 期理事会
10.5	会誌 54 巻第 10 号, 追悼三宅静雄 (生: 1911, 没: 1999)
10.11~10.15	国際シンポジウム「レーザー・ビーム相互作用における新しい展望—レーザー・コンプトン散乱の基礎的課題と応用」
11.3	公開講座「日本から発信された物理の成果—最近の話題から 21 世紀の文化を考える—」(慶応義塾大学三田キャンパス北新館ホール, 講演 4)
12.5	会誌 54 巻第 12 号, 追悼高林武彦 (生: 1919, 没: 1999) 追悼加藤敏夫 (生: 1917, 没: 1999)
—	第 55 期会長佐藤文隆 (99.9.1~00.8.31)
○	ノーベル物理学賞・ト・ホーフト, M. フェルトマン, 「弱電相互作用の量子構造の解明」
○	朝日賞・スーパーカミオカンデ観測グループ, 「ニュートリノに質量が存在する強い証拠の発見」.

物理学会関係

2000(平成 12)

1.5	会誌 55 巻第 1 号, 座談会「大学の物理教育を考える」
	会誌 55 巻第 1 号, 「論文誌の電子化出版新システムの現状」
2.5	会誌 55 巻第 2 号, 「第三高等学校由来の物理蔵書および実験機器コレクション」 談話室「サイエンス・ウォーズ」
3.5	会誌 55 巻第 3 号, 「物理系学術誌刊行協会の設立について」 会誌 55 巻第 3 号, 「事務局の問題について」(事務局の動き, 事務局の状況, 労使関係)
3.22~3.25	2000 年春の分科会 物性等(関西大学, 講演 3073, 参加登録者 3944)
3.28	第 70 回通常総会(機械振興会館, 会員数 19097) 会長選挙 第 57 期会長岡洋介
3.30~4.2	2000 年春の分科会 素粒子等(近畿大学, 講演 587, 参加登録者 831)
4.1	IPAP(物理系学術誌刊行会, Institute of Pure and Applied Physics)の発足
4.5	会誌 55 巻第 4 号, 「WWW 運営小委員会だより 会誌 50 周年記念記事を WEB に掲載」 「年会・分科会の登録方法の変更と参加費支払方法について」
5.5	会誌 55 巻第 5 号 追悼 Arthur Leonard Schawlow(生: 1921, 没: 1999) 追悼内田洋一(生: 1903, 没: 1997)
6.5	会誌 55 巻第 6 号, 「大学入試における物理の問題について」 「物理教育におけるインターネット上の教材資源の活用」
7.15	第 71 回臨時総会(機械振興会館) 定款変更(変更認可 01.8.31)
8.5	会誌 55 巻第 8 号, 「東海村 JCO 臨界事故」 会誌 55 巻第 8 号, 「ヨーロッパにおける教育の実験—「エラスムス」計画—」
9.5	会誌 55 巻第 9 号, 「大学の独立法人化問題」 「ラ・トッカータ」新規項目(55 巻第 9 号: 「MIT の凝縮職人サーン!」)
9.22~9.25	第 55 回年会(新潟大学, 講演 3734, 参加登録者 4995, 託児所設置始まる) 総合講演(新潟県民会館) 1 物理学と数学の間 戸田盛和 2 レーザー冷却を用いた原子気体のポーズ・アインシュタイン凝縮 久我隆弘 3 長基線ニュートリノ振動実験とニュートリノ質量 西川公一郎 第 5 回論文賞表彰式(新潟県民会館)
10.5	会誌 55 巻第 10 号, 追悼田中豊一(生: 1946, 没: 2000) 「プランク量子論 100 年」
11.5	会誌 55 巻第 11 号, 「国立研究所の独立行政法人化」 「物理教育・理科教育の現状と提言」
11.11	公開講座「量子って何?—プランク 100 年—」(学習院大学 100 周年記念館小講堂, 講演 4)
—	第 56 期会長鈴木増雄(00.9.1~01.8.31)
○	ノーベル物理学賞・アルフェロフ, クレーマー, キルビー, 「高速エレクトロニクス及び光エレクトロニクスに利用される半導体のヘテロ構造の開発」

物理学会関係

2001(平成 13)

2.5	会誌 56 巻第 2 号, 追悼折戸周治 (没: 2000/11/14)
3.22	第 72 回通常総会 (機械振興会館, 会員数 20334) 会長選挙 第 58 期会長北原和夫
3.27~3.30	第 56 回年会 (中央大学, 講演 3754, 参加登録者 5049) 総合講演 1 物理は自由だー理科教育のために 江沢洋 2 青色発光素子はいかにして創られたか 赤崎勇 第 6 回論文賞表彰式
3.28~3.31	応用物理教育分科会・日本物理教育学会・日本物理学会教育分科会共同企画シンポジウム 「21 世紀に求められる科学教育ーIT (情報技術) の活用による新しい科学教育への期待」
4.5	会誌 56 巻第 4 号, 追悼小林稔 (没: 2001/1/6) 追悼木原太郎 (生: 1917/5/5, 没: 2001/2/10)
7.5	会誌 56 巻第 7 号 追悼 Ugo Fano (生: 1912/7/28, 没: 2001/2/13) 追悼小田稔 (生: 1923/2/24, 没: 2001/3/1)
7.14	分科・領域委員会設置 (理事会承認)
7.19~7.20	科学セミナー「21 世紀, 物理はどう変わるか」(野口英世記念会館, 講演 10, 聴講 135)
8.5	会誌 56 巻第 8 号, 小特集「白川英樹博士ノーベル化学賞受賞記念」
9.17~9.20	秋の分科会 物性関係諸分科 (徳島文理大学, 講演 3111, 参加登録者 3741) シンポジウム「Women in PhysicsーIUPAP パリ会議に向けて」素粒子論等分科でも同様の会議開催 徳島会場約 80 名, 沖縄会場約 100 名参加
9.22~9.25	秋の分科会 素粒子論等分科 (沖縄国際大学, 講演 544, 参加登録者 588)
9.-	日本物理学会会員の状況に関するアンケート (IUPAP の Women in Physics ワーキンググループの関連).
10.5	会誌 56 巻第 10 号, 特集「大強度陽子加速器プロジェクト」
11.5	会誌 56 巻第 11 号, 追悼梁成吉 (生: 1953/11/20, 没: 2001/7/27) 追悼里洋 (生: 1922/4/20, 没: 2001/8/22)
11.10	公開講座「光通信の科学ーケータイとインターネットを支えるものー」(上智大学 10 号館講堂, 講演 4, 聴講 24)
12.5	会誌 56 巻第 12 号, 小特集「X 線天文衛星「あすか」
ー	第 57 期会長長岡洋介 (01.9.1~02.8.31)
○	ノーベル物理学賞・コーネル, ケターレ, ワイマン, 「アルカリ金属原子の希薄気体でのボース・アインシュタイン凝縮の実現, および凝縮体の性質に関する基礎的研究」
○	ボルツマン賞・川崎恭治
○	文化勲章・井口洋夫
○	文化功労者・小林誠, 益川敏英

物理学会関係

2002(平成 14)

3.16	第 74 回通常総会 (機械振興会館, 会員数 18,228, 代議員数 146) 会長選挙 第 59 期会長潮田資勝
3.24~3.27	第 57 回年次大会 (立命館大学びわこ・くさつキャンパス) 講演数 3913, 参加登録者数 5126 総合講演 (びわ湖ホール) 1 人と光の関わりから教育と研究を考える 霜田光一 2 高分子科学の発展と導電性高分子 白川英樹 第 7 回論文賞表彰式 (びわ湖ホール)
4.5	会誌 57 巻第 4 号, 追悼伊原英雄 (没: 2002/1/30)
5.5	会誌 57 巻第 5 号, 「分析結果報告 I 女性物理学者の研究環境」
7.29~7.30	科学セミナー「ポーズ・アインシュタイン凝縮から高温超伝導へ—超流動, 超伝導の新しい世界—」(東京都江戸川区総合区民ホール, 講演 11, 聴講 162)
8.5	会誌 57 巻第 8 号, 分析結果報告 II 家庭と仕事 会誌 57 巻第 8 号, 追悼鈴木秀次 (没: 2002/4/13)
9.5	会誌 57 巻第 9 号, 分析結果報告 III 女性物理学者の研究活動
9.6~9.9	2002 年秋季大会 (立教大学池袋キャンパス) 素粒子等, 講演数 717, 参加登録者数 920
9.13~9.16	2002 年秋季大会 (中部大学) 物性等, 講演数 2992, 参加登録者数 3543
10.5	会誌 57 巻第 10 号, 追悼川村肇 (没: 2002/8/5)
11.2	公開講座「超低温気体のポーズ・アインシュタイン凝縮—物質の粒子性と波動性」 (東京大学教養学部 13 号館 1313)
12.5	会誌 57 巻第 12 号, 追悼崎田文二 (生: 1930, 没: 2002/8/31) 単行書『21 世紀, 物理はどう変わるか』2002 年豪華房より刊行
—	第 58 期会長北原和夫 (2002.9.1~2003.8.31.)
○	ノーベル賞物理学賞・デイヴィス, 小柴昌俊「宇宙ニュートリノ検出における先駆的貢献」, ジャコニ, 「宇宙における X 線源の発見」
○	文化功労者・戸塚洋二・外村彰

物理学会関係

2003(平成 15)

2.-	会誌 58 巻第 2 号小特集「小柴昌俊博士ノーベル物理学賞受賞記念」
3.5	会誌 58 巻第 3 号, 追悼高山一郎(没:2002/12/13)
3.28	第 75 回通常総会(機械振興会館, 会員数 18,815, 代議員数 144) 会長選挙 第 60 期会長和達三樹
3.28~3.31	第 58 回年次大会(東北学院大学土樋キャンパス・東北大学川内キャンパス) 講演数 3933, 参加登録者数 5168 総合講演(仙台国際センター) 1 量子論と半導体先端技術—超格子など半導体量子構造の発展 江崎玲於奈 2 ニュートリノ天体物理学の誕生 小柴昌俊 第 8 回論文賞表彰式(仙台国際センター)
4.5	会誌 58 巻第 4 号, 追悼若谷誠宏(没:2003/1/9)
5.5	会誌 58 巻第 5 号, 特集「ニュートリノの物理—小柴昌俊氏のノーベル物理学賞受賞を記念して—」 追悼松本元(生:1940/11/24, 没:2003/3/9)
6.5	会誌 58 巻第 6 号, 談話室特集「ジャコーニと日本の X 線天文学」
8.5	会誌 58 巻第 8 号, 新著紹介小特集「物理入門書の紹介」大学初年級教科書
8.22~8.23	科学セミナー「宇宙を見る新しい目」(東京大学弥生講堂・一条ホール, 講演 10, 聴講 181)
9.5	会誌 58 巻第 9 号, 新著紹介小特集「物理入門書の紹介」計算機から導く物理の教材
9.9~9.12	2003 年秋季大会(宮崎ワールドコンベンションセンター・サミット立教大学池袋キャンパス) 素粒子等講演数 770 参加登録者数 970
9.20~9.23	2003 年秋季大会(岡山大学) 物性等講演数 3084 参加登録者数 3756
10.5	会誌 58 巻第 10 号, 新著紹介小特集「物理入門書の紹介」実験から導く物理の教材
10.18	定款規則改訂(事務所移転関連)
10.18	第 76 回臨時総会(事務所移転:機械振興会館, 会員数 18,135, 代議員数 137)
10.25	公開講座「カーボン原子があやなすナノの世界」(中央大学理工学部 5 号館 5533 号室, 講演 3, 聴講 118)
11.5	会誌 58 巻第 11 号, 新著紹介小特集「物理入門書の紹介」一般啓蒙書・エッセイ等
11.25	事務局新橋移転:港区新橋 5-34-3 栄進開発ビル 5 F
12.5	会誌 58 巻第 12 号, 追悼菊池良一(生:1919/12/25, 没:2003/9/19) 追悼河原林研(没:2003/9/28) 単行書『ボース・アインシュタイン凝縮から高温超伝導へ』2003 年日本評論社より刊行
—	第 59 期会長潮田資勝(2003.9.1-2004.8.31.)
○	ノーベル物理学賞・アプリコンフ, ギンズブルク, レゲット, 「超伝導・超流動の理論に対する先駆的貢献」
○	ベンジャミン・フランクリン・メダル・小柴昌俊
○	文化勲章・西島和彦
○	文化功労者・飯島 澄男, 伊藤清, 近藤 淳, 末松安晴

物理学会関係

2004(平成 16)

1.-	世界物理年ワーキンググループ設置
1.5	会誌 59 巻第 1 号, 会誌特集「世界物理年」 月号 1 ページ 2004.1-2006.3
3.27	第 77 回通常総会 (機械振興会館, 会員数 18,135, 代議員数 137) 会長選挙 第 61 期会長佐藤勝彦
3.27~3.30	第 59 回年次大会 (九州大学箱崎キャンパス) 講演数 4071 参加登録者数 5230 総合講演 (福岡市民会館) <ol style="list-style-type: none">1 The present status of KPS activities and physics in Korea Chung-Nam Whang (韓国物理学会長)2 第二世代の出現 西島和彦3 「理科離れ」社会から「安心・安全・信頼」社会への科学者の役割 北原和夫 第 9 回論文賞表彰式 (福岡市民会館)
4.5	会誌 59 巻第 4 号よりシリーズ「物理教育は今」連載開始
5.5	会誌 59 巻第 5 号, 追悼星埜禎男 (没: 2004/2/17)
8.5~8.6	科学セミナー「アインシュタインと 21 世紀の物理学— 2005 年世界物理年へ向けて」(牛込筆筒区民ホール, 講演 10, 聴講 266)
9.-	会誌 59 巻第 9 号, 小特集「日本からの情報発信に向けて—物理系英文誌の役割と改革—」
9.12~9.15	2004 年秋季大会 (青森大学) 物性等, 講演数 3078, 参加登録者数 3656
9.27~9.30	2004 年秋季大会 (高知大学朝倉キャンパス) 素粒子等, 講演数 788, 参加登録者数 928
10.5	会誌 59 巻第 10 号, 追悼フランス・クリック (生: 1916/6/8, 没: 2004/7/28) 追悼中野堇夫 (没: 2004/8/15)
11.6	公開講座「ニュートリノ—この未知なるものとそれをとりまくもの」(中央大学理工学部 5 号館 5533 号室, 講演 3, 聴講 142)
12.5	会誌 59 巻第 12 号, 追悼今井功 (生: 1914/10/7, 没: 2004/10/24)
-	サイエンス・ドリーム (世田谷区中学生講座) を世田谷区教育委員会と共同ではじめる.
-	第 60 期会長和達三樹 (2004.9.1-2005.8.31.) 単行書『宇宙を見る新しい目』2004 年日本評論社
○	ノーベル物理学賞・グロス, ポリツァー, ウィルチェック, 「強い総合作用の理論における漸近的自由度の発見」
○	文化勲章・戸塚洋二
○	文化功労者・有馬朗人

物理学会関係

2005(平成 17)

1.5	会誌のサイズが変形 A 4 からスタンダードの A 4 にかわる。 会誌 60 巻第 1 号, シリーズ「日本の物理学 100 年とこれから」連載 (2006 年 3 号まで), 2005 年世界物理年によせて,
2.-	会誌 60 巻第 2 号, 特集「近藤効果はめぐる—近藤効果 40 周年—」 追悼植村泰忠 (生: 1921/4/18/, 没 2004/11/28)
3.5	会誌 60 巻第 3 号, 追悼小川修三 (生: 1924/5/8, 没: 2005/1/9)
3.24	第 79 回通常総会 (東京理科大学野田キャンパス, 代議員数 143, 2004.12.31 の正会員数 17664) 会長選挙 第 62 期会長長坂東昌子
3.24~3.27	第 60 回年次大会 (東京理科大学野田キャンパス, 講演 3852, 参加登録者数 5057) 総合講演 (野田市文化会館) 1 物理教育はどこへゆくのか 笠耐 2 超伝導の夢を追って 秋光純 第 10 回論文賞表彰式 (野田市文化会館) Jr. セッションをはじめる
5.5	会誌 60 巻第 5 号, 追悼 H.A. Bethe (生: 1906/7/2, 没: 2005/3/6)
6.5	会誌 60 巻第 6 号, 特集「「物理学一般」の世界—今井功先生 90 年の生涯—に寄せて—」
7.5	会誌 60 巻第 7 号, 追悼鎌田甲一 (没: 2005/4/24)
8.5	会誌 60 巻第 8 号, 追悼白根元 (生: 1924, 没: 2005/1/16) 追悼高木豊 (生: 1914/7/7, 没: 2005/5/14) 追悼後藤英一 (生: 1931/1/26, 没: 2005/6/12)
8.26~8.27	科学セミナー「21 世紀物理の挑戦—世界物理年から未来へ—」(牛込単筒区民ホール, 講演 10, 聴講 151)
9.5	会誌 60 巻第 9 号, 特集「超重元素の科学とその展望」 追悼牧二郎 (生: 1929/1/10, 没: 2005/5/31)
9.12~9.15	秋季大会 素粒子等 (大阪市立大学, 参加登録数 707, 講演数 472)
9.12~9.15	第 2 回日米物理学会合同核物理[秋季大会] (リッツ・カールトン・ホテル (ハワイ), 参加登録数 900, 講演数 868)
9.19~9.22	秋季大会 物性等 (同志社大学, 参加登録者数 3676, 講演数 3139)
10.5	会誌 60 巻第 10 号, 追悼能勢修一 (生: 1951/6/17, 没: 2005/8/17)
11.5	会誌 60 巻第 11 号, 追悼 Joseph Rotblat (生: 1908/11/4, 没: 2005/8/31)
11.5	公開講座「奇跡の年から 100 年—アインシュタインの 3 つの理論—」(東京工業大学大岡山キャンパス西 9 号館デジタル多目的ホール, 講演 3, 聴講 202)
12.27	中央教育審議会宛「理数系諸学会からの, 教育課程等教育に対する改革の提案」を提出 (61 巻第 3 号)
—	第 61 期会長佐藤勝彦 (2005.9.1~2006.8.31)
—	世界物理年
○	ノーベル物理学賞・グラウバー, ホール, ヘンシュ, 「光学コヒーレンスの量子理論, レーザーを用いた精密分光学, 光コム技術」
○	ベンジャミン・フランクリン・メダル・南部陽一郎
○	日本学士院賞・榊裕之, 大野英男
○	日本学士院賞・中村卓史
○	朝日賞・蔵本由紀
○	セミナーの記録の出版「アインシュタインと 21 世紀の物理学」(日本評論社, 2005)

物理学会関係

2006(平成 18)

1~10	会誌 61 巻第 1, 2, 3, 5, 8, 10 号, 小特集: 新著紹介小特集「学会誌の記事を広く楽しく読むために」
1-1	会誌 61 巻第 1 号, シリーズ「"ポストドク"問題」開始
2-1	会誌 61 巻第 2 号, 追悼久保謙一(生: 1936, 没 2005/10/28)
3.5	会誌 61 巻第 3 号, 追悼沢田克郎(没: 2005/11/7)
3.27	第 80 回通常総会(愛媛大学, 代議員数 144, 2005.12.31 の正会員数 17335) 会長選挙 第 63 期会長鹿兒島誠一
3.27~3.30	第 61 回年次大会(愛媛大学・松山大学, 参加登録者数 5123, 講演数 3934) 総合講演(県民文化会館) 1 光と磁場でつくる新物質相 十倉好紀 2 物理教育への期待と課題 賢具博義 第 11 回論文賞表彰式(県民文化会館)
4.5	会誌 61 巻第 4 号, 追悼藤井忠男(没: 2005/12/5)
5.5	会誌 61 巻第 5 号, 追悼長尾重夫(生: 1919/1/3, 没: 2005/12/24)
6.5	会誌 61 巻第 6 号, 追悼井上信幸(没: 2006/1/18)
7.5	会誌 61 巻第 7 号, 追悼近藤正夫(没: 2006/3/9) 追悼高木修二(没: 2006/3/22)
8.5	会誌 61 巻第 8 号, 追悼小川岩雄(生: 1921/8/12, 没 2006/6/13)
8.20~8.25	第 17 回磁性国際会議(ICM2006)(京都国際会館)
8.10~8.11	科学セミナー「朝永振一郎と 21 世紀の物理学—量子と時空の生み出す多様性—」 (東京大学弥生講堂・一条ホール, 講義数 11, 聴講者数 169)
8.13~8.18	物理教育国際会議(ICPE2006)(国立オリンピック記念青少年総合センター)
9.5	会誌 61 巻第 9 号, 追悼永宮健夫(生: 1910/6/1, 没 2006/6/3)
9.20~9.23	秋季大会 核物理等(奈良女子大学, 参加登録者数 703, 講演数 498)
9.23~9.26	秋季大会 物性等(千葉大学, 参加登録者数 3721, 講演数 2917)
10.29~11.3	環太平洋合同物理学会(素粒子理論・実験)[秋季大会](シェラトン・ワイキキ・ホテル(ハワイ), 参加登録者数 650, 講演数 550)
11.11	公開講座「新原子・反原子の創造」(東京工業大学大岡山キャンパス西 9 号館デジタル多目的ホール, 講演 3, 聴講 129)
12.-	会誌記事「事務局の現状について」(第 61 巻第 12 号)
12.-	特集: 湯川・朝永生誕 100 年記念(第 61 巻第 12 号)
12.-	「日本物理学会若手奨励賞について」(第 61 巻第 12 号)
12.-	日本物理学会若手奨励賞の設置
-	第 62 期会長坂東昌子(2006.9.1~2007.8.31)
○	ノーベル物理学賞・マザー, スムート, 「宇宙マイクロ波背景放射の黒体性と異方性の発見」
○	日本学士院賞・鈴木厚人
○	Bruno Pontecorvo 賞・鈴木厚人
○	セミナーの記録の出版「物理学の挑戦」(日本評論社, 2006)

物理学会関係

2007(平成 19)

1.5	会誌 62 巻第 1 号, 追悼 J. S. Koehler (没: 2006/6/19)
2.5~5.-	会誌 62 巻第 2, 3, 5 号, 新著紹介小特集「学会誌の記事を広く楽しく読むために」 会誌 62 巻第 2 号, 追悼小平治郎 (没: 2006/9/16)
3.5	会誌 62 巻第 3 号, 追悼本間三郎 (生: 1935/9/4, 没: 2006/12/15)
3.18~3.21	春季大会 物性等 (鹿児島大学, 参加登録者数 4253, 講演数 3286)
3.25~3.28	春季大会 素粒子等 (首都大学東京, 参加登録者数 1192, 講演数 807)
3.30	第 81 回通常総会 (日本物理学会会議室, 代議員数 145, 2006.12.31 の正会員数 17225) 会長選挙 第 64 期会長二宮正夫
4.5	会誌 62 巻第 4 号, 「物理学会の事務体制と財政改革の取り組み」 追悼小口武彦 (生: 1925, 没: 2006/12/30)
5.5	会誌 62 巻第 5 号, 追悼中村誠太郎 (生: 1913/2/27, 没: 2007/1/22)
6.3~6.8	原子核物理国際会議 INP2007 (東京国際フォーラム) 主催: 日本物理学会, 日本学術 会議, IUPAP
7.5	会誌 62 巻第 7 号, 追悼望月和子 (生: 1928/8/7, 没: 2007/2/22)
7.10	「日本物理学会行動規範」の策定
8.5	会誌 62 巻第 8 号, 追悼 P.-G. de Genne (生: 1932/10/24, 没: 2007/5/18)
8.10~8.11	科学セミナー「先端光科学が生み出す新しい世界」(電気通信大学, 講演 10, 聴講 85)
8.24	第 82 回臨時総会 (日本物理学会会議室, 代議員数 145)
9.5	会誌 62 巻第 9 号, 追悼伊藤大介 (没: 2006/8/21)
9.21~9.24	第 62 回年次大会 (北海道大学, 参加登録者数 5394, 講演数 4135) レビューセッション (札幌コンベンションセンター) (総合講演に代わり開催) 第 12 回論文賞表彰式 (札幌コンベンションセンター)
10.5	会誌 62 巻第 10 号, 小特集「アルダー転移 50 周年」
10.27	公開講座「物理が解き明かす脳のひみつ」(東京大学駒場キャンパス大学院数理科学研究科 棟大講義室, 講演 3, 聴講 90)
12.5	会誌 62 巻第 12 号, 小特集「LHC 実験が始まる」 追悼藤坂博一 (没: 2007/8/21)
-	第 63 期会長鹿児島誠一 (2007.9.1~2008.8.31)
○	ノーベル物理学賞・フェール, グリュンベルク, 「巨大磁気抵抗効果の発見」
○	ベンジャミン・フランクリン・メダル・戸塚洋二

物理学会関係

2008(平成 20)

1. - JPSJ においてオープンセレクトを始める。
1. 5 会誌 63 巻第 1 号, シリーズ「ポストドク問題」(文部科学省のキャリアパス事業と物理学会の取り組み)
2. 5 会誌 63 巻第 2 号, 小特集「すばる望遠鏡で探る宇宙」,
シリーズ「ポストドク問題」(世界のポストドク政策)
3. 5 会誌 63 巻第 3 号, シリーズ「物理教育は今」小特集(小学校学習指導要領理科について)
シリーズ「ポストドク問題」(地球惑星科学分野におけるポストドク実態調査レポート)
追悼慶伊富永(生:1920, 没:2007/9/20)
- 3.22 日本数学会・日本物理学会合同講演会(近畿大学)。
- 3.23 第 83 回通常総会(近畿大学, 代議員数 149 名, 2007.12.31 の正会員数 7396)
会長選挙 第 65 期会長大貫惇睦
- 3.23~3.26 第 63 回年次大会(近畿大学, 講演数 3737, 参加登録者 5322)
総合講演
1 国民の科学力とはなにか? 科学オリンピック, 科学リテラシー等の世界的動向と課題 北原和夫
2 高エネルギー物理学の展開とその推進 鈴木厚人
第 13 回論文賞表彰式
4. 1 物理学会, 応物学会が共同運営する「物理系学術誌刊行センター」が発足。
4. 5 会誌 63 巻第 4 号, シリーズ「物理教育は今」(初等理科の支援と SCOT 事業)
追悼 Wolfgang Panofsky(生:1919/4/24, 没:2007/9/24)
5. 5 会誌 63 巻第 5 号, シリーズ「物理教育は今」小特集(日本の理科教育の現状と問題点)
シリーズ「ポストドク問題」(放射線医学への思い)
追悼 Julius Wess(生:1934/12/5, 没:2007/8/8)
6. 5 会誌 63 巻第 6 号, シリーズ「ポストドク問題」(ある非常勤講師の場合)
追悼 Frederick Seitz(生:1911/7/4, 没:2008/3/2)
- 6.9~6.11 茅コンファレンスー最終章「21 世紀物性科学の展望」
7. 5 会誌 63 巻第 7 号, シリーズ「物理教育は今」(ある高校生からの問いかけ)
シリーズ「"ポストドク"問題」(ポストドクからポストポストドクへ)
追悼 Sidney Coleman(生:1937/3/7, 没:2007/11/18)
追悼 John Archibald Wheeler(生:1911/7/9, 没:2008.4.13)
- 7.21~7.25 11th International Conf. on Muon Spin Rotation, Relaxation and Resonance (Tsukuba)
8. 5 会誌 63 巻第 8 号, シリーズ「"ポストドク"問題」(素粒子論から環境問題への転身体験記)
追悼平林洋美(没:2008/4/11)
会告「事務局体制と財政の改革の現状」(2007 年度収支決算の黒字化)
JPSJ だより (JPSJ のインパクトファクターが 2.212 に上昇)
- 8.23~8.24 科学セミナー「越境する科学」(東京大学駒場キャンパス 18 号館ホール, 講演 10, 聴講 170)
- 8.23~8.31 第 21 回国際結晶連合会議(大阪)
- 8.29 第 84 回臨時総会(物理学会会議室) 代議員総数 149 「2008 年度事業計画および収支予算の変更」
9. 5 会誌 63 巻第 9 号, シリーズ「"ポストドク"問題」(医学物理士への道)
追悼 Edward Norton Lorenz(生:1917/5/23, 没:2008/4/16)
追悼伏見康治(生:1909/6/29, 没:2008/5/8)
追悼野上耀三(生:1918, 没:2008/6/12)
追悼戸塚洋二(生:1942/3/6, 没:2008/7/10)
- 9.20~9.23 2008 秋季大会(山形大学, 素粒子等, 講演数 747, 参加登録者数 1147).
市民科学講演会 佐藤勝彦「宇宙の誕生と未来ーわれわれはどこから来てどこへ行くのかー」
- 9.20~9.23 2008 秋季大会(岩手大学, 物性等, 講演数 3058, 参加登録者数 3873).
10. 5 会誌 63 巻第 10 号, 特集「線形応答理論から 50 年ー非線形・非平衡の物理学」。
追悼 Willis Lamb(生:1913/6/12, 没:2008/5/15)
- 10.8~10.10 第 3 回 IUPAP 国際会議 Women in Physics (ソウル)

物理学会関係

10.25	公開講座「量子力学による情報技術の革命—波動力学から量子暗号・量子コンピューターへ—」(東京大学駒場キャンパス大学院数理科学研究科棟大講義室, 講演3, 聴講114)
11.5	会誌63巻第11号, シリーズ「"ポストク"問題」(博士課程から企業へ) 追悼関一彦(没:2008/6/30) 回顧小島昌治(没:2007/1/18)
11.25~11.28	第4回ガラス物理の統一概念国際会議(京都大学芝蘭会館).
12.5	会誌63巻第12号, 小特集「物性研究所とその全国共同利用の50年の歩み」.
—	第64期会長二宮正夫(2008.9.1-2009.8.31)
○	ノーベル物理学賞・南部陽一郎, 小林誠, 益川敏英「素粒子物理学における自発的な対称性の破れの研究」
○	文化勲章・小林誠, 益川敏英
○	文化功労者・霜田光一, 榊裕之
○	ヘルムホルツ・フンボルト研究賞・菅滋正「バルク敏感光電子分光による固体物理解研究」

物理学会関係

2009(平成 21)

1.5	会誌 64 巻第 1 号, シリーズ「"ポストドク"問題」(キャリアパス拡大イベントへの関わりから内定までの道のり), 追悼小出昭一郎(生:1927/3/25, 没:2008/8/30)
2.5	会誌 64 巻第 2 号, 特別企画「南部陽一郎, 小林誠, 益川敏英 3 博士ノーベル物理学賞受賞記念」, 追悼 Anatoly Zhabotinsky (生:1938/1/17, 没:2008/9/16), 追悼真木和美(生:1936/1/27, 没:2008/9/10)
3.5	会誌 64 巻第 3 号, シリーズ「物理教育は今」(文化系のための自然科学総合実験, 教員免許更新制をめぐる動向), 追悼佐々木互(没:2008/12/11)
3.27	第 85 回通常総会(立教大学, 代議員数 147 名, 2008.12.31 の正会員数 17063)
3.27~3.30	会長選挙 第 66 期会長永宮正治 第 64 回年会(立教大学, 講演数 3945, 参加者数 5890). ノーベル物理学賞受賞記念講演会 益川敏英, 小林誠「サイエンスへの限りない好奇心」 レビューセッション 第 14 回論文賞表彰式
4.5	会誌 64 巻第 4 号, 特集「電子状態の第一原理計算の現状と課題」, 追悼中嶋貞雄(生:1923/6/4, 没:2008/12/14).
5.5	会誌 64 巻第 5 号, 小特集「伏見康治の世界を眺める—通り過ぎたあとに遺して行ったこと—」
6.5	会誌 64 巻第 6 号, シリーズ「ポストドク問題」(物理学を生かす異業種・異分野進出の勧め). 追悼西島和彦(生:1926/10/4, 没:2009/2/15).
7.5	会誌 64 巻第 7 号, シリーズ「物理教育は今」(小・中・高で印象に残る理科授業と理科教員がおかれている現実).
7.19~7.24	第 18 回 2 次元電子系国際会議 / 第 14 回半導体超構造国際会議(神戸)
8.5	会誌 64 巻第 8 号, 追悼松井隆幸(没:2009/4/11)
9.5	会誌 64 巻第 9 号, 追悼井口道生(生:1933/7/6, 没:2009/6/4)
8.21~8.25	第 54 回物性若手夏の学校
8.22~8.23	科学セミナー「環境・エネルギー問題へ発信する基礎科学」(東京大学駒場キャンパス 18 号館ホール, 講演 10, 聴講 138)
9.10~9.13	2009 年秋季大会(素粒子等, 甲南大学岡本キャンパス, 講演数 561, 参加者数 830). 市民科学講演会 佐藤文隆「21 世紀の科学」, 益川敏英「現代社会の中の科学」
9.25~9.28	2009 年秋季大会(物性等, 熊本大学黒髪キャンパス, 講演数 3710, 参加者数 4030). 市民科学講演会 飯島澄男「見ることから科学は始まる—カーボンナノチューブの発見」, 鹿島島誠一「あらゆるシーンで活躍する基礎科学—物理学の視点から」
10.5	会誌 64 巻第 10 号, 小特集「みぢかなモノ「ウゴキ」・「カタチ」
11.5	会誌 64 巻第 11 号, 小特集「鉄系超伝導体」, 追悼豊田利幸(生:1920/5/12, 没:2009/5/15), 「研究経費の競争原理強化による教育研究環境の変化」会員アンケート結果まとまる.
11.7	公開講座「暗黒の宇宙を探る」(東京大学駒場キャンパス大学院数理学研究科棟大講義室, 講演 3, 聴講 162)
12.5	会誌 64 巻第 12 号, 小特集「湯浅年子生誕 100 年」 シリーズ「"ポストドク"問題」(やりがいのある仕事へ) 「研究経費の競争原理強化による教育研究環境の変化」会員アンケート結果 II, 追悼太田忠之(生:1942/1/30, 没:2009/8/3)
—	第 65 期会長 大貫惇陸(2009.9.1-2010.8.31)
○	ノーベル物理学賞・カオ, 「光通信用ファイバー中の光伝達に関する業績」, ボイル, スミス, 「CCD センサーの発明」
○	恩賜賞・日本学士院賞 江口徹, 藤原賞 細野秀雄

物理学会関係

2010(平成 22)

1.5	会誌 65 巻第 1 号, シリーズ「“ポストドク”問題」(研究資金配分機関の仕事と役割・アカデミアから行政へ)
3.20	第 86 回通常総会(岡山大学, 代議員数 145 名, 2009.12.31 の正会員数 17,039)
3.20~3.23	会長選挙 第 67 期会長倉本義夫 第 65 回年次大会(岡山大学, 講演数 4128, 参加登録者数 5713) 総合講演(岡山県桃太郎アリーナ) 滝川洋二「仕分けられて良いのか? 物理学, 基礎科学, 科学教育」 Young Pak Lee, “Korean Physical Society and quantum photonic science in Korea” 第 15 回論文賞表彰式(岡山県桃太郎アリーナ)
4.5	会誌 65 巻第 4 号, シリーズ「“ポストドク”問題」(ポストドク問題: 大学の論理, 企業の論理・東京大学 G-COE 集中講義報告)
5.5	会誌 65 巻第 5 号, シリーズ「物理教育は今」(第 5 回ジュニアセッションの報告) シリーズ「“ポストドク”問題」(素粒子物理学から経済物理学へ)
6.5	会誌 65 巻第 6 号, シリーズ「物理教育は今」(工学の 2 つのカテゴリ) シリーズ「“ポストドク”問題」(物理系ポストドクの実態調査 I—「研究者のキャリア支援に関する調査」アンケート 二次調査報告—) 追悼林忠四郎(生: 1920/7/25, 没: 2010/2/28)
7.5	会誌 65 巻第 7 号, シリーズ「“ポストドク”問題」(物理系ポストドクの実態調査 II—「研究者のキャリア支援に関する調査」アンケート 二次調査報告—) 追悼高橋義幸(生: 1947, 没: 2010/3/12)
8.5	会誌 65 巻第 8 号, シリーズ「“ポストドク”問題」(物理系ポストドクの実態調査 III—「研究者のキャリア支援に関する調査」アンケート 二次調査報告—) 追悼恒藤敏彦(生: 1930/8/10, 没: 2010.4.14) 追悼並木美喜雄(生: 1925/11/18, 没: 2010/4/21)
8.7~8.11	第 55 回物性若手夏の学校
9.5	会誌 65 巻第 9 号, シリーズ「“ポストドク”問題」(物理学の新たな研究領域を開拓せよ・物理系ポストドクの実態調査 IV—「研究者のキャリア支援に関する調査」アンケート 二次調査報告—)
9.11~9.14	2010 年秋季大会(素粒子等, 九州工業大学, 講演数 876, 参加登録者 1,222)
9.23~9.26	2010 年秋季大会(物性等, 大阪府立大学, 講演数 3124, 参加登録者数 4,167)
10.5	会誌 65 巻第 10 号, 小特集「林忠四郎先生追悼」
11.5	会誌 65 巻第 11 号, 小特集「物理学英文誌刊行の新体制 I」 シリーズ「物理教育は今」(新しい時代に求められる物理教育とはどのようなものか—状況論的学習観からの示唆—)
11.6	公開講座「超伝導からみる科学技術の最先端」(東京大学本郷キャンパス小柴ホール, 講演 3, 聴講 104)
12.5	会誌 65 巻第 12 号, 小特集「物理学英文誌刊行の新体制 II」 追悼豊沢豊(没: 2010/9/6)
—	第 66 期会長永宮正治(2010.9.1~2011.8.31)
○	ノーベル物理学賞・ガイム, ノヴォセロフ, 「2 次元物質グラフェンに関する革新的実験」
○	文化勲章・有馬朗人
○	文化功労者・田中靖郎

物理学会関係

2011(平成 23)

1. - 第7回全国物理コンテスト・第1チャレンジ2011(国際物理オリンピック日本代表団選抜のための国内予選に相当)の実験課題「大気圧を測ってみよう」をHPに掲載し、全国の高校・高専等に発送。実験レポートの締切は5月末日(のち6月15日に延期)。
- 1.5 会誌66巻第1号, 小特集「大強度陽子加速器施設J-PARC~その実現まで~」, 追悼戸田盛和(生:1917/10/20, 没:2010/11/6)。
- 3.5 会誌66巻第3号, 追悼森本雅樹(生:1932/5/14, 没:2010/11/16)。
- 3.25 第88回通常総会(日本物理学会会議室, 代議員144, 2010.12.31の正会員数17,283)
会長選挙 第68期会長家泰弘
- 3.25~3.28 第66回年次大会(新潟大学, 講演4,230, 参加登録者数4,473)は中止。
- 3.30 中止された第66回年次大会で一般講演が成立する条件について文書を送信(会誌66巻第6号, 477-478)。
- 4.5 会誌66巻第4号, 追悼 Shuichi Tasaki (田崎秀一, 生:1958/4/26, 没:2010/6/6),
追悼西川哲治(生:1926/7/7, 没:2010/12/15),
追悼宅間宏(生:1930, 没:2010/12/27)。
- 4.5~4.8 The 4th IUPAP International Conference on Women in Physics (南アフリカ, Stellenbosch)に日本物理学会男女共同参画推進委員会委員の4名が参加。
- 5.5 会誌66巻第5号, 永宮正治「東日本大震災に際して」,
「物理学託児室この10年」,
追悼大塚泰一郎(生:1923, 没:2011/1/5)。
- 6.5 会誌66巻第6号, 「震災被害による会費免除申請」。
- 6.10 「物理学者から見た原子力利用とエネルギー問題」シンポジウムを立教大学において開催。
- 6.11 第89回臨時総会(日本物理学会会議室, 代議員144名)東日本大震災被害者への義捐金抛出の案の承認など。
- 6.19 第7回全国物理コンテスト・第1チャレンジ2011, 理論問題コンテストを開催(全国7か所)。
- 7.5 会誌66巻第7号, 特集「次世代スーパーコンピュータ「京」:動き出した大型プロジェクトの全体像」,
「震災被害による会費免除申請」,
「会長の任期について」会長任期を2013年3月より2年とする提案。
- 7.9 第90回臨時総会(日本物理学会会議室, 代議員144)定款変更の案に関する一部修正・追加の案の承認。
- 7.24 日本物理学会第7回Jr.セッション開催(新潟大学)。第66回年次大会に合わせて3月26日に新潟大学で開催が予定されていたが延期となっていたもの。
- 7.25~7.26 科学セミナー「イメージングの科学」(東京大学弥生講堂一条ホール, 講演10, 聴講162)。
- 8.1~8.4 第41回天文天体物理若手夏の学校開催(愛知県蒲郡市)。
- 8.1~8.5 第56回物性若手夏の学校開催(山梨県富士吉田市)。
- 8.16~8.21 第57回原子核三者若手夏の学校開催(滋賀県高島市)。
- 8.25~8.28 第51回生物物理若手の会夏の学校開催(京都市)。
- 9.1 社団法人→一般社団法人へ移行。
- 9.5 会誌66巻第9号, 小特集「戸田盛和—その物理と人間の魅力—」,
追悼近藤都登(生:1934, 没:2011/5/12)。
- 9.16~9.19 2011年秋季大会素粒子等開催(弘前大学, 講演936, 参加登録者数1,278)。
- 9.21~9.24 2011年秋季大会物性等開催(富山大学, 講演3,225, 参加登録者数3,973)。

物理学会関係

- 10.3~10.5 日独ワークショップ「量子色力学の最近の動向」開催（ドイツ、ベルリン、ドイツ電子シンクロトロン研究所）（会誌 67 巻 2 号, 201-202）.
- 10.5 会誌 66 巻第 10 号, 特集「超伝導発見から 100 年を迎えて」.
- 10.13~10.14 IUPAP Working Group on Communication in Physics 開催（英、ブリストル, Institute of Physics Publications）. 米国物理学会 100 周年の学術出版パネル討論会を契機に IUPAP に設置された会議で, 電子化・オンライン出版が物理ジャーナルに与える影響とその将来を検討し, IUPAP に提言を行う. 物理学会からは植田憲一が参加.
- 11.5 公開講座「透明マントは作れるか—光科学の最先端」（東京大学本郷キャンパス小柴ホール, 講演 3, 聴講 72）
- 11.22~11.25 Plasma Conference 2011 を開催（石川県金沢市, 2011 年秋季大会領域 2 とプラズマ・核融合学会, 応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会の共同開催）.
- 12.5 会誌 66 巻第 12 号, 追悼和達三樹（生：1945/2/10, 没：2011/9/15）.
- 12.31 JPSJ 郵送による投稿受付廃止. 2006 年 6 月より始動したオンライン投稿審査システムを利用した投稿数が直近数年の間 97% に達しているため（会誌 66 巻 9 号, 722）.
- 第 67 期会長 倉本義夫（2011.9.1~2012.3.24）
 - ノーベル物理学賞・パールマター, シュミット, リース「遠方の超新星の観測による宇宙の加速度的膨張の発見」.
 - 朝日賞・香取秀俊「光格子時計に関する研究」
-